

平成 2 1 年度
神戸大学附属図書館年次報告

平成 2 2 年 7 月

編集：神戸大学附属図書館評価委員会

* 附属図書館ホームページにも掲載

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/overview/>

平成 2 1 年度神戸大学附属図書館年次報告

1 . 達成度評価

- (1) 達成度評価特記事項 p . 1
- (2) 達成度評価表 p . 3

2 . 学習・教育支援

- (1) 開館サービス p . 8
- (2) 学生用資料整備 p . 1 0
- (3) 資料提供サービス p . 1 1
- (4) 情報リテラシー教育の推進支援 p . 1 2
- (5) 設備・機器の整備 p . 1 5

3 . 学術研究支援

- (1) 研究用資料の整備 p . 1 7
- (2) 電子的情報基盤の整備 p . 1 9
- (3) 蔵書目録データベースの整備 p . 2 3
- (4) 資料の保存 p . 2 4
- (5) その他の研究支援サービス p . 2 5

4 . 社会連携・情報発信

- (1) 一般市民への資料提供サービス p . 2 7
- (2) 震災文庫 p . 2 8
- (3) 電子図書館システムによる情報発信 p . 2 9
- (4) 機関リポジトリによる情報発信 p . 3 1
- (5) 国際連携 p . 3 3

5 . 管理運営等

- (1) 図書館組織と運営 p . 3 5
- (2) 事務組織と人事管理 p . 3 6
- (3) 予算及び財務会計業務 p . 3 9
- (4) 施設整備・システム整備 p . 4 1
- (5) 図書館界での諸活動 p . 4 3

< 付録 >

基本統計表	p . 4 4
蔵書・受入等の現況（各館室別）	
サービス業務の現況（各館室別）	
電子的情報サービスの現況	
図書館組織図・事務組織図	p . 4 7
附属図書館諸会議（議題一覧、委員名簿）	p . 4 8
附属図書館予算・決算表（運営経費、資料費）	p . 5 4
附属図書館活動日誌	p . 5 6

1. 達成度評価

(1) 達成度評価特記事項

項目	「業務運営の改善及び効率化」
特記事項	該当なし
項目	「財務内容の改善」
特記事項	該当なし
項目	「自己点検・評価及び情報提供」
特記事項	<p>(年次報告書の拡充と利用者ニーズ・満足度調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成19年度年次報告書に引き続いて平成20年度版を作成しホームページで公開した。平成20年度版は、各活動の記載内容を拡充したほか、達成度評価を掲載、部局予算決算、図書館統計等の評価指標データを充実した。 <p>また、利用者ニーズや利用者満足度を測る手段のひとつとして、平成21年度は、附属図書館利用者アンケート調査を学生を対象として全学的に実施し(平成22年1～2月)、1,646名(全学生の9.8%)から回答を得た。調査結果の集計及び分析を行い、報告書を作成し、図書館HPから公開した。他に、学生と館長との懇談会を2月15日に社会科学系図書館において開催し、大学院生10名の参加があった。</p>
項目	「その他業務運営に関する重要事項」
特記事項	<p>(職員の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学外の各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題(漢籍・古典籍・医学等)に関わる研修に多数職員を派遣した。また、学内では人文学研究科の古文書研修を職員に受講させた。その研修成果は、報告書の提出や報告会の開催等の義務付けにより他の職員の能力開発に役立てるとともに、日常業務のレベルアップや1年次必修科目「情報基礎」での図書館サービスの概説担当などの業務に生かされている。特に今年度は、西洋古典資料保存講習会に参加した職員を講師として、9月に洋装古典籍修復の講習会を図書館職員を対象として実施した。 また、職員に海外の先進図書館を調査・研究させ、業務に活かすとともに職員の育成を推進するため、その一環として平成20年度国立大学図書館協会海外派遣事業に応募し、選抜された本学職員をイリノイ大学モートンソンセンターに平成20年9月から8週間の研修プログラムで派遣し、研修成果は今年度の「大学図書館研究」への雑誌投稿や国立情報学研究所主催の大学図書館職員短期研修の講師等により発揮されている。 <p>(社会科学系図書館の設備整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会科学系図書館本館及び管理棟の空調設備は1981年に設置され、経年劣化により故障が頻発し、費用対効果や冷暖房効果が著しく低下して、利用者の閲覧・学習環境及び業務にも支障をきたしている状況であったが、夏季休業中に実施した設備の更新により快適な閲覧・学習環境や執務環境が提供できるとともに、ボイラー暖房の廃止が実現し、燃料消費による二酸化炭素排出量が削減でき、地球環境問題・温暖化にも貢献できた。 また、社会科学系図書館の大閲覧室は、昭和初期の建築様式を今に伝えるステンドグラスと高い天井を持ち、独特の雰囲気を生み出す空間であるが、昭和8年に設置された大型閲覧机(30台)の劣化が著しく、利用者に不便を強いていたが、今年度補修することができ、利用者の閲覧・学習環境を大幅に改善することが可能となった。 <p>(総合・国際文化学図書館の集密書架増設)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合・国際文化学図書館は、約50万冊(平成21年3月現在)の蔵書を持つ総合及び専門図書館であるが、館内の図書収容力は32万冊ほどしかなく、図書収容の限界を超えており、図書収容力の増強が喫緊の課題となっている。建物改修に伴う施設整備による平成20年度の3階への電動式集密書架(約17,000冊収納)の新設に続き4階に電動式集密書架(約2万冊収納)を増設し、これにより収容力の若干の改善が実現した。

項目	「教育研究等の質の向上」
特記事項	<p>(学生用資料整備の進展)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成21年度当初予算で図書館学生用資料費(64,500千円)が配分され、各館室の学生用資料の整備を継続することができた。特に、授業に関連した学生用資料の充実を図った。全体計画である「学生用資料整備計画大綱」に基づき、各館室の図書委員会が、目的、資料の範囲、財源及び選定方法を記した整備計画を策定し実施した。 なお、選書及び利用状況に係る各館室に共通的な新たな分析・評価のフォーマットを作成した上で、平成20年度に整備した学生用図書を対象に分析・評価を実施し、平成21年度の附属図書館運営委員会で報告・協議を行った。 また、シラバスに掲載されたテキスト・参考資料等の書誌情報3,602件を取り出し、未所蔵分は新たに購入、OPACとリンク付けし、図書館HPから「シラバス掲載資料」として公開している。 さらに、学習の手引きとなる図書や在学中に是非読んで欲しい図書などを紹介する「先生からのおすすめ本」の充実を図るため、共通教育部会構成教員や附属図書館運営委員等を対象に、推薦図書の執筆依頼を行い、ホームページ上に「おすすめ本」として掲載した。 <p>(研究支援機能の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> 附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の整備方策」を受けて、平成19年度から平成21年度まで電子ジャーナルなどの全学共同利用する教育研究基盤資料について部局拠出分を含む全学経費(上限3億円)が措置されることになり、平成21年度は、3億円が予算措置され、約13,400誌の電子ジャーナルと29種のデータベースを全学に提供している。併せて、各館室で備え付けるべき高額図書(1セット10万円から500万円まで)を整備した(20点2千万円)。更に、学長戦略経費の配分により、電子ジャーナル及びデータベースのバックファイルの導入が実現した。 なお、平成20年度に開催した附属図書館審議会において、第二期中期目標期間中の教育研究基盤資料について新たな維持・整備方針が策定・答申され、その結果を受け、附属図書館運営委員会で新規導入する電子ジャーナル及びデータベースが選定され、平成22年度は財源として約2億9千万円が措置され、平成23年度の財源も確保される見込みである。 また、学術情報資源へのアクセスの利便性を高めるために、リンクリゾルバ(データベース等の論文情報から電子ジャーナル等の本文への直接アクセス、オンライン蔵書目録(OPAC)等へのリンク及び文献複写申込みまでの学術情報入手の一連の流れを統合的にナビゲートするツール)による学術情報環境の利用促進を図り、着実に利用を増加させた。 <ul style="list-style-type: none"> 学内研究成果については、「神戸大学学術成果リポジトリ」として、コンテンツの充実を図り、登録論文数は7月に1万件を超え、平成21年度は累計12,682件となった。公開論文全体の月間平均ダウンロード数は約28,000回に増大し(平成20年度の平均約16,000回)、学内研究成果の発信機能強化に貢献している。博士学位論文要旨集の遡及電子化は完了した。神戸大学研究者紹介システムKUIDにおいてもKernelに登録された研究成果が一覧できるように、相互リンクを付与する作業を続けている。 また、Kernel通信 第4号を発行し、Kernelの運用状況等を学内外に公開するとともに、登録1万件目の論文および年間ダウンロード1位の論文の著者にそれぞれ行ったインタビューを公開することにより、神戸大学の学術成果の広報に努めた。更に、遺跡資料リポジトリ事業に参画し、兵庫県遺跡資料の収集・登録に向けて関係機関と協議の上、資料の電子化を行うとともに、兵庫県大学図書館協議会の「機関リポジトリ支援のためのWG」の活動に参加し、6回の会議において協議会加盟館への支援方法を検討した。 <p>(地域市民への資料公開等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の附属図書館展示会は「資料が語る 阪神・淡路大震災の記憶と現在(いま)」をテーマに、「人と防災未来センター」と連携して平成21年10月9日から平成22年1月22日まで震災に関する資料を合同展示した。併せて講演会も11月に合同で実施した。 本学の展示場所は、社会科学系図書館2階、閲覧室への通路となっている「連絡通路展示コーナー」と「震災文庫室」において実施した。卒業生が来学される10月31日の神戸大学ホームカミングデーには約140名の来観者があり、また、「人と防災未来センター」を会場に行った合同講演会には約50名の市民の参加があった。 なお、展示品目録はデジタル化し、図書館ホームページから公開している。 図書館展示会のページ http://www.lib.kobe-u.ac.jp/www/html/tenjikai/2009tenjikai/2009tenji.html また、人と防災未来センターとの間で構築・運用している震災関係資料の横断検索システムのデータ更新を継続した。

(2) 達成度評価表

平成21年度附属図書館の活動総括として、附属図書館年次計画に対する達成度自己評価表を示す。

全学期中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)	附属図書館年次計画	自己 評価	自己評価判断理由
<p>大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(4)教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>教育設備、図書館、情報ネットワーク等の活用・整備の具体的方策</p> <p>・全学共通教育等の実施に必要な図書館機能を整備するとともに、教養・専門図書、映像音響資料等の学生用資料を充実させる。</p>	<p>・総合図書館開架閲覧室の書架・閲覧席配置見直しなど、全学共通教育科目履修生の学習環境改善を図る。(H17-21)(附属図書館)</p> <p>・各図書館室で不足または老朽化している家具類(閲覧机、閲覧椅子、書架等)、視聴覚機器、情報端末、無断持ち出し防止装置、自動貸出装置等を計画的に整備する。(H17-21)(附属図書館)</p> <p>・各館室において、閲覧・学習環境の改善を図る(既設スペースの有効活用による閲覧室の拡張、図書収容力の増加、空調設備の更新等)。(H17-21)(附属図書館)</p> <p>・全学共通教育に対応する総合図書館、及び専門教育を支援する各専門図書館・分館において、学部学生に必要な教養・専門図書(シラバス掲載図書を含む)を幅広く(網羅した系統的な資料収集に努めるとともに、利用状況の分析および収集資料の評価を継続する。(H19-21)(附属図書館)</p>		<p>平成21年度、総合図書館の学習環境改善として以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電動式集書架の増設 ・大型本収納棚の更新 ・貴重書収納保管庫の増設(3台) ・利用案内サインの見直し ・防犯カメラ装置の増設 <p>平成21年度、各図書館室の設備備品整備として以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラ装置の設置(人間科学図書館、保健科学図書室、海事科学分館) ・マイクロリターゲープリンターの新設(人間科学図書館) ・貴重書収納保管庫の設置(海事科学分館) ・閲覧用書架の増設(自然科学系図書館、保健科学図書室) ・視聴覚資料収納棚の増設(人間科学図書館、医学分館、海事科学分館) ・閲覧机、閲覧椅子の増設(医学分館、保健科学図書室、海事科学分館) ・コイン式ロッカーの設置(人文科学図書館、人間科学図書館、海事科学分館) ・新聞保管棚の更新(医学分館、海事科学分館) ・書架サインの増設(人間科学図書館) ・利用者用パソコンの更新(医学分館) ・防犯カメラ表示サインの設置(社会科学系図書館、総合・国際化学図書館、自然科学系図書館、人文科学図書館、人間科学図書館、保健科学図書室、医学分館、海事科学分館) <p>平成21年度、各図書館室の閲覧学習環境の改善として以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本館及び管理棟の空調設備更新(社会科学系図書館) ・大閲覧室の閲覧機の補修(社会科学系図書館) ・外壁タイル剥落部分補修工事(社会科学系図書館、自然科学系図書館) ・書庫(A棟、B棟)及び管理棟のエレベーター改修工事(社会科学系図書館) ・屋上防水工事(保健科学図書室) <p>・全体計画である「学生用資料整備計画大綱」に基づき、各館室の図書委員会が、目的、資料の範囲、財源及び選定方法を記した整備計画を策定し実施した。</p> <p>・平成21年度当初予算で図書館学生用資料費(64,500千円)が配分され、各館室の学生用資料の整備を継続した。特に、授業に関連した学生用資料の充実を図った。また、シラバスに掲載されたテキスト・参考資料等の書誌情報約1,304件を取り出し、未所蔵分は新たに購入、OPACとリンク付けし、図書館HPから「シラバス掲載資料」として公開した。</p> <p>・選書及び利用状況に係る各館室に共通的な新たな分析・評価のフォーマットを作成した上で、平成20年度に整備した学生用図書を対象に分析・評価を実施し、平成21年度の附属図書館運営委員会に報告・協議を行った。</p> <p>・学習の手引きとなる図書や在学中に是非読んで欲しい図書などを紹介する「先生からのおすすめ本」を昨年度から附属図書館のホームページ上で公開しているが、充実を図るため、共通教育部会構成教員や附属図書館運営委員会等を対象に、推薦図書の執筆依頼を行い、ホームページ上に「おすすめ本」として掲載した。</p>
<p>(6)学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>学習相談、助言及び支援の組織的対応に関する具体的方策</p> <p>・附属図書館においては、資料提供や情報検索などのサービスの迅速化と高度化を図るとともに、情報教育を積極的に支援する。</p>	<p>・情報リテラシー教育支援体制を強化し、入学段階・教養教育・学部専門教育といったレベルや、専門分野を考慮した、きめ細かなオリエンテーション、ガイダンスを実施する。(H16-21)(附属図書館)</p> <p>・図書館ホームページの改訂、図書館メールマガジンの発行などICT技術の活用により、学生に対する情報提供や広報活動を強化する。(H19-21)(附属図書館)</p> <p>・電子的学習資料の提供、Web情報資源情報の拡充など、自学自習のための窓口(ポータル)機能を充実する。(H19-21)(附属図書館)</p> <p>・全学の図書目録選及入力を計画的に推進する。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>・1年次必修科目「情報基礎」における情報リテラシー教育支援は、昨年度から1コマ(90分)に拡大し、WGを構成する各館室の職員が図書館の活用とサービスの概説を延べ24回担当し、全クラス2,643人が受講した。</p> <p>・各館室において新入生オリエンテーション及び館内ツアーを実施した。</p> <p>・附属図書館の前期・後期ガイダンス及び情報検索等の説明会は、各館室において専門分野に対応するデータベースを使用の上、計113回実施し、1,448名が受講した。教員や院生からの要望による「オーダーメイドガイダンス」も年々増える傾向にあり、今年度は14回実施した。</p> <p>・レポートや卒業論文作成に役立つ外部から専門講師を招いたデータベース講習会や日経テレコン21の操作説明会等を、前後期合わせて5回開催した。</p> <p>・学生用のリーフレット版図書館利用案内を全学版と各館室版を作成し配付するとともに、ガイダンス資料もデータベース毎に編集し配付提供した。</p> <p>昨年度に引き続き、学生に対する情報提供や広報活動については、ICT技術を使ったより効果的な方法を検討・実施した。今年度は、「神大図書館NEWS」として、利用希望者にガイダンスの案内や各種図書館サービス等がPCや携帯電話で受け取れるニュース配信を開始した。また、昨年度から実施しているQRコードの利用も継続し、情報が確実に届くよう配慮した。図書館HP(トップページ)は改訂してから1年経過し、さらに利便性を考慮し、よく利用される項目はトップページにもってくる等項目を再編成し、年度始めに合わせてリニューアルした。</p> <p>なお、図書館HP(トップページ)へのアクセス件数は、月平均約64,200件あり、前年度に並ぶ件数となっている。</p> <p>学習用Web版資料(E-Study資料)については、平成21年度から150万円増額し総額で450万円を配分し、新聞記事情報や海外人物情報等サービス内容を拡充した。また、学術情報資源へのアクセスの利便性を高めるために、リンクリソルバ(データベース等の論文情報から電子ジャーナル等の本文への直接アクセス、オンライン蔵書目録(OPAC)等へのリンク及び文献複写申込みまでの学術情報入手の一連の流れを統合的にナビゲートするツール)による学術情報環境の利用促進を図り、着実に利用を増加させた。(利用件数:平成20年度189,335件、平成21年度281,323件、49%増)</p> <p>図書目録選及入力事業を継続し、当初計画の47,000冊を超える48,688冊の入力を達成した。また、国立情報学研究所の総目録データベース選及入力事業に採択され、合わせて51,183冊の入力を達成した。内訳は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合・国際化学図書館及び人文科学図書館中国書(15,000冊)外部委託作業 ・人間科学図書館大西文庫(4,325冊)外部委託作業 ・その他研究室返却資料等(29,363冊)職員作業 ・社会科学系図書館マイクロ資料(2,495点)国立情報学研究所の総目録データベース選及入力事業 <p>平成18年度から実施している平日夜間開館及び土日開館の時間延長を継続した。また、各館室の利用動向を鑑みて、人間科学図書館において平成20年度に開館時間の延長(平日20時までを21時まで)を試行し、その結果を踏まえ、平成21年度から正式に実施した。</p>

<p>全学中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)</p>	<p>附属図書館年次計画</p>	<p>自己 評価</p>	<p>自己評価判断理由</p>
<p>2 研究に関する目標を達成するための措置 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置 研究活動支援のための具体的方策</p> <p>・研究活動の支援のため、教員のみならず、研究支援職員に対する研修等も含め、自発的能力向上のための機会を増やし、また、図書館・学内共同利用施設など機能の充実を図る。</p>	<p>・研究支援職員の能力向上のため、各種研修等の充実を図る。 ・研究支援のために図書館・学内共同教育研究施設等の機能の充実を図る。(H21)</p>		<p>・図書系職員については、各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題(漢籍・古典籍・医学等)に関わる研修に派遣した。 ・附属図書館では、本年度の予算措置(3億円)により、電子ジャーナル(13,400誌)及びデータベース(29種類)の提供及び高額図書の整備(20件)等を行った。また、「学長戦略経費」の配分により、電子ジャーナル及びデータベースのバックアップの導入が実現した。さらに、平成20年度に開催した図書館審議会において、第二期中期目標期間中の教育研究基盤資料について新たな維持・整備方針が策定・答申され、その結果を受け、平成22年度は財源として約2億9千万円が措置され、平成23年度の財源も確保される見込みである。 ・学術情報資源へのアクセスの利便性を高めるために、リンクリソルバ(データベース等の論文情報から電子ジャーナル等の本文への直接アクセス、オンライン蔵書目録(OPAC)等へのリンク及び文献複写申込みまでの学術情報入手の一連の流れを統合的にナビゲートするツール)による学術情報環境の利用促進を図り、着実に増加させた。(利用件数:平成20年度189,335件,平成21年度281,323件,49%増) ・「神戸大学学術成果リポジトリ」のコンテンツを拡充し、累計12,682件の登録をした。また、遺跡資料リポジトリ事業に参画し、兵庫県遺跡資料の収集・登録に向けて関係機関と協議の上、資料の電子化を行った。兵庫県立大学図書館協議会の「機関リポジトリ支援のためのWG」の活動に参加し、6回の会議において協議会加盟館への支援方法の検討を行った。(附属図書館)</p>
<p>(2) 研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置 研究に必要な設備等の活用と整備に関する具体的方策 ・附属図書館においては、電子資料等を含む学術情報の収集と提供、外国雑誌センター機能、他大学等との協同及び電子図書館システムによる情報発信など、研究支援機能の整備・強化を図る。</p>	<p>・専門的情報サービスが行えるよう、専門主題に関する一定の知識及び専門資料に関する知識を持った職員を育成を図るとともに、海外の先進図書館の調査・研究に派遣し、国際化に対応した職員的能力開発を推進する。(H20-21)(附属図書館)</p>		<p>・学外の各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題(漢籍・古典籍・医学等)に関わる研修に多数職員を派遣した。また、学内の国際業務研修や人文科学研究科の古文書研修を職員に受講させた(5名受講、合宿参加者は2名)。その研修成果は、報告書の提出や報告会の開催等の義務付けにより他の職員的能力開発に役立てるとともに、日常業務のレベルアップや1年次必修科目「情報基礎」での図書館サービスの概説担当などの業務に生かされている。 ・西洋古典資料保存講習会(一橋大学で開催)に参加した職員を講師に、9月に洋装古典籍修復の講習会を図書館職員を対象に行った。 ・職員に海外の先進図書館を調査・研究させ、業務に生かすとともに職員の育成を推進するため、その一環として平成20年度に国立大学図書館協会海外派遣事業でイリノイ大学モーションセンターに派遣した本学職員の研修成果は、「大学図書館研究」への雑誌投稿や国立情報学研究所主催の大学図書館職員短期研修の講師等により発揮されている。</p> <p>・附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の整備方策」を受け、平成19年度から平成21年度まで電子ジャーナルなどの全学共同利用する教育研究基盤資料について部局拠出分を含む全学経費(上限3億円)が措置されることになり、平成21年度は、3億円が予算措置され、13,400誌の電子ジャーナルと29種のデータベースを利用できる環境を整備した。併せて、各館室で備え付けるべき高額図書(1セット10万円から500万円まで)を整備した(20点2千万円)。 ・「学長戦略経費」の配分により、電子ジャーナル及びデータベースのバックアップの導入が実現した。 ・平成20年度に開催した附属図書館審議会において、第二期中期目標期間中の教育研究基盤資料について新たな維持・整備方針が策定・答申され、その結果を受け、附属図書館運営委員会で新規導入する電子ジャーナル及びデータベースが選定され、平成22年度は財源として約2億9千万円が措置され、平成23年度の財源も確保される見込みである。 ・学術情報資源へのアクセスの利便性を高めるために、リンクリソルバ(データベース等の論文情報から電子ジャーナル等の本文への直接アクセス、オンライン蔵書目録(OPAC)等へのリンク及び文献複写申込みまでの学術情報入手の一連の流れを統合的にナビゲートするツール)による学術情報環境の利用促進を図り、着実に増加させた。(利用件数:平成20年度189,335件,平成21年度281,323件,49%増)</p> <p>・前年度に引き続き、社会科学系図書館において国内未収の外国雑誌約1,000誌を収集し、全国に文献複写等の情報サービスを実施するとともに、学外からの複写依頼に迅速に対応するため、複写作業の外部委託を継続した。 ・利用サービスの改善を図った点は、以下のとおりである。 平成20年度に引き続き、学内外の利用者への迅速な雑誌所蔵情報提供のために、国立情報学研究所全国総合目録データベースへのデータ更新をほぼ毎日行っている。 平成20年度に引き続き、閲覧の利便性を考え、収納用ボックスファイルを購入し、区分した配架を行っている。</p> <p>・附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の維持・整備方策」を受け、部局拠出分を含む全学経費を確保し、平成21年度は、3億円が予算措置され、各分野の研究基盤として重要な雑誌(電子ジャーナルを含む)及びデータベースを継続的に維持するとともに高額図書の整備(20点)を実施した。 ・「学長戦略経費」の配分により電子ジャーナル及びデータベースのバックアップの導入が実現した。</p> <p>・一次資料(図書・雑誌等)の十分な整備に努める。特に、各専門分野の基幹的部分に欠落が生じないよう、継続的かつ系統的な収集体制を構築する。(H16-21)(附属図書館)</p> <p>・学書の蔵書では満たされない情報要求にも十分応えるため、海外を含めた図書館間相互利用の拡大と、電子的手法を駆使した迅速な提供体制を構築する。(H16-21)(附属図書館)</p>
<p>・一次資料(図書・雑誌等)の十分な整備に努める。特に、各専門分野の基幹的部分に欠落が生じないよう、継続的かつ系統的な収集体制を構築する。(H16-21)(附属図書館)</p>	<p>・電子ジャーナルなどの全学共同利用する研究基盤資料の整備について、厳しい財政状況のもとで持続可能な方策を検討し、学術情報インフラを計画的・安定的に提供する。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>・学術情報資源へのアクセスの利便性を高めるために、リンクリソルバ(データベース等の論文情報から電子ジャーナル等の本文への直接アクセス、オンライン蔵書目録(OPAC)等へのリンク及び文献複写申込みまでの学術情報入手の一連の流れを統合的にナビゲートするツール)による学術情報環境の利用促進を図り、着実に増加させた。(利用件数:平成20年度189,335件,平成21年度281,323件,49%増)</p> <p>・前年度に引き続き、社会科学系図書館において国内未収の外国雑誌約1,000誌を収集し、全国に文献複写等の情報サービスを実施するとともに、学外からの複写依頼に迅速に対応するため、複写作業の外部委託を継続した。 ・利用サービスの改善を図った点は、以下のとおりである。 平成20年度に引き続き、学内外の利用者への迅速な雑誌所蔵情報提供のために、国立情報学研究所全国総合目録データベースへのデータ更新をほぼ毎日行っている。 平成20年度に引き続き、閲覧の利便性を考え、収納用ボックスファイルを購入し、区分した配架を行っている。</p> <p>・附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の維持・整備方策」を受け、部局拠出分を含む全学経費を確保し、平成21年度は、3億円が予算措置され、各分野の研究基盤として重要な雑誌(電子ジャーナルを含む)及びデータベースを継続的に維持するとともに高額図書の整備(20点)を実施した。 ・「学長戦略経費」の配分により電子ジャーナル及びデータベースのバックアップの導入が実現した。</p> <p>・学書の蔵書では満たされない情報要求にも十分応えるため、海外を含めた図書館間相互利用の拡大と、電子的手法を駆使した迅速な提供体制を構築する。(H16-21)(附属図書館)</p>
<p>・学書の蔵書では満たされない情報要求にも十分応えるため、海外を含めた図書館間相互利用の拡大と、電子的手法を駆使した迅速な提供体制を構築する。(H16-21)(附属図書館)</p>	<p>・全学の図書目録遊及入力を計画的に推進する。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>・学術情報資源へのアクセスの利便性を高めるために、リンクリソルバ(データベース等の論文情報から電子ジャーナル等の本文への直接アクセス、オンライン蔵書目録(OPAC)等へのリンク及び文献複写申込みまでの学術情報入手の一連の流れを統合的にナビゲートするツール)による学術情報環境の利用促進を図り、着実に増加させた。(利用件数:平成20年度189,335件,平成21年度281,323件,49%増)</p> <p>・前年度に引き続き、社会科学系図書館において国内未収の外国雑誌約1,000誌を収集し、全国に文献複写等の情報サービスを実施するとともに、学外からの複写依頼に迅速に対応するため、複写作業の外部委託を継続した。 ・利用サービスの改善を図った点は、以下のとおりである。 平成20年度に引き続き、学内外の利用者への迅速な雑誌所蔵情報提供のために、国立情報学研究所全国総合目録データベースへのデータ更新をほぼ毎日行っている。 平成20年度に引き続き、閲覧の利便性を考え、収納用ボックスファイルを購入し、区分した配架を行っている。</p> <p>・附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の維持・整備方策」を受け、部局拠出分を含む全学経費を確保し、平成21年度は、3億円が予算措置され、各分野の研究基盤として重要な雑誌(電子ジャーナルを含む)及びデータベースを継続的に維持するとともに高額図書の整備(20点)を実施した。 ・「学長戦略経費」の配分により電子ジャーナル及びデータベースのバックアップの導入が実現した。</p> <p>・学書の蔵書では満たされない情報要求にも十分応えるため、海外を含めた図書館間相互利用の拡大と、電子的手法を駆使した迅速な提供体制を構築する。(H16-21)(附属図書館)</p>
	<p>・全学の図書目録遊及入力を計画的に推進する。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>・学術情報資源へのアクセスの利便性を高めるために、リンクリソルバ(データベース等の論文情報から電子ジャーナル等の本文への直接アクセス、オンライン蔵書目録(OPAC)等へのリンク及び文献複写申込みまでの学術情報入手の一連の流れを統合的にナビゲートするツール)による学術情報環境の利用促進を図り、着実に増加させた。(利用件数:平成20年度189,335件,平成21年度281,323件,49%増)</p> <p>・前年度に引き続き、社会科学系図書館において国内未収の外国雑誌約1,000誌を収集し、全国に文献複写等の情報サービスを実施するとともに、学外からの複写依頼に迅速に対応するため、複写作業の外部委託を継続した。 ・利用サービスの改善を図った点は、以下のとおりである。 平成20年度に引き続き、学内外の利用者への迅速な雑誌所蔵情報提供のために、国立情報学研究所全国総合目録データベースへのデータ更新をほぼ毎日行っている。 平成20年度に引き続き、閲覧の利便性を考え、収納用ボックスファイルを購入し、区分した配架を行っている。</p> <p>・附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の維持・整備方策」を受け、部局拠出分を含む全学経費を確保し、平成21年度は、3億円が予算措置され、各分野の研究基盤として重要な雑誌(電子ジャーナルを含む)及びデータベースを継続的に維持するとともに高額図書の整備(20点)を実施した。 ・「学長戦略経費」の配分により電子ジャーナル及びデータベースのバックアップの導入が実現した。</p> <p>・学書の蔵書では満たされない情報要求にも十分応えるため、海外を含めた図書館間相互利用の拡大と、電子的手法を駆使した迅速な提供体制を構築する。(H16-21)(附属図書館)</p>
	<p>・学書の蔵書では満たされない情報要求にも十分応えるため、海外を含めた図書館間相互利用の拡大と、電子的手法を駆使した迅速な提供体制を構築する。(H16-21)(附属図書館)</p>		<p>・学術情報資源へのアクセスの利便性を高めるために、リンクリソルバ(データベース等の論文情報から電子ジャーナル等の本文への直接アクセス、オンライン蔵書目録(OPAC)等へのリンク及び文献複写申込みまでの学術情報入手の一連の流れを統合的にナビゲートするツール)による学術情報環境の利用促進を図り、着実に増加させた。(利用件数:平成20年度189,335件,平成21年度281,323件,49%増)</p> <p>・前年度に引き続き、社会科学系図書館において国内未収の外国雑誌約1,000誌を収集し、全国に文献複写等の情報サービスを実施するとともに、学外からの複写依頼に迅速に対応するため、複写作業の外部委託を継続した。 ・利用サービスの改善を図った点は、以下のとおりである。 平成20年度に引き続き、学内外の利用者への迅速な雑誌所蔵情報提供のために、国立情報学研究所全国総合目録データベースへのデータ更新をほぼ毎日行っている。 平成20年度に引き続き、閲覧の利便性を考え、収納用ボックスファイルを購入し、区分した配架を行っている。</p> <p>・附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の維持・整備方策」を受け、部局拠出分を含む全学経費を確保し、平成21年度は、3億円が予算措置され、各分野の研究基盤として重要な雑誌(電子ジャーナルを含む)及びデータベースを継続的に維持するとともに高額図書の整備(20点)を実施した。 ・「学長戦略経費」の配分により電子ジャーナル及びデータベースのバックアップの導入が実現した。</p> <p>・学書の蔵書では満たされない情報要求にも十分応えるため、海外を含めた図書館間相互利用の拡大と、電子的手法を駆使した迅速な提供体制を構築する。(H16-21)(附属図書館)</p>

<p>全学中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)</p>	<p>附属図書館年次計画</p>	<p>自己 評価</p>	<p>自己評価判断理由</p>
	<p>・電子図書館システムのコンテンツ充実(震災文庫・新聞記事・所蔵貴重資料・教育研究成果等)と検索機能の高度化を図る。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>・電子図書館事業により、震災関係資料、経済関係資料及び学内研究成果等のコンテンツ作成を継続実施した。経済関係資料については、新たな5か年計画の初年度として科学研究費補助金研究成果公開促進費の交付を受け、平成20年度に引き続き新聞記事文庫の事業を継続した。約18,500記事を全文テキスト化し、累計記事数は約25万件となった。 ・同じく経済関係資料として住田文庫の資料8点を電子化し公開準備中である。さらに、人文科学研究科と連携し、平成20年度に電子化した「上海週報」及び「経済週報」に解題と索引を付けウェブ公開した。また古文書「宛練子」を電子化公開した。 ・渡邊名教授作成のキクコデータベースの更新を継続中であるほか、新たに菱川教授作成の詩のコンコーダスをデータベース化した。 ・平成21年度のHPアクセス数は震災文庫が約37,000件、学内研究成果が約85,000件(うちリボトリは約40,000件)、新聞記事文庫が約69,000件、所蔵貴重資料が約18,000件であった。</p>
	<p>・「神戸大学学術成果リボトリ」の充実を図る。(H20-21)(附属図書館)</p>		<p>・前年度に引き続き「神戸大学電子図書館システム」では、震災関係・経済関係・学内研究成果の3区分により電子化コンテンツの整備を進めた。 ・神戸大学学術成果リボトリKernelのコンテンツの充実を図り、7月には登録数が1万を超えた。(平成21年度3,960件、累計12,682件)。また、ダウンロード数も月約28,000件(4月～3月の平均値)と順調に増加している。 ・博士學位論文要旨集の選及電子化(第1集～53集)を完成し、冊子体で刊行されていた要旨集については全ての電子化を完了した。また、全文の登録推進に向けて関係部署と協議を継続している。 ・神戸大学研究者紹介(KUID)の論文登録情報を対象に、論文の収集・登録活動を推進し、KUID-Kernel間に相互リンクを付与する作業を継続している。 ・Kernel通信第4号を8月に発刊し、Kernelの運用状況等を学内外に公開するとともに、登録1万件目の論文および年間ダウンロード1位の論文の著者に行ったインタビューを公開することにより、神戸大学の学術成果の広報に努めた。 ・筑波大学ほかとの著作権ポリシー共有機能に今期も参加し、学協会のウェブ公開ポリシー調査に協力した。また、この事業の一環として、国立情報学研究所による平成21年度ポータル研修(名古屋地区8/6)及びDRF地域ワークショップ(近畿地区9/18)に、それぞれ職員1名を講師として派遣した。 ・島根大学が主管の遺跡資料リボトリ事業に参加し、兵庫県の遺跡資料の収集・登録に向けて関係機関と協議の上、資料の電子化を行った。 ・兵庫県大学図書館協議会の平成21年度事業である「機関リボトリ支援のためのWG」の活動に参加し、6回の会議において支援方法の検討を行った。また、平成21年度兵庫県大学図書館協議会研究会(12/17)においてKernel運用についての事例報告を行った。</p>
<p>3 その他の目標を達成するための措置 (1) 社会との連携に関する目標を達成するための措置 地域社会等との連携・協力、社会サービス等に係る具体的方策 ・附属図書館においては、夜間及び休日開館を含め、資料提供等による生涯学習の支援を行い、地域社会への貢献を図る。</p>	<p>・附属図書館資料展示会を開催し、地域市民に公開するなど、引き続き、図書館の公開サービスの充実を図る。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>・今年度の附属図書館展示会は「資料が語る 阪神・淡路大震災の記憶と現在(いま)」と銘打って、「人と防災未来センター」と連携し平成21年10月9日から平成22年1月22日まで震災に関する資料を合同展示した。併せて講演会も11月に合同で実施した。本学の展示場所は、社会科学系図書館2階、閲覧室への通路となっている「連絡通路展示コーナー」と「震災文庫室」において実施した。卒業生が来学される10月31日の神戸大学ホームカミング日には約140名の来賓者があり、また、「人と防災未来センター」で開催した合同講演会には約50名の市民の参加があった。なお、展示品目録はデジタル化し、図書館ホームページから公開している。 ・地域連携推進室主催の地域連携活動発表会(1月18日開催)で、職員が「震災関係資料合同展示会及び講演会」の題で報告した。 ・学外者への館外貸出サービスを継続している。(総合・国際文化学図書館及び海事科学分館、放送大学兵庫学習センター等利用者については全館室) ・本学卒業生及び修了者に対する図書資料の貸出しについて、平成20年度末から運用を開始している。3月末現在の登録者数は319名であった。</p>
	<p>・地域の公共図書館等との間で、相互利用や研修活動など、積極的な連携協力を図る。(H17-21)(附属図書館)</p>		<p>・平成20年度に引き続き、兵庫県大学図書館協議会加盟館の図書館相互協力便覧を作成し、県立図書館を通じて県内公立図書館に情報を提供した。(同協議会の会長館、企画委員会としての活動) ・国立情報学研究所との共催により「目録システム講習会(図書コース)」を9月2日から4日までの2.5日間学術情報基盤センター分館で開催し、西日本の大学・高等専門学校等14機関から15名が参加した。 ・兵庫県が実施している中学生の地域体験活動「トライやるウィーク」に協力し、神戸市立長峰中学校(神戸市灘区)の生徒1名、神戸市立上野中学校(神戸市灘区)の生徒2名、神戸市立鷹匠中学校(神戸市灘区)の生徒2名を、11月5日から11日までの5日間受け入れ、図書館職場体験の場を提供した。 ・司書資格取得のためのインターンシップとして他大学の学生1名を受け入れ、7月6日から17日までの10日間社会科学系図書館と総合・国際文化学図書館の各係において実習を行った。</p>
	<p>・「震災文庫」を地域住民や防災関係者等の幅広い研究ニーズに応えるため、資料の収集とデジタル化を更に進め、最大規模の関連資料コレクションとして、広く社会に公開する。(H16-21)(附属図書館)</p>		<p>・平成20年度に引き続き、資料収集を進めるとともに、震災文庫電子化を継続した(新規受入1,429点、電子コンテンツ作成 22点)。これにより資料総数は45,860点となり、電子コンテンツ作成総数は約4,760点となった。 ・平成21年度の来館者数は200名、HPアクセス数は約37,000件であった。 ・専門図書館協議会セミナー(10月23日開催)に職員を派遣し、震災文庫の取組について「神戸大学震災文庫10年の経過と課題」と題する報告をした。 ・地域連携推進室主催の地域連携活動発表会(1月18日開催)で、職員が「震災関係資料合同展示会及び講演会」の題で報告した。 ・人と防災未来センターとの間で構築・運用している震災関係資料の横断検索システムのデータ更新を継続している。</p>
<p>地域の公私立大学等との連携・支援に関する具体的方策 ・近隣の公私立大学等が集まる会議等において、教育研究交流を推進するとともに、大学関係に関する様々な課題について意見交換を行い、問題解決にあたるための連携を図る。</p>	<p>・引き続き、兵庫県大学図書館協議会の中心的な図書館として活動し、県内公私立大学図書館との連携を強化する。(H16-21)(附属図書館)</p>		<p>・引き続き協議会会長館を務め、企画委員会や総会等の企画・運営を行った。 ・平成21年度の新たな事業計画として「機関リボトリ支援のためのWG」の設置を企画し、6回の会合において支援方法を検討する等活動の支援を行っている。 ・協議会加盟館の名簿及び相互協力便覧の改訂版を作成し、配付・公開した。</p>

<p>全学中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)</p>	<p>附属図書館年次計画</p>	<p>自己 評価</p>	<p>自己評価判断理由</p>
<p>業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置 国立大学間の自主的な連携と協力体制に関する具体的方策 ・各種ブロック会議への参加や共同研修、人事交流等を通じ、大学運営に関する共通事項に関して情報交換を行い、問題解決に当たっての連携と協力を図る。</p>	<p>・国立大学図書館協会を中心とする電子ジャーナルコンソーシアム、図書館間相互貸借活動、各種共同研修等の連携・協力を維持・発展させる。(H16-21)(附属図書館)</p>		<p>・引き続き、国立大学図書館協会の監事館として理事会・総会に出席し、会計監査等を行った。 ・国立大学図書館協会電子ジャーナルコンソーシアムにも引き続き参加した。 ・近畿地区の国公立大学図書館の連携・協力組織である「大学図書館近畿イニシアティブ」の運営委員館として活動した。また、能力開発専門委員会に委員を派遣した。 ・国立情報学研究所の図書館連携WG「人文社会系電子コレクション検討WG」に職員1名を参加させ、国立情報学研究所および全国の大学で共同整備するコレクションの検討を行った。</p>
<p>3 教職員の人事の適正化に関する目標を達成するための措置 事務職員等の採用、養成、人事交流に関する具体的方策 ・特別な知識を必要とする者(例えば情報関係、特許関係、訴訟関係、診療報酬請求関係、労務管理関係等)の採用方法等を検討する。</p>	<p>・地区の職員採用試験に参加し、専門性(図書館学、情報技術、主題知識等)を考慮した図書系職員採用を行う。(H16-21)(附属図書館)</p>		<p>・近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験実施委員会の委員館として企画・運営に関わった。 ・上記試験合格者のうち1名を平成21年10月に採用し、1名を平成22年4月に採用した。</p>
<p>・専門性の向上を図るための専門研修の実施等について検討する。</p>	<p>・新しい図書館経営等に関する知識のほか、専門の情報サービスが行えるよう、専門主題に関する一定の知識及び専門資料に関する十分な知識を持った職員の育成を図るとともに、海外の先進図書館の調査・研究に派遣し、国際化に対応した職員の能力開発を推進する。(H20-21)(附属図書館)</p>		<p>・学外の各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題(漢籍・古典籍・医学等)に関わる研修に多数職員を派遣した。また、学内では人文学研究科の古文書研修を職員に受講させた(5名受講、合宿参加者は2名)。その研修成果は、報告書の提出や報告会の開催等の義務付けにより他の職員の能力開発に役立てるとともに、日常業務のレベルアップや1年次必修科目「情報基礎」での図書館サービスの概説担当などの業務に生かされている。 ・西洋古典資料保存講習会(一橋大学で開催)に参加した館員を講師に、9月に洋装古典籍修復の講習会を館員を対象に行なった。 ・職員に海外の先進図書館を調査・研究させ、業務に生かすとともに職員の育成を推進するため、その一環として平成20年度に国立大学図書館協会海外派遣事業でイリノイ大学モータンソンセンターに派遣した本学職員の研修成果は、「大学図書館研究」への雑誌投稿や国立情報学研究所主催の大学図書館職員短期研修の講師等により発揮されている。</p>
<p>4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置 事務組織の機能の見直しに関する具体的方策 ・事務の一元化・集中化と並行して、事務組織の横断的かつ総合的なサービス機能を発揮できる体制について検討する。</p>	<p>・全学業務改善プロジェクトの成果を参考に、研究・教育活動に密着した支援サービスに対応した事務組織体制等を検討し、業務の合理化・質的向上と職員の活力向上を図る。(H20-21)(附属図書館)</p>		<p>研究・教育活動に密着した支援サービスに対応した事務組織の在り方などの検討を進め、各館室に共通する業務や課題については、係横断的なプロジェクトチームを組織し、業務の合理化・質的向上及び職員の活力向上を図った。</p>
<p>事務処理の効率化と合理化に関する具体的方策 ・各種事務処理を見直すとともに、平成17年度以降に学内ネットワークのアップグレードにより情報の共有化を図り、文書管理、会議の開催通知、会議室の予約管理など事務処理の簡素化と迅速化を図る。</p>	<p>・全学業務改善プロジェクトの成果に基づき、さらに各館室の業務標準化、自動化、簡素化を推進する。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>平成21年度は、業務標準化や簡素化に向けて以下の検討を進めた。 ・ネットワークと文庫画像伝送システムを活用した文献複写サービスに関しては、平成20年度からDDS(ドキュメントデリバリーサービス)を全館室で実施し、学内での迅速な資料提供体制を構築した。平成21年度から複写機のスキャナ機能を活用して学外への迅速な資料提供を開始した。また、本学卒業生及び修了者に対する図書資料の貸出について、平成20年度に実施に向けた準備を行い運用を開始した。3月末現在の登録者数は319名である。 ・業務改善プロジェクトの業務削減対応策による「選書データベースを活用した書店発注システム」が平成20年12月に稼働したが、平成22年4月稼働の新財務会計システムにこの機能を引き継ぎ、さらに、予算管理の一元化等、会計処理の効率化を図るため、平成22年4月から図書館の会計処理を新財務会計システムで実施する。これらの機能実現のため、新財務会計システムの構築作業に附属図書館職員も参加している。</p>
<p>業務の外部委託等に関する具体的方策 ・業務処理の点検を行い、職員の業務を分析し、費用対効果を考慮して業務の外部委託を実施し、業務の合理化に努める。</p>	<p>・全学業務改善プロジェクトの成果に基づき、アウトソーシングの導入を検討する。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>平成21年度は、以下のアウトソーシングを継続した。 ・雑誌製本業務に関連した定型的業務 ・目録データ・装備付き納品業務 ・文献複写業務(社会科学系図書館) ・時間外開館サービス業務(社会科学系図書館及び医学分館) ・遊及入力(総合・国際文化学図書館、人文科学図書館、人間科学図書館)</p>
<p>財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置 資産の効率的運用を図るための具体的方策 ・継続的な施設の点検と評価を踏まえ、教育研究活動に応じた効果的なスペース配分など、施設の有効活用を推進する全学的方針の確立を図る。</p>	<p>・貴重図書管理・保管体制を整備するとともに、資料劣化への対策を実施する。(H19-21)(附属図書館)</p>		<p>劣化が進んでいる図書、雑誌、新聞類やマイクロ資料の保管対策(中性紙箱への収納等)を継続した。 ・総合・国際文化学図書館の和装本(江戸期刊行分)の収納・保護・保管に加え、劣化等を防ぐために秩386箱を作成し収納した。 ・社会科学系図書館の貴重書保管のため桐箱(20箱)を購入するとともに、既存の桐箱の防虫シートを入れ替えた。 ・マイクロフィルムを長期保存するため低湿状態に保つ調湿シートの入れ替えた。 ・また、古資料「菟絲子」について、修復補修および電子化作業を実施した。</p>
	<p>・図書資産の点検作業を適切に行うとともに、重複資料・不用資料の計画的な処分、資料保存基準の見直し等によるスペースの有効利用を図る。(H17-21)(附属図書館)</p>		<p>・昨年度に引き続き、図書資産の点検を総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館及び海事科学分館において実施している。 ・昨年度作成した重複雑誌の保管責任館の1次案、および重複雑誌の整理についての基本的な手順に基づき、海事科学分館において紀要類の処分を行った。また、重複図書について、自然科学系図書館、人文科学図書館、人間科学図書館、医学分館、海事科学分館において合計14,984冊の処分を行った。</p>

<p>全学中期計画 (図書館年次計画関連部分のみ抜粋)</p>	<p>附属図書館年次計画</p>	<p>自己 評価</p>	<p>自己評価判断理由</p>
<p>自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 評価の基本的な目標を達成するための具体的措置 合理的な評価システムを形成するための具体的方策 ・評価のレベルを次のように分け、これらを層層的に進めて評価を行う。</p>	<p>・毎年、図書館活動全般に及び年次報告書を作成し、活動全般、年次計画達成度等についての自己点検評価を行うとともに、全学的な評価あるいは外部評価にも耐えられるデータを蓄積、整備する。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>附属図書館評価委員会を開催し、第2期中期計画年度計画及び平成21年度年度計画達成度評価について検討した。 また、昨年に引き続き「年次報告」を作成し、根拠資料の蓄積を図った。</p>
<p>部局レベル:部局において「評価委員会」を設置し、個人や部局の基礎指標並びに部局の重点課題について評価を行う。 ・評価結果については、適切な基準を定めて公表する。</p>	<p>・図書館ホームページに投書箱を設けるなど、継続的に利用者ニーズを把握する方法を検討し、実施する。(H19-21)(附属図書館)</p>		<p>・図書館の利用に関するアンケート調査を学部生及び院生等を対象に全学的な規模で実施した。 ・館長と学生との懇談会を企画し、2月15日に実施した。 ・図書館ホームページに設置した投書箱に平成21年度は17件の問い合わせがあり、担当部署より回答した。</p>
<p>その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置 1 施設設備の整備等に関する目標を達成するための措置 施設設備の有効活用に関する具体的方策 ・施設の点検と評価を継続的に実施することにより既存施設の有効活用を図る。</p>	<p>・重複資料、不用資料等の処分を計画的に実施し、累積的な蔵書増加を抑制、書架の有効利用を図る。(H17-21)(附属図書館)</p>		<p>・昨年度作成した重複雑誌の保管責任館の1次案、および重複雑誌の整理についての基本的な手順に基づき、海事科学分館において紀要類の処分を行った。また、重複図書について、自然科学系図書館、人文科学図書館、人間科学図書館、医学分館、海事科学分館において合計14,984冊の処分を行った。</p>
<p>施設設備等の機能の充実に関する具体的方策 ・施設の点検と評価を継続的に実施することにより推進する。</p>	<p>・各館室において、閲覧・学習環境の改善を図る(既設スペースの有効活用による閲覧室の拡張、図書収容力の増加、空調設備の更新等)。(H17-21)(附属図書館)</p>		<p>平成21年度、各図書館室の設備備品整備として以下を実施した。 ・電動式集密書架の増設(総合・国際文化学図書館) ・大型本収納棚の更新(総合・国際文化学図書館) ・貴重書収納保管庫の増設・設置(総合・国際文化学図書館、海事科学分館) ・利用案内サインの見直し(総合・国際文化学図書館) ・防犯カメラ装置の新設及び増設(人間科学図書館、保健科学図書室、海事科学分館、総合・国際文化学図書館) ・マイクローリダープリンターの新設(人間科学図書館) ・貴重書収納保管庫の設置(海事科学分館) ・大閲覧室の閲覧機の補修(社会科学系図書館) ・閲覧用書架の増設(自然科学系図書館、保健科学図書室) ・視聴覚資料収納棚の増設(人間科学図書館、医学分館、海事科学分館) ・閲覧機、閲覧椅子の増設(医学分館、保健科学図書室、海事科学分館) ・新聞保管棚の更新(医学分館、海事科学分館) ・利用者用パソコンの更新(医学分館) ・コイン式ロッカーの設置(人文科学図書館、人間科学図書館、海事科学分館) ・書架サインの増設(人間科学図書館) ・防犯カメラ表示サインの設置(社会科学系図書館、総合・国際文化学図書館、自然科学系図書館、人文科学図書館、人間科学図書館、保健科学図書室、医学分館、海事科学分館)</p>
<p>2 安全管理に関する目標を達成するための措置 労働安全衛生法、学校保健法等を踏まえた安全衛生管理、保健管理及び事故防止に関する具体的方策 ・実験室等の安全点検を定期的に実施し、必要な補修、改修、更新等の処置を実施する。</p>	<p>・図書館施設・設備の安全点検に努め、利用者・職員の事故等防止のための措置を着実に進める。(H18-21)(附属図書館)</p>		<p>安全衛生委員(衛生管理者)の館内点検を毎週継続実施している。2月から衛生管理者を1名増員し、2名体制とした。 平成21年度は、安全衛生に関わる営繕工事等について以下を実施した。 ・外壁補修(社会科学系図書館、自然科学系図書館) ・屋上防水工事(保健科学図書室) ・防犯カメラ装置の新設及び増設(人間科学図書館、保健科学図書室、海事科学分館、総合・国際文化学図書館) ・空調機更新及び修理(社会科学系図書館、自然科学系図書館) ・書庫(A棟、B棟)及び管理棟のエレベータ改修工事(社会科学系図書館) ・電気錠の設置(総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館) ・閲覧室及び書庫の窓防犯ブザーの設置(人文科学図書館、海事科学分館) ・エレベータ用インターフォンの増設(海事科学分館) ・管理棟女子トイレ防犯ブザー取付(社会科学系図書館) ・防犯カメラ表示サインの設置(社会科学系図書館、総合・国際文化学図書館、自然科学系図書館、人文科学図書館、人間科学図書館、保健科学図書室、医学分館、海事科学分館)</p>

2. 学習・教育支援

(1) 開館サービス

< 開館状況 >

		総合・国際	社会科学系	自然科学系	人文科学	人間科学	研究所	医学分館	保健科学	海事分館
通常期	平日	8:45-21:30	8:45-21:30	8:45-21:30	8:45-20:00	8:45-21:00	8:45-17:00	8:45-21:00	8:45-20:00	8:45-20:00
	土曜	10:00-18:00	10:00-18:00	10:00-18:00	10:00-18:00	10:00-18:00	休館	9:00-17:00	10:00-18:00	10:00-18:00
	日曜	休館	10:00-18:00(注1)	休館	休館	休館	休館	休館	休館	休館
休業期	平日 17:00まで 土日休館	8月のみ 土日休館	平日 17:00まで 土日休館	平日 17:00まで 土日休館	平日 17:00まで 土日休館	通常期と同じ	通常期と同じ	平日 17:00まで 土日休館	平日 17:00まで 土日休館	
試験期 特別開館	日祝 10:00-18:00	祝 10:00-18:00	日祝 10:00-18:00	平日21:00 まで延長 日祝 10:00-18:00	日祝 10:00-18:00	通常期と同じ	通常期と同じ	通常期と同じ	平日21:00 まで延長 日祝 10:00-18:00	

(注1) 毎月第1日曜日は除く

- 平成21年度の開館時間帯は上表のとおりである。平成20年度に人間科学図書館において試行的に実施した平日の開館時間の延長（8:45-20:00を8:45-21:00に延長）を、平成21年度から正式実施した。

< 入館状況 >

平日 8:45～17:00 時間帯の1日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H21/H20	1.13	1.00	0.94	1.02	1.08	0.21	1.06	1.00	0.97	1.05
H20年度	993.2	664.7	524.8	262.0	384.9	33.5	218.8	358.4	191.5	399.3
H21年度	1124.9	665.2	493.3	268.0	416.5	7.0	232.4	359.7	186.3	418.3

- 上表は、平日 8:45～17:00 の時間帯の1日あたりの入館者数を平成20年度と比較したものである。
- 館によって増減はあるが、全体としては、前年度に比べて増加している。
- 経済経営研究所図書館で減少が著しいのは、耐震改修工事の影響である。

< 夜間開館 >

平日夜間（17:00～）時間帯の1日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H21/H20	1.10	0.97	0.87	1.08	1.14	-	1.03	1.11	1.04	1.02
H20年度	324.7	274.7	282.5	61.9	78.5	-	68.6	70.7	47.6	151.7
H21年度	357.2	266.8	246.7	67.1	89.4	-	70.7	78.3	49.7	155.0

- ・ 館によって増減はあるが、全体としては、ほぼ前年度並みの数字となっている。
- ・ 平成 20 年度から開館時間を延長した人間科学図書館では、平成 21 年度も夜間の入館者数が増加している。

<土曜・日祝開館>

土曜・日祝日の 1 日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H21/H20	1.08	1.08	1.06	1.02	1.28	-	0.62	1.37	1.25	1.07
H20 年度	349.8	339.3	235.2	63.3	60.0	-	151.3	116.8	56.3	187.6
H21 年度	376.3	366.6	248.6	64.8	77.0	-	94.0	160.3	70.4	201.3

- ・ 平成 20 年度と比較すると医学分館を除き、各館とも増加している。特に、保健科学図書室、人間科学図書館、海事科学分館で増加が著しい。

<24 時間開館>

- ・ 前年度に引き続き、医学分館と自然科学系図書館で 24 時間開館を実施した。利用者数は右表のとおりである。
- ・ 両者の利用者数に大きな開きがあるのは、医学分館では、主に医学科 2 年次以上の学生が自学自習のために利用しているのに対し、自然科学系図書館では、院生等が雑誌論文の複写のために入館するといった利用が中心となっているからである。

	自然系	医学
H21/H20	1.50	0.96
H20 年度	136	20,119
H21 年度	204	19,327

評価と課題

平成 21 年度の入館者数は、平成 20 年度と比べて全体として 6.7% (約 7 万 5 千人) 増加した。その主な要因は、耐震改修工事によって利用環境が改善された総合・国際文化学図書館において、入館者数が大きく増加したことによる。

平成 19 年度に耐震改修工事が実施された総合・国際文化学図書館、人文科学図書館、人間科学図書館については、平成 20 年度と比べて入館者数が大きく増加しているのに対して、それ以外の各館は、横ばいまたは減少傾向にある。このことは、施設設備面における学習環境の改善が利用の拡大につながることを端的に示すとともに、利用環境改善の必要性をも示すものである。

平成 21 年度は、人間科学図書館において、平日の開館時間の延長 (20 時までを 21 時までに延長) を正式に実施し、平成 22 年度からは、その分の時間外開館経費も一部経常経費化されることとなった。

平成 21 年度末に実施した全学生対象の利用者アンケートにおいても、開館日や開館時間の拡大についての要望が多く見られたが、経費上の問題もあり、各館の利用動向を踏まえた上で、段階的な実現を目指して検討を進めたい。

(2) 学生用資料整備

館室別の蔵書数、受入図書冊数、資料費総額等は別添基本統計の通りである。

< 資料費予算と重点整備 >

- ・ 図書館予算（図書館セグメント）として各館室に配分する経費と、サービス対象部局から拠出された経費（部局セグメントの図書資料費）を合わせて、各館室の学生用資料整備を行う予算構造となっている。
- ・ 平成 21 年度は図書館予算として 6,450 万円（内 e-study 資料費 450 万円）規模とし、部局拠出分と合わせて引き続き学生用図書資料の充実を図った。これは平成 20 年度と同様に部局拠出分が減少するなかで、学生用図書費の維持を最重点の事項として予算確保し、部局拠出分と合わせ計画的で着実な資料整備を目指すことが認められたことによるものである。
- ・ 平成 18 年度より震災文庫資料費（50 万円）は独立した予算項目となっている。
- ・ 平成 16 年度より実施している装備付納品を、引き続き総合・国際文化学図書館（2,002 冊）、社会科学系図書館（2,411 冊）、自然科学系図書館（1,828 冊）、人間科学図書館（966 冊）、保健科学図書室（541 冊）において実施し省力化・合理化を進め、その人的資源を目録遡及入力作業等に投入した。

< 各館室の整備状況 >

H21 受入	総合	国際	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
図書冊数	4,084	925	5,453	3,226	514	2,599	117	1,595	1,486	3,104	23,103
雑誌種数	108	37	51	174	23	153	0	204	114	295	1,159

- ・ 各館室では配分された資料費をもとに関係部局のシラバス掲載図書の購入をはじめ参考図書、授業関連図書等の資料整備を行った。

< 選書体制と収集方針 >

- ・ 平成 16 年度に「学生用資料整備計画大綱」（附属図書館運営委員会決定）に基づき各館室図書委員会にて学生用図書資料の範囲、選定体制・方法等の整備計画の策定を行った。
- ・ 総合図書館では「総合図書館学生用資料整備計画」を策定するとともに学生用資料整備を推進するため「総合図書館資料選定委員会」（構成委員は職員）を立ち上げて具体的な選書スケジュール、選書手順などについて検討し、資料整備を進めた。

< 選書評価 >

- ・ 平成 18 年度から、前年度に整備した学生用図書の利用状況の分析及び収集資料の評価を開始した。
- ・ 平成 21 年度からは、各館室とも共通したフォーマットによる選定評価を行うことになった。

評価と課題

平成 17 年度以降、学生用資料費の図書館予算が大幅に増額され、概ね要求は満たされたものとなっており、引き続き教育・学習活動の支援・拡充を図るために、現行の予算規模を維持する必要がある。

平成 20 年度に整備した学生用図書の選定評価を実施した結果、選定が蔵書構成上並びに利用上ほぼ適切に行われたことが実証されている。（附属図書館運営委員会〔平成 21 年度第 5 回開催〕に選定結果及び評価として資料配付の上報告）

(3) 資料提供サービス

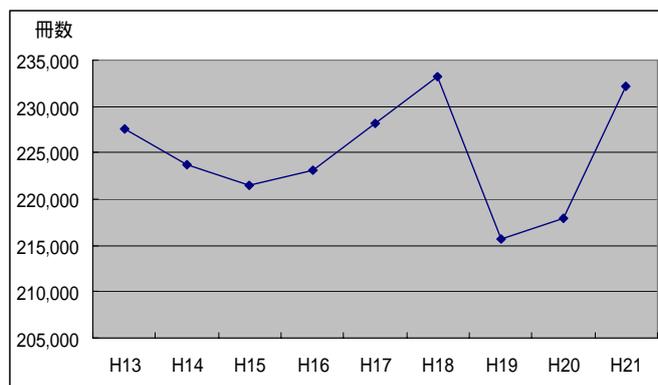
入館者数、貸出冊数等は別添基本統計のとおりである。相互利用サービスについては、3(5)に後述する。

《貸出サービス》

平成 21 年 3 月から、本学卒業生及び修了者に対する図書資料の貸出サービスを開始した。

< 貸出冊数（学生・院生）経年推移 >

平成 13 年度から平成 21 年度までの図書館全体の貸出冊数の経年推移を右に掲げた。



< 館室別学生・院生貸出冊数 >

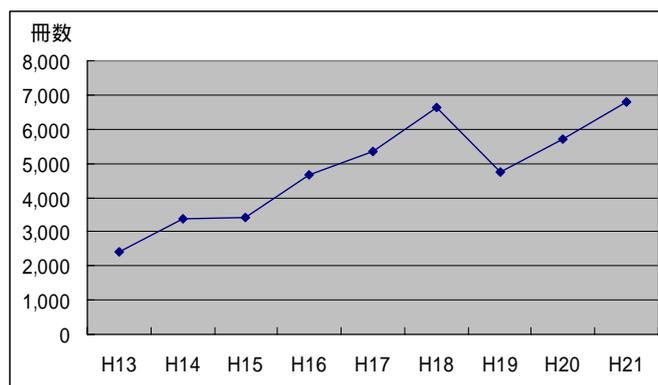
	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H21/H20	1.19	1.00	1.01	1.11	1.06	1.13	0.90	1.17	1.00	1.07
H20 年度	51,248	65,235	37,039	14,456	16,493	934	7,266	12,172	13,096	217,939
H21 年度	60,981	65,236	37,515	16,023	17,553	1,055	6,549	14,249	13,031	232,192

- ・ 館によって増減はあるが、全体としては、前年度に比べて増加している。
- ・ 平成 19 年度、平成 20 年度は、主に総合・国際文化学図書館の耐震改修工事の影響で大きく落ち込んでいたが、平成 21 年度は、全体として平成 18 年度の水準近くまで回復した。

《デリバリ（図書配送）サービス》

< デリバリサービス貸出冊数推移 >

平成 13 年度から平成 21 年度までの図書館全体のデリバリサービスによる貸出冊数の経年推移を右に掲げた。



< 館別デリバリ貸出冊数 >

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H21/H20	1.90	1.11	1.12	1.38	0.96	-	0.60	1.53	0.88	1.18
H20 年度	764	1,508	758	405	1,649	-	203	240	198	5,725
H21 年度	1,452	1,678	847	560	1,579	-	121	367	175	6,779

- ・ 館によって増減はあるが、全体としては、前年度に比べて大きく増加している。
- ・ 平成 12 年度からサービスを開始し、平成 19 年度は主に総合・国際文化学図書館の耐震改修工事の影響により一時的に減少したが、平成 20 年度からは回復に転じ、平成 21 年度には、全体として平成 18 年度の水準を超えた。

評価と課題

学生の貸出冊数は、平成 19 年度、平成 20 年度と大きく減少したが、それは主として総合・国際文化学図書館の耐震改修工事の影響によるものであり、平成 21 年度には、全体として平成 18 年度の水準近くまで回復した。ただ、総合・国際文化学図書館の貸出冊数については、いまだ平成 18 年度の水準までは回復していないため、貸出サービスが実態として上昇傾向にあるか否かの評価は来年度を待たねばならない。

平成 21 年 3 月から開始した本学卒業生及び修了者に対する貸出サービスは、平成 21 年度は、全体として 2,156 冊の貸出があった。

デリバリサービスも、平成 20 年度以降上昇に転じ、平成 21 年度には、全体として平成 18 年度の水準を超えるまでになった。六甲台キャンパス内デリバリの学部学生への拡大については、デリバリサービスの利用増加が今後とも予想されることから、引き続き実施を見合わせることにした。

(4) 情報リテラシー教育の推進支援

< 情報リテラシー教育支援 >

- ・ 平成 16 年度より設けられた全学共通教育必修科目「情報基礎」では、昨年度より 1 コマ (90 分) が「情報の活用：レポート・論文作成のための情報リソース活用法」にあてられ、5 月上旬～6 月下旬を中心に計 24 回 (補講・再履修を含む) 講義 (実習を含む) を行った。
- ・ 昨年度より情報リテラシー係と各館室のサービス係員から構成される「情報リテラシー教育支援 WG」を組織して、課題や「ちからだめし」なども改訂し、WG メンバーで分担し講義を行った。学部新入生全員に補講受講者等を加え、約 2,700 人が受講した。
- ・ 基本となる図書館ホームページ上のサービス紹介をはじめ、レポート・論文作成の際に役立つ、各種データベースの紹介、所蔵検索 OPAC (実習を含む)・各種 Web サービス等を中心とする内容で実施した。
- ・ 次年度に向けて、授業内容やテキスト・課題・「ちからだめし」の再検討を行った。更に OPAC 画面上に、利便性も考慮して、利用者サービス (デリバリー、予約確認) のボタンを追加設置した。

< オリエンテーション、ガイダンス >

- ・ 情報リテラシー係を中心とした情報リテラシー教育支援 WG メンバーで以下のガイダンスを開催した。

名称	内容	時期	時間	会場	回数	参加者
留学生オリエンテーション	施設紹介・利用全般	4、10 月	5 分	六甲ホール	2	500
館内ツアー 検索ガイダンス	OPAC の検索方法 資料入手方法、他	4、5 月	15～20 分	各館室	72	358

情報の探し方ガイダンス (基本的な DB の使い方)	雑誌論文検索方法 「国内編」「海外編」	6月中旬	60分	自然科学系図書館	4	72
情報の探し方ガイダンス (基本的な DB の使い方)	雑誌論文、新聞記事 の検索方法	6月下旬	60分	総合・国際文化学 図書館	2	4
SciFinder 講習会	SciFinder	6月	90分	自然科学系図書館	1	28
Web of Science 操作説明会	Web of Science	6月	60分	自然科学系図書館	2	28
情報の探し方ガイダンス (基本的な DB の使い方)	雑誌論文検索方法 「国内編」「海外編」	10月中旬	60分	自然科学系図書館	6	40
雑誌論文検索方法 「国内編」と「海外編」	Econlit, CiiNii 電子ジャーナル	11月中旬	60分	社会科学系図書館	4	44
日経テレコン操作説明会	情報収集、操作説明	11月	70分	社会科学系図書館	2	31
雑誌論文検索方法 「国内編」と「海外編」	医中誌 Web of Science 電子ジャーナル	12月上旬	60分	保健科学図書室	4	41
オーダーメイドガイダンス	雑誌論文検索方法等 依頼内容を説明	4-11月	60~120分	国文・人間・ 社会系・海事等	14	302
計					113	1,448

- ・ SciFinder、Web of Science、日経テレコン 21 のガイダンスは、各システムに新しいサービスが加わったため、ベンダーから専門講師を招いて、対象も教職員・院生・学生と幅を広げて実施した。その他は、情報リテラシー係職員が講師を務めた。
- ・ 前期の利用者（新入生を含む）に対しては、各館室で図書館ツアーを集中的に実施した。学部の専門に応じたガイダンスは実施会場の PC 端末エリア等で、Power Point を投影するためのスクリーンを用意し、マイクで説明することにより、PC 端末がない場合でも理解しやすいように工夫した。また新型インフルエンザが神戸でも発生したことにより、予定していた専門講師によるガイダンスは中止になり、後期へ持ち越した。
- ・ 後期には、希望のあった館室で、就職情報収集を含む内容の説明会及びレポート、卒業論文作成支援のためのデータベース講習会等を、専門講師を招いて実施した。また情報リテラシー係主体で、教員からの依頼によるオーダーメイドガイダンスも実施した。
- ・ また、ちらし・ポスターなどに情報リテラシー係のメールアドレスを組み込んだ QR コードを採用し、利用者が参加しやすいように工夫した。更に、ホームページの各データベースの項目を目的別に編集し、利用ガイドを作成することにより、アクセスの向上にも努めた。
- ・ 情報リテラシー係より希望者の PC または携帯に、HP のお知らせをコンパクトにまとめた「神大図書館 NEWS」(No.1~20) を 6 月から年度末にかけて発信した。

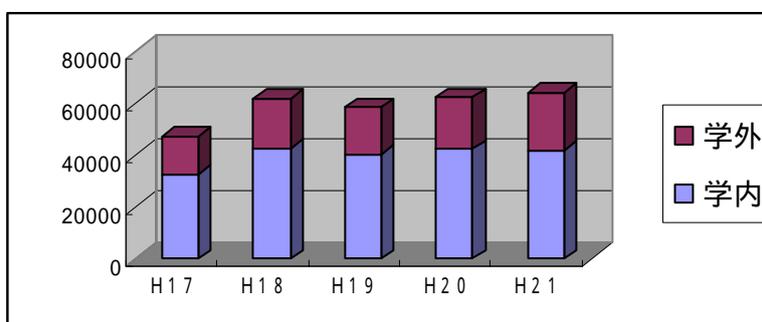
< 図書館ホームページの維持・更新 >

- ・ 月平均アクセスは約 64,200 件となっている（月別アクセス数は別添統計【p46】の通り）。
- ・ 図書館ホームページについては、訪問者が求める情報に効率的にたどり着けるよう、日々調整

を図った。特に今年は留学生オリエンテーションにあわせて、英語版の HP に加え、韓国からの図書館研修者の協力により韓国語版の HP も作成することが出来た。

- Web からの各種申込やガイダンスに関する認知度を上げるため、利用案内の内容の充実、ガイダンス情報への Web サービスの盛り込み、データベース情報への詳細情報 / 利用ガイドページの追加等の更新を行った。更に、学術情報資源への利用者の利便性を考え『リンクリゾルバ』（「データベース等の論文情報から電子ジャーナル等の本文への直接アクセス」、「オンライン蔵書目録 (OPAC) 等へのリンク」及び「文献複写申込みまでの学術情報入手」の一連の流れを統合的にナビゲートするツール）ページの整備も図った。
- ガイダンスに際して作成した資料をホームページに順次アップした。また、各種情報のメンテナンス及び新着事項の掲載等を継続した。

図書館トップページ月平均アクセス数



評価と課題

必修科目「情報基礎」は 6 年目に入り、滞りなく運営できた。「情報の探し方」等のガイダンスに積極的に参加する利用者は、ある程度限定されるため、新入生全員を対象とした必修授業において、図書館が果たすべき教育支援への効果は大きい。

2 年前より、授業内容の「情報の活用：レポート・論文作成のための情報リソース活用法」、「図書館サービス」及び「各館室紹介」とを合わせて、説明の時間が 1 コマ 90 分に拡大されたことにより、新入生がより充実した内容の授業を受けることが可能となった。授業後のアンケートにもその成果が窺える。

また、理学部化学科では 3 年次必修授業において、オーダーメイドガイダンスを毎年行っているが、このように卒業までの履修・学習全体を通じた情報リテラシー教育支援のあるべき姿を考えることが必要であろう。

「情報の探し方」等のガイダンスについては、前・後期合わせて一定の参加者増があったが、それは、新たな試みとして、申込を携帯からも可能にするため QR コードを広報に採用したり、キャリアセンターとの協力のもと就職活動の支援として、企業関連の検索説明会を専門講師により開催した結果によるものと思われる。

また、今年度は参加者も PC が使えるように会場を図書館の情報端末室に移して実施した。中には非常に熱心な受講者や教員からのオーダーメイドガイダンスも急増しており、今後も継続していく意義があると考えられる。ただ、オーダーメイドガイダンスについては、申込から実施まで短期間であることから、依頼者の希望内容に沿った資料作成など準備の負担が大きいことが今後の課題である。

また全学生数から見れば図書館主催のガイダンス参加者はまだ少なく、広報や時期的なこと等においてさらなる調査や改善が必要である。

図書館ホームページについては、サービスの認知度向上をめざして日々トップページメニューの改善を図った。加えて、各館室情報の構成の統一と充実を図り、リンク集の整備等も行った。

昨年度リンクリゾルバが導入され電子ジャーナルリストが一新されたことで、年々閲覧可能タイトルが増加し、その効果もあり、トップページのアクセス数も増加した。しかしながら、英語版と韓国語版のトップページの内容の充実及び留学生の半数以上を占める中国留学生のための中国語版作成の検討など、まだ課題は残っている。

(5) 設備・機器の整備

施設面の整備については、5(4)で記述することとし、本章では学習環境改善のための設備・機器に絞った整備について記述する。

< 設備更新による学習環境の整備 >

- ・ 建物改修が行われた館室以外の整備で、特に学習支援に直接係わる事項として次のものがある。

総合・国際文化学図書館	防犯カメラ装置増設、電動式集密書架増設、貴重書収納保管庫増設
社会科学系図書館	本館及び管理棟空調設備更新、大閲覧室閲覧机補修
自然科学系図書館	閲覧用書架増設
人文科学図書館	閲覧室窓防犯ブザー設置
人間科学図書館	防犯カメラ装置設置、マイクロリーダープリンター新設
医学分館	利用者用パソコン更新、閲覧机・閲覧椅子増設
保健科学図書室	防犯カメラ装置設置、閲覧机・閲覧椅子増設、閲覧用書架増設
海事科学分館	防犯カメラ装置設置、貴重書収納保管庫設置、閲覧机・閲覧椅子増設、書庫窓防犯ブザー設置

< 自動貸出装置等 >

利用者のセルフサービスを支援する機器類の導入状況は次のとおりである。

自動貸出装置	研究所を除く各館室
BDS(無断持出防止装置)	研究所を除く各館室
24時間入退館システム	自然科学系図書館、医学分館
セルフコピー(コイン式等)	研究所を除く各館室

< 情報機器の更新 >

- ・ OPAC等検索用端末(*3)の更新及び追加を行った。また、大学ネットワークシステムの更新により、図書館内の閲覧室、グループ学習室等で無線LANの使用が可能となった。
- ・ 利用者用PC等の設置台数は次の通りである。

	総・国	社会	自然	人文	人間	医学	保健	海事	研究所	合計
PC 台数	49	44	40	17	18	16	12	12	2	210
(*1)	(25)	(15)	(20)	(10)	(10)	(7)	(7)	(5)	(0)	(99)
(*2)	(12)	(11)	(12)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(0)	(50)
一部サイト(*3)	(11)	(14)	(8)	(4)	(4)	(5)	(2)	(3)	(2)	(53)
スタンドアロン等	(1)	(4)	(0)	(0)	(1)	(1)	(0)	(1)	(0)	(8)
情報コンセント	80	21	12	10	9	30	4	8	0	174

* (*1) 99 台は電子図書館システムのリース品

* (*2) 50 台は学術情報基盤センター教育研究用計算機システムのリース品

* (*3)は、OPAC に加えて限定された検索サイト（国会図書館等）がアクセス可能なもの

評価と課題

昨年度から引き続き、利用者用 PC 環境の整備と維持に努めた。平成 22 年度には、電子図書館システムのリース品(*1)が、本学教育研究用計算機システムに含まれ更新される予定であり、全学で共通した使用環境の向上が見込まれる。また、図書館システムの更新により、利用者ポータルや次世代 OPAC 機能を含んだ統合的な情報提供機能を導入する予定であり、サービス向上のため、その構築に向けた詳細な検討作業を実施する必要がある。

3. 学術研究支援

(1) 研究用資料の整備

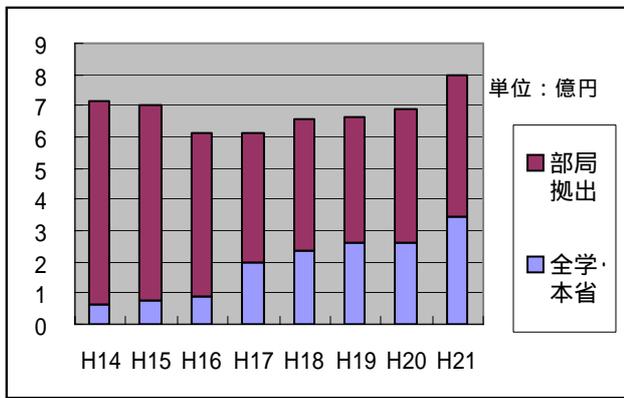
各館室の蔵書数、受入図書冊数、資料費等は別添統計【p44】の通りである。

< 資料受入状況 >

* 平成 15 年度まで館室によって学習用・研究用を分けがたい場合が多いため、総計の経年推移を示す。

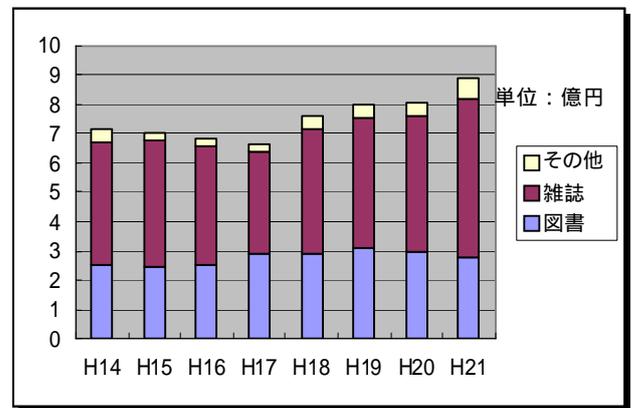
注) 下記統計数値は、神戸商船大学、経済経営研究所など当時図書館組織外だった館の数値も合算した値

(図 1) < 資料費経年推移 >



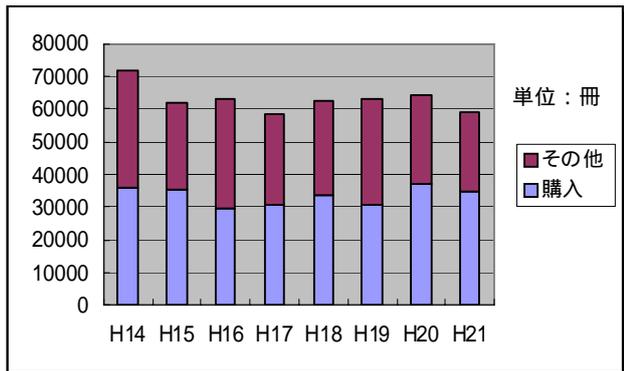
* 一般財源に限る

(図 2) < 資料費の用途別内訳推移 >



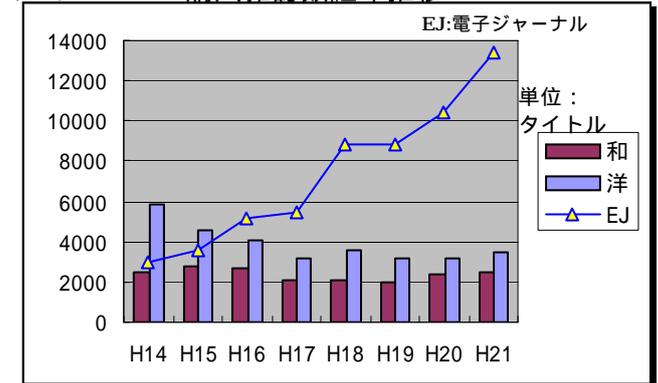
* 電子ジャーナル経費は雑誌として計上

(図 3) < 受入図書冊数経年推移 >



* 「購入」は一般財源のみ

(図 4) < 購入雑誌数経年推移 >



* 「購入」は一般財源のみ

- 資料費（一般財源）は、平成 17 年度以降の学生用図書費の増額と、平成 19 年度から 3 年間の期限で予算措置された「教育研究基盤資料整備費」及び平成 21 年度に臨時的に措置された約 9 千万円の「教育研究活性化支援経費」により増加し、総額で見れば、平成 14 年以降では最高の値となっている。(図 1)

- ・ 図書資料費は、「高額教育研究基盤図書費」(2,000万円)が今年度を最終年として配分されたにもかかわらず、少し減少傾向にあるが、雑誌資料費は、前述の「教育研究活性化支援経費」による ELSEVIER 社の ScienceDirect , Nature Archive 等の電子ジャーナルバックファイル整備の結果、増加となった。(図2)
- ・ 受入図書冊数は、昨年度に比べて全体的に減少し、約6万冊となっている。(図3)
- ・ 和雑誌の購入タイトル数は、ほぼ昨年度と同様、洋雑誌に関して言えば、若干の増加傾向にあるが、平成19年度に電子オンリー中心の包括利用契約に変更したため、将来的に見て、冊子体の購入タイトル数の大幅な増加は見込めないであろう。その反面、学内で利用可能な電子ジャーナル数は増加を続け、ついに平成21年度には、1万3千タイトルを越え、学術雑誌情報リソースとして確固たる地位を築くものとなっている。(図4)

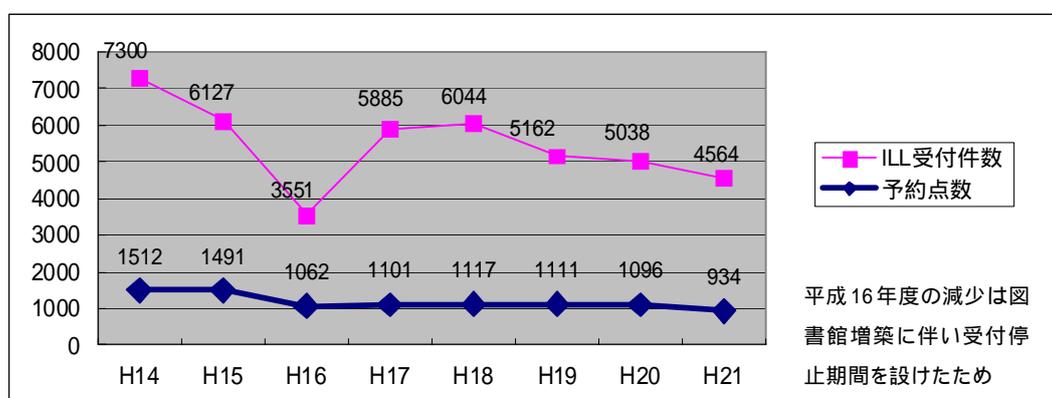
<大型図書>

- ・ 人文・社会科学系分野において、教員・講座単位では、高額な図書の購入が困難であることが懸案事項になっていたが、昨年度に続き平成21年度も「高額教育研究基盤図書費」が2,000万円の枠で措置され、1件10万円以上500万円以下の高額図書計20点を整備することが出来、全学共同利用に供した。

<外国雑誌センター館>

- ・ 昭和61年度より「人文・社会科学系外国雑誌センター館」の指定を受け、国内での所蔵館が3館以内の外国雑誌を体系的に収集し、全国共同利用に供している(配架は社会科学系図書館)。分野別の外国雑誌センター館は全国で計9大学に設置され、人文・社会科学系は一橋大学と神戸大学の2大学に設置され、分担収集を行っている。
- ・ 外国雑誌センター館本来の趣旨に鑑み、国内所蔵希少雑誌として選定後、所蔵館が4館以上となった雑誌の中止と、新規雑誌の追加購入により、平成21年度予約点数は934誌となった。
- ・ ILL 複写サービスについては、平成21年度も引き続き一部作業の外部委託を実施し、年間を通じ安定したサービスを提供する体制を維持することが出来た。これにより、他大学等からの複写依頼を常時受け付け、遅くとも受付翌日には発送する外国雑誌センター館としてのサービス体制を継続している。

<予約点数と ILL 受付件数(社会科学系)の推移>



評価と課題

平成 21 年度措置された約 9 千万円の「教育研究活性化支援経費」により、資料費の総額は増加しているが、これは臨時的なものであり、平成 22 年度以降の資料費予算は、厳しいものとなることが予想される。

外国雑誌の契約形態を、冊子体を主とする契約から電子オンリーを主とする契約に移行しており、平成 21 年度は、それらの購入経費は『全学共通経費分』及び『部局負担分』からなる「教育研究基盤資料整備費」を主な原資としており、その一部で「高額教育研究基盤図書費」も措置し、全学的なインフラとしての資料整備を着実に進めて来ている。

しかしながら、平成 22 年度、平成 23 年度の「教育研究基盤資料整備費」の原資は、『全学共通経費』及び『外部資金に関わる間接経費（全学共通分）』になり、部局経費による整備が可能となったため「高額教育研究基盤図書費」は、対象外となった。平成 22 年度以降も、部局経費による高額図書の継続整備が望まれるものである。

(2) 電子的情報基盤の整備

<外国雑誌と電子ジャーナル>

有料で導入している主な電子ジャーナルは次の通りである。

	分野	導入年	誌数	範囲	備考
Elsevier 社 ScienceDirect	全分野	H14	2,500	1995 ~	コンソーシアム契約によるフリーダムコレクション 講読規模維持が条件
Elsevier 社 ScienceDirectBackFile	全分野	H21	2,000	(分野による)	
Springer 社 SpringerLINK	多分野	H14	1,817	1997 ~	発行のほぼ全タイトル 講読規模維持が条件
Wiley-Blackwell 社 WileyInterScience	多分野	H14	1,400	1997 前後 ~	発行のほぼ全タイトル 講読規模維持が条件
JSTOR	自然科学及び社会科学	H14	908	創刊号 ~ (最近 3 ~ 5 年は対象外)	Arts & Sciences (H14 ~ 118 誌) Arts & Sciences I (H17 ~ 127 誌) Arts & Sciences I I (19.3 ~ 151 誌) Arts & Sciences IV (H18.3 ~ 112 誌) Arts & Sciences VII (H21.4 ~ 180 誌) Life Scicences (H15 ~ 160 誌) Business II (H21.4 ~ 60 誌)
Nature 社	自然科学	H15	27	1987 ~	Nature 本誌以外は初号から
AAAS Science Online	自然科学	H15	1	過去 5 年	
IEEE CSLSP-e	情報通信	H15	26	1988 ~	会議録約 2800 冊(1995 以降)も利用可能
ACM Portal	情報通信	H15	47	ほぼ創刊号 ~	会議録等も利用可能

APS	物理系	H16	8	2001～	米国物理学会。 *H16よりライセンス料要 (以前から利用可能)
Cell Press	生命科学	H16	8	1996～	ScienceDirectで利用
LWW via Ovid	医学臨床	H16	100	1996～	
ACS	化学系	H16	34	1996～	米国化学会
Oxford University Press	多分野	H17	165	創刊号～	発行のほぼ全タイトル 購読規模維持が条件
Cambridge University Press	多分野	H18	221	1999前後～	発行のほぼ全タイトル 購読規模維持が条件

- ・ その他、無料による提供や冊子体購読により利用できるもの等も加え、平成21年度当初の電子ジャーナル利用可能数は、13,400タイトルとなった。
- ・ 総体としては非常によく利用されており、今や必須の教育研究基盤資料となっている。
- ・ 外国雑誌については、平成19年分から下記のように大幅な方針変更を行った。

附属図書館審議会答申「教育研究支援強化のための諸施策の具体化について 教育研究基盤資料の維持・整備方策(平成18年3月9日)」により、部局拠出経費を加味した全学経費を投入する方針が示され、世界レベルの研究水準を目指す本学の学術情報基盤として重要な電子ジャーナルを含む外国雑誌の維持・整備を図る方向性が定まった。

この答申を受け、2007年から大手出版社の電子ジャーナルの導入については、従来の冊子体を維持する方法から、電子ジャーナルの利用に当たって冊子体を維持する必要がない電子オンリー中心の包括利用の契約方法に大幅に変更した。

具体的には次のようになった。

(1) 電子オンリー中心の包括利用契約への移行

大手4社(Elsevier社、Wiley-Blackwell社、Springer社、Oxford社)発行のものについては、各社発行電子ジャーナル全タイトルが利用できる電子オンリー中心の包括利用契約に移行し、その対象となる冊子体の購読はオプションとし、電子ジャーナルを維持するための購読維持の必要はなくなった。

なお、冊子体の購読を希望する場合は、購読額の15%～25%程度の特別価格で購読できるが、これに関しては、30%の雑誌購読補填は行わない。

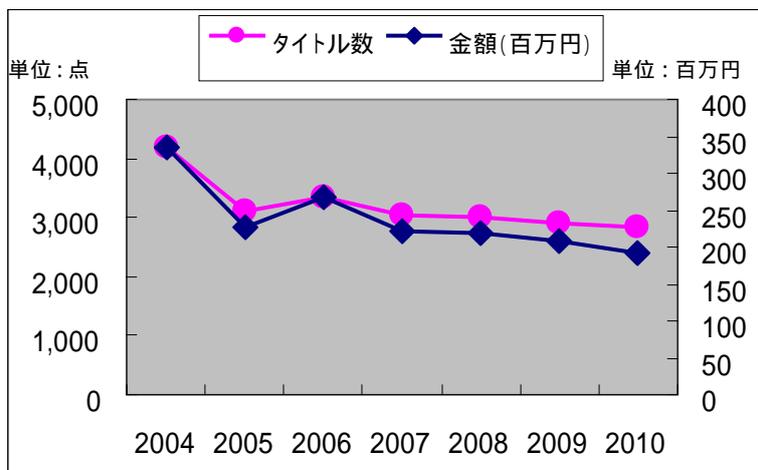
(2) 上記以外の外国雑誌購読に係る経費補填

冊子体を各図書館室に配置し、全学共同利用が可能なものについては、全学経費から、当該雑誌購読所要額の30%を補填する。

この結果、2008年、2009年の外国雑誌は、契約点数・契約金額とも若干の減少となったが、2009年は契約点数は引き続き若干の減少、契約金額は円高も影響して2008年より少し減少幅が大きくなっている。

2009年契約点数	2,913点	2010年	2,839点	(2.5%減)
2009年契約金額	約207百万円	2010年	約191百万円	(7.7%減)

< 外国雑誌購読推移 >



< データベースの整備 >

主な導入データベースは次の通りである。

	分野等	導入	範囲	形態	備考
Web of Science SCIE	自然科学 (引用索引)	H15	1971 ~	Web	H15.11 から導入
Web of Science SSCI	社会科学 (引用索引)	H21	1999 ~	Web	H21.12 から導入
Web of Science AHCI	人文学 (引用索引)	H21	1999 ~	Web	H21.12 から導入
JCR Web	全分野	H17		Web	H17.4 から新規導入
MathSciNet	数学	H13	1940 ~	Web	
SciFinder Scholar	化学	H16	1840 ~	Web	H16.11 から新規導入
Readers Guide to Periodical Literature	一般雑誌	H6	1983 ~	Web	H18.4 より ERL での提供から Web 版に変更 同時アクセス 1
Business Periodicals Index	経営学	H3	1982 ~	Web	同上 同時アクセス 1
EconLit	経済学	H3	1969 ~	Web	同上 同時アクセス 4
Index to Legal Periodicals & Books	法学	H3	1981 ~	Web	同上 同時アクセス 1
CiNii	多分野	H15	多種	Web	機関別定額制
聞蔵 II ビジュアル(朝日新聞)	新聞記事	H12	1945 ~	Web	同時アクセス 3
医学中央雑誌	医学	H5	1983 ~	Web	Web 版は H14 から 医学・保健にサービス
JapanKnowledge	全分野 (辞典等)	H17		Web	H17.6 から新規導入 同時アクセス 4
官報	官報記事	H18	1947.5 ~	Web	H18.4 から新規導入 同時アクセス 2

日経テレコン21	新聞記事等	H18	1975～	Web	H18.7から新規導入 H19.7より全学利用可
MAGAZINEPLUS	国内雑誌記事	H18	1945～	Web	H18.8から新規導入 同時アクセス3
J-DreamII	科学技術・医学・薬学	H19		Web	H19.6から新規導入 同時アクセス8
ヨミダス歴史館		H21	1874～	Web	H21.4から新規導入 同時アクセス2
毎日 News パック	新聞記事等	H21	1987～	Web	H21.4から新規導入 同時アクセス2
Marquis Who's Who on the Web.	人名録	H21	1985～	Web	H21.4から新規導入 同時アクセス1

- ・平成15年度途中に導入した引用索引データベース Web of Science SCIE（自然科学系）は、平成18年度までは間接経費、平成19～20年度は教育研究基盤資料整備費で契約を維持した。
- ・平成16年11月より、化学分野の基本データベースである SciFinder Scholar を導入した。導入にあたっては関係部局の研究者にアンケート調査を行ったうえ、受益者負担を求めることとした。経費の問題から、「同時アクセス数2」の契約となっている。
- ・利用統計状況から、平成21年3月で理科年表プレミアムを中止することを決定した。
- ・平成19年6月より科学技術文献情報の文献データベース J-DreamII を新たに導入した。
- ・平成21年よりヨミダス歴史館、毎日 News パック、Marquis Who's Who on the Web を導入した。
- ・各データベースの利用は別添統計の通りである。データベースにより、利用度合は大きく異なっている。

< 電子ジャーナル等バックファイルの整備 >

平成21年度教育研究活性化支援経費の配分により、電子ジャーナル等バックファイルの整備を行った。

- ・ Elsevier ScienceDirect 全期間全分野利用可
- ・ Web of Science
 - 自然科学分野(SCIE) (1971-1995 25年分)
 - 社会科学分野(SSCI) (1999-2008 10年分)
 - 人文科学分野(AHCI) (1999-2008 10年分)
- ・ Nature Archive (1900-1986)
- ・ JSTOR Arts & Sciences Collection (V, VI, VIII)

評価と課題

電子ジャーナルは研究者（大学院生を含む）にとって、不可欠な学術情報基盤環境となっている。平成19年度から3年間は、附属図書館審議会答申「教育研究支援強化のための諸施策の具体化について . 教育研究基盤資料の維持・整備方策（平成18年3月9日）」により、部局拠出経費を加味した全学経費を投入し、電子ジャーナルを含む外国雑誌及び各種データベース等の維持・整備を図ることが出来た。

今回、前の答申を踏まえ平成22年度からの次期中期計画における新たな維持・整備方策について、附属図書館審議会で検討し、答申案をまとめ、学長に答申した。これにより、平成22年度から2年間の維持・整備方策は方向性が定まった。なお、平成24年度以降の維持・整備方策については、平成22年度に全学的に検討することとされた。

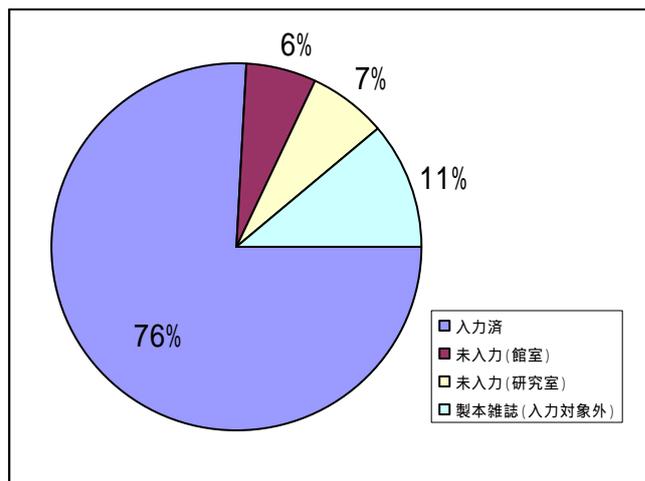
入力が遅れていたものであり、約 2 万点の内、会計学分野（1946-1991）2,495 点を入力した。カード目録の情報を利用した効率的な入力により入力計画を前倒しすることができた。

平成 20 年度から着手した中国語図書は、所蔵冊数の約半数にあたる約 18,000 冊を入力し終えた。現在社会科学系図書館、人文科学図書館の館室配置分（除く漢籍）が OPAC で検索できるようになっている。残る総合・国際文化学部図書館所蔵分についても次年度以降継続して入力を進めていく予定である。

平成 21 年度末現在入力状況

現在、全蔵書の約 76% が OPAC で検索できるようになっており、残る未入力冊数は約 86 万冊で全蔵書の約 24% にあたる。このうち館室配置図書については、和・洋古書、漢籍など入りに専門知識が必要な重要資料がまだ多数残されており、利用者へのサービス向上、蔵書の利用促進のためにも、経費や時間がこれまで以上にかかる予想されるが、引き続き入力を推進する必要がある。

また、数量的に大きな割合を占める製本雑誌（約 40 万冊）と研究室備付図書（1989 年以前受入）は、資産管理・利用の両面からこれらの入力計画を検討していかなければならない。



各館室の主な未入力資料群（平成 21 年度末現在）

総合・国際文化学部図書館	露語図書、中国語図書、漢籍、和古書、研究室備付図書
社会科学系図書館	統計書、マイクロ資料、和洋古書、中央図書、研究室備付図書
自然科学系図書館	旧兵庫農科大学蔵書、研究室備付図書
人文科学図書館	漢籍、和古書、研究室備付図書
人間科学図書館	旧姫路師範・兵庫師範・明石分校等蔵書、研究室備付図書
医学分館	研究室備付図書
経済経営研究所図書館	アメリカ文庫、リエゾンセンター、研究室備付図書

（４）資料の保存

< 貴重資料の保存 >

- ・ マイクロフィルムの劣化対策として、社会科学系図書館の 15,000 リールについて調湿・吸着剤を交換した。今後も、目録作業と並行して調湿剤の交換、状態調査を行う予定である。
- ・ 総合・国際文化学部図書館の稀覯本「菟絲子（ねなしかずら）」10 冊の修復補修を実施した。
- ・ 劣化への予備的な対策として、総合・国際文化学部図書館所蔵の江戸期刊行 和装本 386 冊を中性紙箱に収納した。
- ・ 人文学研究科地域連携センターの協力のもと、社会科学系図書館で未整理となっていた「郷土資料」の目録データ化を進めた。

- ・ 人文学研究科海港都市研究センターの協力を得て、社会科学系図書館で未整理となっていた「神戸海港文書」の目録データ化を進めた。
- ・ 貴重書収納保管庫を総合・国際文化学図書館及び海事科学分館に増設・設置した。

<一般資料の保存>

- ・ 社会科学系図書館書庫の一部書籍の酸性化が進んでいるため、中性紙封筒等に入れ別置保管を進めている。
- ・ 資料収容力確保のため、総合・国際文化学図書館に電動式集密書架を増設した。

<一般資料の廃棄>

- ・ 自然科学系図書館、人文科学図書館、人間科学図書館、医学分館及び海事科学分館において、製本雑誌を中心に 14,984 冊の資料の廃棄を行なった。

評価と課題

マイクロ資料については、定期的に必要とされる保全措置は行うことが出来たが、常に温度・湿度を適温に保つ環境が整備されているとは言えず、早急な解決策が望まれる。

和装本についても中性紙箱に収納する等の予備的な保存処理が実施出来た。

資料収容力確保については、昨年度保管責任館が決定したことを受け、書架スペースの確保の上からも保管責任館以外の館室で重複資料の廃棄処理が進められた。資料の保全措置、廃棄処理とも一過性でなく、今後とも継続していくことが必要である。

(5) その他の研究支援サービス

<相互利用サービス>

区分		総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計	
複写	受付	H21/H20	1.07	0.91	0.84	0.77	0.77	0.82	0.80	1.35	0.78	0.87
		H20 年度	302	5,038	1,937	1,133	709	457	1,841	541	486	12,444
		H21 年度	324	4,564	1,620	869	545	377	1,467	732	378	10,876
	依頼	H21/H20	1.39	1.05	0.82	0.96	0.83	0.74	0.75	0.61	1.00	0.83
		H20 年度	655	896	1,289	1,046	1,658	73	2,179	2,388	156	10,340
		H21 年度	908	945	1,059	1,000	1,375	54	1,626	1,446	156	8,569
貸借	受付	H21/H20	1.16	0.90	0.95	1.01	1.04	0.67	0.44	0.89	0.92	0.95
		H20 年度	248	1,665	197	511	187	46	18	19	128	3,019
		H21 年度	287	1,500	187	514	195	31	8	17	118	2,857
	依頼	H21/H20	0.92	0.64	0.61	0.99	0.71	3.50	0.86	0.25	0.83	0.82
		H20 年度	331	467	155	775	354	4	14	40	6	2,146
		H21 年度	305	301	94	767	251	14	12	10	5	1,759

- ・ 館によって増減はあるが、全体としては、文献複写の受付・依頼、現物貸借の依頼とも、前年度に比べて大きく減少しており、現物貸借の受付も減少している。

評価と課題

平成 21 年度は、平成 20 年度に比べて、文献複写の受付・依頼ともに大きく減少しており、やはり、電子ジャーナルの普及等に伴う文献複写の減少傾向は、続いているようだ。この傾向は、医学・自然科学分野だけでなく、人文・社会科学分野にも言えそうだ。しかし、いまだ受付・依頼ともに全体として 1 万件前後の利用があり、利用者ニーズを満たす上で、他大学との協力関係は不可欠である。

文献の迅速な提供体制構築のため、平成 20 年度から電子的文献送達システム(DDS:ドキュメント・デリバリー・システム)を、各館に設置している複写機のスキャナ機能を活用する方法に変更し、全館室で実施しているが、平成 21 年度からは、学外へも複写機のスキャナ機能を活用した資料提供を開始した。

また、平成 19 年 12 月の韓国海洋大学校図書館との図書館間協力協定に基づいて、平成 20 年度から資料交換の手続きを開始している。

4. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス

< 一般市民の図書館利用 >

- ・平成 17 年度から、総合・国際文化学図書館と海事科学分館において一般市民への貸出サービスを実施している。
- ・平成 20 年度と比べ、総合・国際文化学図書館では貸出冊数が増加したが、海事科学分館では大きく減少した。海事科学分館における貸出冊数の減少は、平成 21 年 7 月から学外者の書庫への立ち入りを禁止したことが影響しているものと思われる。

	総合・国際	海事科学分館
H20 年度	404	474
H21 年度	467	266

< 展示会・講演会の開催 >

- ・合同資料展
 - 2009 年 10 月 9 日（金）～2010 年 1 月 22 日（金）
 - 「資料が語る 阪神・淡路大震災の記憶と現在（いま）」
 - 会場 神戸大学附属図書館
社会科学系図書館「2 階展示コーナー」及び「震災文庫」
 - 会場 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
防災未来館 5 階「資料室」（無料ゾーン）
- ・講演会
 - 2009 年 11 月 28 日（土）13:30～15:30
 - 会場：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
防災未来館 1 階「ガイダンスルーム」
 - 講師 岩崎信彦（神戸大学名誉教授）
 - 講師 佐々木和子（地域連携推進室 地域連携研究員）



- ・1995 年 1 月 17 日の阪神・淡路大震災から 15 年という節目を迎えるにあたり、震災直後から関係資料を収集・保存し、広く一般に公開するという取り組みを続けてきた「震災文庫」の資料を中心とした展示会と、その関連の講演会を企画した。
- ・今回の企画は、初めての試みとして、「震災文庫」と同様の取り組みを行っている「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」との共催事業という形で実施したもので、今年度の本学地域連携事業の一つとして採択され、支援経費の配分を受けた。
- ・10 月 31 日（土）の第 4 回神戸大学ホームカミングデイには、約 140 名の来場者があり、展示会アンケートにおける感想は概ね好評であった。講演会には、一般市民を中心に約 50 名の参加があった。

- ・学内各部門、近畿地区各大学、及び近隣の公共図書館等へチラシ、ポスターを送付して広報した。
- ・図書館ホームページに展示品目録等を公開している。

< 公共図書館との協力 >

- ・前年度に引き続き、兵庫県大学図書館協議会で加盟館の図書館相互協力便覧や一般市民への公開状況を取りまとめ、同協議会ホームページ上で情報公開するとともに、県立図書館を通じて県内公立図書館への情報提供を行った。
- ・平成 20 年度から、兵庫県立図書館で公開されている兵庫県内図書館横断検索に参加し、県内公共図書館等との横断的な所蔵検索が可能となっている。

評価と課題

一般市民への資料の貸出サービスは、地域住民への生涯学習支援活動の一つとして評価できると考えている。

また、15 年という節目を迎えた阪神・淡路大震災関連の展示会及び講演会を、平成 21 年度の本学地域連携事業の一つとして、学外の関連機関との共催により実施し、概ね好評を得ることができたことは、地域社会との連携強化等の点から大きな成果であったと言えよう。今後とも、学外各方面との連携協力により、地域貢献の促進を図っていく必要がある。

(2) 震災文庫

< 資料収集と一般公開 >

- ・引き続き、様々なチャネルから情報収集を行い、購入や寄贈依頼等の積極的な収集活動により関連資料の網羅的収集に努めた。1,429 点 (H20 年度は 1,365 点) を収集し、資料所蔵総数は 4 万 5 千件を超えた。

	全点数 (タイトル数)	H21 新着		全点数 (タイトル数)	H21 新着
図書資料	6,641 (5,866)	137 (124)	地図資料	132 (126)	0 (0)
雑誌資料	12,454 (3,053)	159 (28)	動画資料	254 (211)	5 (5)
新聞・広報誌資料	14,528 (3,778)	928 (798)	音声資料	91 (71)	2 (2)
パンフレット資料	5,586 (5,537)	115 (114)	コンピュータ資料	83 (82)	2 (2)
一枚もの資料	5,986 (5,986)	80 (80)	www	7 (1)	0 (0)
写真資料	89 (87)	1 (1)	総合計	45,860 (24,807)	1,429 (1,154)

注) 雑誌等の各号を 1 冊ずつ数えた数が「点」(件)、同一タイトルを 1 と数えたのが「タイトル」。
写真資料はコレクション単位 (概ね撮影者単位) を 1 としているため、点数が少ないが、写真 2 万枚強のコレクションも含まれている。

<震災デジタルアーカイブ>

- ・ 資料全体のタイトル等だけでなく、掲載されている記事情報等からも検索できるよう、詳細なメタデータを継続的に作成している。本年度は、約 4,500 件を入力し、その結果、メタデータベースのレコード総数は約 25 万 4 千件となった。
- ・ 震災関係資料について、著作権許諾の得られた図書 3 冊、雑誌 1 タイトル (140 号分) をデジタル化し公開した。(前年度は図書 6 冊)
- ・ チラシ等一枚もの資料のうち著作権許諾の得られた 18 点 (前年度 18 点) をデジタル化し公開した。
- ・ 各機関から、防災資料作成等のための転載許可願いが、写真を中心に 87 件 (前年度 49 件) あり、著作権者へ許諾確認を行い回答した。
- ・ 2009.1 より開始した震災資料横断検索のデータ更新を継続している。

<展示会>

- ・ 収集した資料を広く学内外に紹介するため、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターと共同で展示会を開催した。(合同資料展「資料が語る 阪神・淡路大震災の記憶と現在(いま)」10/9-1/22)

<講演>

- ・ 専門図書館協議会セミナー (10 月、於：大阪商工会議所) に職員を派遣し、震災文庫の取組について「神戸大学震災文庫 10 年の経過と課題」と題する報告をした。
- ・ 地域連携推進室主催の地域連携活動発表会 (1 月、於：神戸大学) で、職員が「震災関係資料合同展示会及び講演会」の題で報告した。

評価と課題

震災文庫が特色ある図書館事業として評価を得ていることは、震災デジタルアーカイブの転載に関する問い合わせや講演の依頼が継続的にあることから分かる。特に本年度は 80 件を超える画像等の転載許可願いがあった。その一方、震災後 15 年が経過した現在、文庫設立当初の目的である震災の記録としての資料の収集点数はやや減少傾向にあると言える。

震災関係資料のより有効な活用を図るためには、地域関連機関との連携を強化し、一体として資料提供ができる仕組みを構築する必要がある。今年度は人と防災未来センターと共催という形で合同資料展を行い、お互いの資料を貸出して展示することを試みた。今後ともこのような連携の機会を作っていくことが、震災資料の収集活動の活性化にとっても、また震災資料の収集成果の社会還元という観点からも、重要であると考えられる。

(3) 電子図書館システムによる情報発信

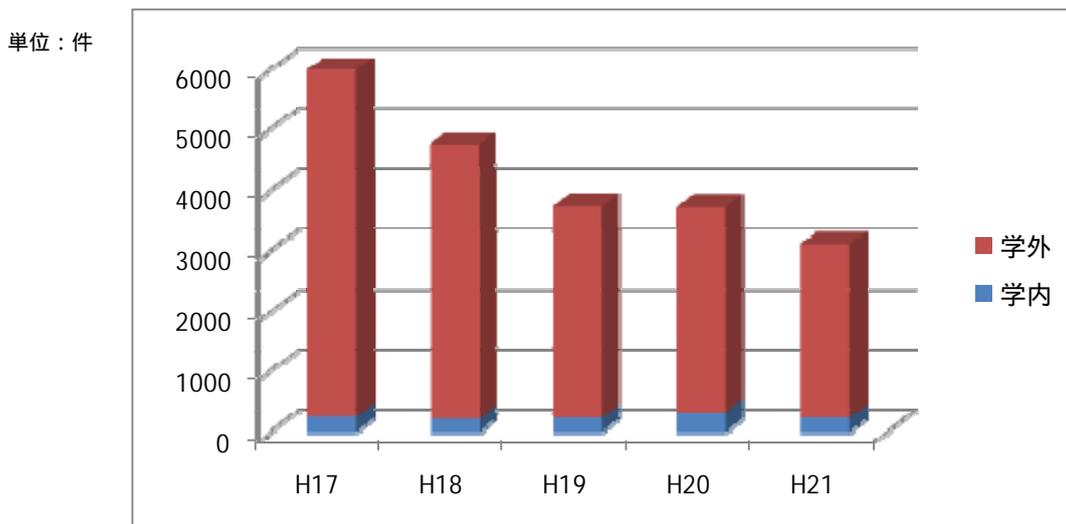
<「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築>

- ・ 同システムは当初全国 5 大学に「先導的電子図書館プロジェクト」として予算措置されたもので、本学には平成 10 年度補正予算で措置され、平成 11 年から稼働している。法人化後は電子図書館事業費として学内経費化され、運営を続けている。
- ・ 「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内研究成果」を 3 本柱に事業を推進し、デジタル化した資料を Web 上で公開してきた。経費には上記の電子図書館事業費と、科学研究費補助金研究成果公

開促進費（H11～15 震災デジタルアーカイブに措置、H16～ 戦前期新聞経済記事文庫に措置）を充ててきた。

- ・コンテンツのうち震災関係資料については、前節で述べた。

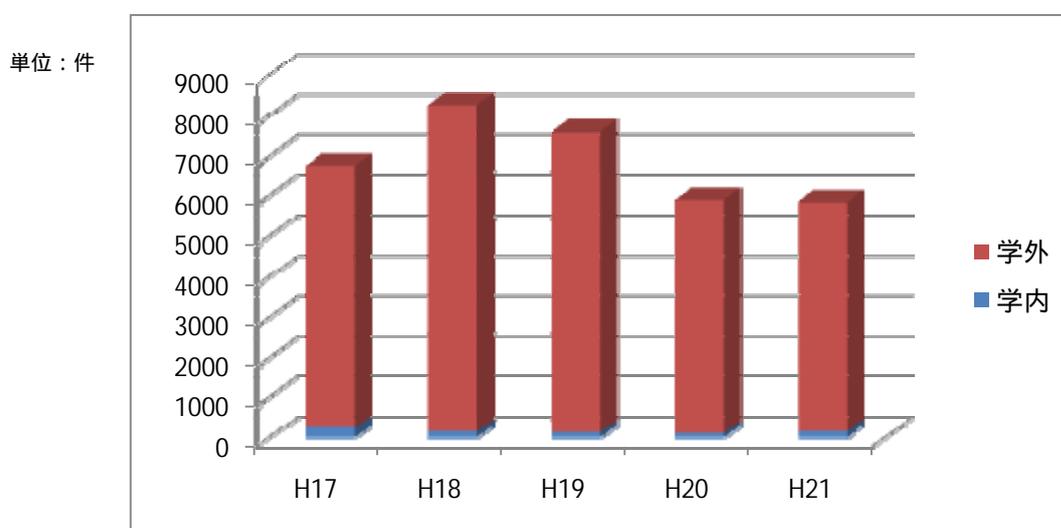
<震災文庫トップページ月平均アクセス数推移>



<経済関係資料デジタル化1>

- ・新聞記事文庫（戦前期記事切抜）デジタル化については、昨年に続き科学研究費補助金研究成果公開促進費（「戦前期新聞経済記事文庫データベース」）を獲得した（配分額 1330 万円）。「経済政策」「財政」分野など約 18,500 記事を全文テキスト化した（累計約 24 万記事）。このデジタル化の完成を目指すため、科研費交付を申請している（H22 年 4 月内定）。

<新聞記事文庫トップページ月平均アクセス数推移>



< 経済関係資料デジタル化 2 >

- ・住田文庫から「人乗早船取締三村申合」ほか計 8 点をデジタル化し公開した。
- ・昨年度電子化した「鈴木商報」7 年分(1910-1916)、「経済週報」3 年分(1923-1925)を公開した。
- ・「青島実業協会月報」3 年分(1918-1921)を電子化し、ウェブ公開に向けて準備中である。

< 学内研究成果資料デジタル化 >

- ・公開 4 年目を迎えた機関リポジトリは平成 21 年 7 月に収集点数が 1 万件となった。平成 22 年 3 月末現在 12,682 件(前年度末 8,992 件)の学術成果を一般公開している。詳細は次項に述べる。
- ・キク科の染色体数データベース(渡邊邦秋名誉教授作成)のデータ更新を続けている。
- ・新たに Arnaut Daniel の詩のコンコーダンス(菱川教授作成)を電子化し、公開した。
- ・引き続き学内研究成果メタデータ(書誌情報)として、紀要類記事情報(2,241 件入力、累積 37,274 件) 博士学位論文情報(710 件入力、累積 8,263 件)の入力を進めた。なお科学研究費成果報告情報については 2008 年度より報告様式が変わったため、更新を停止した。博士学位論文要旨について、第 1 集～53 集(1964-2000)の電子化を行い、これをもって、従来冊子で刊行されていた全ての要旨の電子化公開を完了した。新規授与分の要旨についても継続電子化を行った。また本文の公開のため著作権調査を行い、可能なものについて電子化公開を行った(今年度 164 件公開)。今後も継続して要旨、本文の電子化を行っていく。

評価と課題

新聞記事はその規模の大きさと希少性(戦前の記事切抜きはほとんど残っていない)から高い評価を得ており、主に外部からの利用が多数を占める(H20 年度トップページアクセス数 69,058 件のうち約 98%が学外からのアクセスである)。今年度も、科学研究費補助金研究成果公開促進費の獲得により計画どおりに電子化公開を進めることができた。

機関リポジトリについては次項に述べる。

(4) 機関リポジトリによる情報発信

< コンテンツ収集活動 >

- ・平成 18 年度に稼働を始めた神戸大学学術成果リポジトリ(Kernel)は、比較的順調に成長を続けている。平成 21 年度末現在のコンテンツ数は 12,000 件を越え、1 年間で約 3,600 件増加した。種別内訳は下表のとおりである。

一般雑誌記事	31	図書	14	会議発表論文	36
データベース	2	紀要論文	11,041	学術雑誌論文	962
研究報告書	31	博士学位論文	555	教材その他	8
合 計					12,680

- ・ 紀要論文は『国民経済雑誌』掲載論文の電子化公開を従来通り重点的に進めた。戦前(1906-1944)の刊行分について電子化作業を完了し、公開作業を進めた結果、1,359件を公開した。
- ・ 学術雑誌論文については、Kernelと連携している神戸大学研究者情報データベース(KUID)から得られる業績情報や、Web of Science等の文献情報データベース、研究者の個人ホームページ等から得た神戸大学研究者の論文情報をもとに登録の案内を継続して行った。その結果、論文の収集件数は342件であった(前年度165件)。
- ・ 神戸大学の博士号を持つ学内外の研究者を調査し、登録依頼を行った結果、収集件数164件であった(前年度230件)。また、博士学位論文公開を支援する目的で、論文内容及び論文審査結果の要旨集の電子化を継続し、過去分について遡及公開を完了した。新規授与分の要旨についても電子化を継続中である。

<広報活動>

- ・ 学内教員への浸透を図るため、前年度から開始している『Kernel通信』の第4号を発行した。
- ・ 7月に集録論文数が1万件となったことを記念して、2名の執筆者にインタビューを行うとともに、神戸大学ホームページのニュース欄に関連記事を掲載、またデジタルリポジトリ連合(DRF)のメーリングリストでの告知を行い、学内研究成果についての周知を図った。

<CSI事業>

- ・ 国立情報学研究所の「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業(CSI事業)」により、220万円の委託事業費を得た。
- ・ CSI事業は、領域1「機関リポジトリの構築と運用」では、上述『国民経済雑誌』戦前分の電子化を行った。
- ・ 領域2では、筑波大学、千葉大学、東京工業大学と連携して、学協会の「著作権ポリシー共有機能」の実現を目指し、学協会の著作権ポリシーについて引き続き調査を進めた。またこの活動の一環で、国立情報学研究所による平成21年度ポータル研修(8月、於：名古屋大学)およびDRF地域ワークショップ(9月、於：大阪大学)に著作権処理実務研修の講師として、それぞれ職員1名を派遣した。
- ・ さらに領域2では、島根大学が主管の遺跡資料リポジトリ事業に参画し、兵庫県の遺跡資料の収集・登録に向けて関係機関と協議の上、資料の電子化を行った。
- ・ CSI事業に関連する次のワークショップ、会議等に参加した。平成20年度CSI委託事業報告交流会(7月、於：学術総合センター)、DRF地域ワークショップ(近畿地区)DRF-Mt.Machikane(9月、於：大阪大学)、第5回DRFワークショップ「2009年、いま改めてリポジトリ」(11月、於：パシフィコ横浜)、遺跡資料リポジトリシンポジウム(11月、於：大阪大学)、DRF国際会議2009「オープンアクセスリポジトリの現在と未来」(12月、於：東京工業大学)、第6回DRFワークショップ「これまでの5年間、これからの5年間」(2月、於：北海道大学)。

<その他>

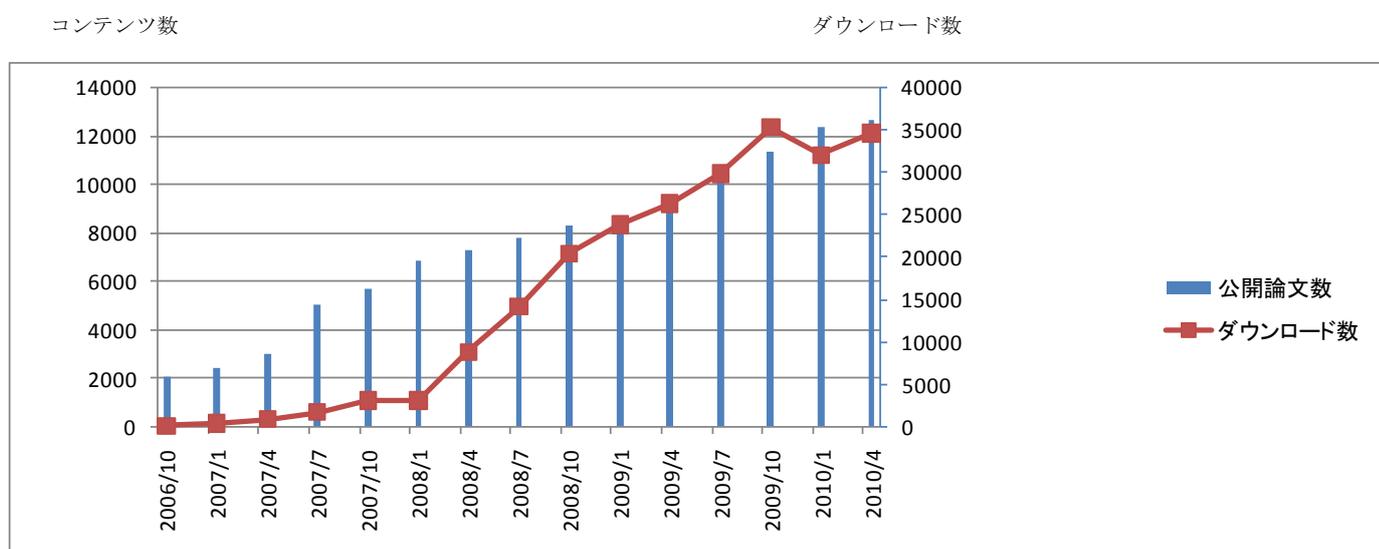
- ・ 兵庫県大学図書館協議会の平成21年度事業である「機関リポジトリ支援のためのWG」の活動に参加し、支援方法の検討を行った。また平成21年度兵庫県大学図書館協議会研究会(12月、於：関西学院大学)において、Kernel運用についての事例報告を行った。

◆評価と課題

コンテンツ数の増加に伴って、論文のダウンロード数も増加している。下のグラフはコンテンツ数と論文ダウンロード回数の推移を示している。2009年10月頃には月間約3万5000件となり、前年度同時期の1.5倍のダウンロード数であった。

また、『神戸言語学論叢』など、Kernelでの公開を発行元から依頼された学内紀要もあり。執筆者からの登録依頼も増加しつつある。ダウンロード件数の増加と併せて、学内外でKernelの認知度が高まってきたことが伺える。

今後も更に引き続き学内研究者の学術成果の収集と公開を行うとともに、事業を今後安定して遂行していくための業務ワークフローと労力配分を見極める必要がある。



(1) 国際連携

<韓国海洋大学校図書館との協力推進>

- ・ 予定通り韓国海洋大学校図書館との職員交流を開始した。本年度は、まず、韓国海洋大学校から職員2名を受け入れることとなり、김중학 (Kim Joong Hak)、김지은 (Kim Ji Eun) 両氏が10月13日に来学された(10月23日帰国)。図書館の概要説明に始まり、次の研修日程に従って、国立国会図書館関西館等の見学も交えて、本学の図書館業務全般についての説明を行った。

研修日程

月 日	図書館	9:30～12:00	13:30～16:30
10月13日	社会科学系図書館及び総合・国際文化学図書館		概要説明
10月14日		目録業務	目録業務・雑誌業務 展示会・震災文庫
10月15日		サービス業務・相互協力	情報リテラシー教育 / 図書館ホームページ
10月16日		デジタル・アーカイブ / 機関リポジトリ	デジタル・アーカイブ 図書館ホームページ
10月19日	海事科学分館	海事科学分館見学 / 海事博物館見学 / 深江丸見学	
10月20日		国立国会図書館関西館見学	
10月21日	自然科学系図書館	電子リソース	利用者講習会
10月22日		図書館システム	大阪大学附属図書館見学

- ・ 特に、15日から16日にかけては、情報リテラシー係とともに、図書館ホームページの韓国語化の共同作業を行い、実りある研修であった。

【研修風景】

(於：情報リテラシー係)

(於：電子図書館係)



評価と課題

初年度としては、比較的順調に進み、本学で行っている業務について十分に理解していただけたものと思われる。また、国立国会図書館関西館、大阪大学附属図書館のラーニングcommonsの見学も関心を持っていただけたようである。懸念された言葉の問題についても、6名の韓国人留学生の支援により特に大きな支障は見られなかった。

しかしながら、一方的に業務の説明をするだけでなく、今後、実際の業務研修を進めたり、互いに協力し合って何らかの事業を行うことになれば、いかにして円滑にコミュニケーションを取るかが課題となると思われる。

5 . 管理運営等

(1) 図書館組織と運営

< 管理運営全般 >

平成 21 年 3 月末に任期満了により武田廣館長（理学研究科教授）が退任し、4 月より部局長経験者である瀧澤栄治館長（法学研究科教授）が就任した。館長の交替に伴い、副館長 3 名が交替した。4 月 22 日に館長・副館長懇談会が開催され、図書館の現状と課題全般の確認と新たな役割分担が決められた。新任の副館長及び役割分担は以下のとおりである。

滝川好夫副館長（経済学研究科教授） 社会科学系図書館担当 広報担当
樋口保成副館長（理学研究科教授） 自然科学系図書館担当 国際交流担当
福長 進副館長（人文学研究科教授） 評価担当

< 館内諸会議 >

附属図書館運営委員会

- ・ 平成 21 年度は 5 回開催した。開催日時、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

附属図書館長・副館長・分館長懇談会

- ・ 平成 21 年度は 5 回開催した。開催日時、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

附属図書館評価委員会

- ・ 平成 21 年度はメール回議を含め 8 回開催した。開催日時、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

附属図書館研究開発室会議

- ・ 平成 21 年度はメール回議を含め 2 回開催した。開催日時、室員名簿、議事内容は、巻末添付資料に掲載。

全学図書系係長会議

- ・ 平成 21 年度は 3 回開催した。附属図書館事務部の部課長、補佐、係長及び経済経営研究所図書係長がメンバーで、全学図書館業務に係る実務的な会議である。
- ・ 開催日時、議題等一覧は、巻末添付資料に掲載。

< 図書館審議会答申の具体化 >

附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の整備方策」（平成 18 年 3 月）を受けて、平成 21 年度は全学経費として所要額 3 億円の財源を確保し、約 13,400 誌の電子ジャーナルと 29 種のデータベースを全学に提供した。また、共同利用を前提として外国雑誌購読について、購読額の 30%をこの経費から補填した。併せて、各館室で備え付けるべき高額図書（1 セット 10 万円から 500 万円まで）を整備した（20 点 2 千万円）。

更に「次期中期計画における教育研究基盤資料の維持・整備方策について（答申）」（H21.2.12）を受けて、附属図書館運営委員会で新規導入する電子ジャーナル及びデータベースが選定され、平成 22 年度は財源として 2 億 9 千百万円が措置され、平成 23 年度の財源も確保される見込みである。

評価と課題

附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の整備方策」(平成18年3月)により、平成19年度から平成21年度については、全学共通経費1.5億円及び部局拠出1.5億円の合計3億円を上限とし、電子ジャーナル及びデータベースの提供維持、20～30%の外国雑誌購読経費補填、高額教育研究基盤図書の整備を実施した。

更に「次期中期計画における教育研究基盤資料の維持・整備方策について(答申)」(H21.2.12)により、平成22年度から2年間の維持・整備方策の方向性が定まった。平成22年度は財源として2億9千百万円が措置され、電子ジャーナル及びデータベースの提供維持及び追加導入、20%の外国雑誌購読経費補填を実施することができ、平成23年度の財源も確保される見込みである。なお、平成24年度以降の維持・整備方策については、平成22年度に全学的に検討することとされた。

(2) 事務組織と人事管理

<図書館事務組織>

- 平成21年5月現在、附属図書館事務部は2課18係、定員49名、非常勤職員38名、経済経営研究所図書係は、定員3名、非常勤職員1名の91名となっている。
- 平成21年5月現在、職員の配置状況は、以下のとおりである。

地区	館室	配置係数等	定員職員	非常勤職員	計
六甲地区	総合・国際文化学図書館	サービス課長 2係	5	4	9
	社会科学系図書館	部長 管理課長・補佐 7係	20	19	39
	自然科学系図書館	管理課補佐 3係	8	4	12
	人文科学図書館	1係	3	2	5
	人間科学図書館	1係	3	2	5
	経済経営研究所図書館	1係	3	1	4
	楠地区	医学分館	サービス課補佐 2係	5	3
名谷地区	保健科学図書室	1係	1	2	3
深江地区	海事科学分館	サービス課補佐 1係	4	2	6
			52	39	91

- 現在のところ、社会科学系図書館が事実上の中央館として機能しており、企画係・管理係が全館の総務機能を、図書受入係・雑誌情報係・目録情報係は、当該業務に係る全館調整機能と社会科学系図書館及び総合・国際文化学図書館の整理業務を担当している。
- 情報管理課の電子図書館係(社会科学系図書館配置)、同情報システム係(自然科学系図書館配置)及び情報サービス課の情報リテラシー係(総合・国際文化学図書館配置)は、当該業務の全館調整機能を果たしている。
- 情報管理係は、自然科学系図書館及び医学分館に配置し、各館の総務機能と整理部門を担当し、各館室に配置する情報サービス係は、主に各館室のサービス業務を担当している。

< 職員の採用と育成 >

- ・ 平成 20 年度末の図書系職員の他大学との人事交流に伴い、近畿地区国立大学法人等職員採用試験図書系専門試験受験者の中から平成 21 年度に職員 1 名を新規採用した。
- ・ 平成 20 年度に実施した「附属図書館初任者等研修」は、平成 21 年 4 月に新規採用が無かったため平成 21 年度は実施しなかった。他大学からの異動で配置された新任職員は「神戸大学新任職員研修」を受講した。受講者は 1 名。
- ・ 図書館では、事務系職員の「身上調書」とは別に図書系職員の「意向調書」を実施している。平成 21 年度も職員のキャリア形成に係わる目標や希望に加えて、業務内容やスキルの分析、業務目標の達成度評価等を盛り込み、よりの確な聴取に努め、その結果研修計画等に反映した。
- ・ 国立情報学研究所の主催する各種研修、大学図書館職員長期研修、主題専門知識の研修等に職員を派遣し、スキルアップに努めた。今年度参加の主な研修は次のとおりである。

区分	研修名	主催	日程	参加者
若手職員向けの基礎研修	図書館等職員著作権実務講習会	文化庁	9/2～4	係員 1
	大学図書館職員短期研修	国立情報学研究所	9/29-10/2	係員 1
中堅職員向けの研修	大学図書館職員長期研修	筑波大学	7/6～17	係員 1
	大学図書館近畿イニシアティブ基礎研修「中級研修」	大学図書館近畿イニシアティブ	10/15～16	係員 4
個別業務の専門的知識のための研修	西洋古典資料保存講習会	一橋大学社会科学古典資料センター	7/13～15	係員 1
	学術ポータル担当者研修	国立情報学研究所	8/5-7	係員 1
	古文書合宿	人文学研究科	9/2～4	係員 2
	目録システム講習会【図書コース】	国立情報学研究所、神戸大学	9/2～4	係員 1 非常勤 1
	漢籍担当職員講習会(初級)	京都大学東アジア人文情報学研究センター	10/5～9	係員 1
	近畿地区国立大学法人等会計事務研修	京都大学	10/6-9	係員 1
	学術情報リテラシー教育担当者研修	国立情報学研究所	10/21～23	係員 1
	NAIST 電子図書館学講座	奈良先端科学技術大学院大学	10/29～30	係員 1
	科学技術情報資料研修	国立国会図書館	11/5～6	係員 1
	西洋社会科学古典資料講習会	一橋大学社会科学古典資料センター	11/10-13	係員 1
	学術情報リテラシー教育担当者研修	国立大学図書館協会中国地区協会	1/21-22	係員 1
職員自己啓発研修(接遇マナー)	神戸大学	-----	係員 3 非常勤 8	
1 日以内の講演会・研修会等	各種講演会等 「機関リポジトリ概論：講演会」「利用者から学ぶ：シンポジウム」「学術情報流通の改革を目指して：シンポジウム」「利用者が使いやすい OPAC：研究集会」「図書館における資料保存：研修会」「近畿地区リポジトリ実務者研修」「次世代 OPAC を考える：講演会」他	兵庫県大学図書館協議会、国立大学図書館協会、兵庫県図書館協会、大阪大学、京都大学ほか（主に近畿地区で開催されるもの）	各半日～1日	管理職を含め 延べ 40

- 平成 21 年度に職員研修費が臨時的に追加配分されたことにより、新規業務や将来構想に関わる課題解決のために他大学への調査出張及び職員の専門性向上・知識習得を目的とした学外研修等に職員を派遣した。主な研修は次のとおりである。

区分	調査目的・研修名	調査先・主催	日程	参加者
調査出張	自然科学系図書館の増築に伴う自動化書庫の調査	九州大学伊都図書館 長崎県立図書館	2/18～19	課長 1 係員 2
	自然科学系図書館の増築に伴う自動化書庫調査	東京大学柏図書館 国際基督教大学図書館	2/18～19	補佐 1 係長 1 係員 1
調査出張	展示会調査及び大学文書史料室設置に伴う管理運営調査	長崎大学図書館 九州大学大学文書館	2/15～16	部長 1 係長 1
	大学文書史料室設置に伴う管理運営調査	国立公文書館 名古屋大学大学文書資料室	3/8～9	課長 1 係員 1
調査出張	外国雑誌センター館の管理運営調査	一橋大学附属図書館 東京工業大学附属図書館	2/4～5	係長 1 係員 1
職員の専門性向上・知識習得等の学外研修	ILLシステム講習会	国立情報学研究所	12/7	係員 1
	国立国会図書館レファレンス研修	国立国会図書館	2/25～26	係員 1
機関リポジトリ関連研修	第6回DRFワークショップ 国立大学図書館協会北海道地区協会セミナー	北海道大学	2/5-6	係長 1

評価と課題

学外の各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題に関わる研修に職員を派遣した。また、学内の接遇マナー研修や人文学研究科の古文書研修を職員に受講させた。その研修成果は、報告書提出の義務付けにより他の職員の能力開発に役立っている。特に平成 21 年度は西洋古典資料保存講習会に参加した職員を講師として、洋装古典籍修復の講習会を図書館職員を対象として実施した。

また、平成 20 年度国立大学図書館協会海外派遣事業に応募し、選抜された本学職員をイリノイ大学モータンソンセンターに平成 20 年 9 月から 8 週間の研修プログラムで派遣し、研修成果は平成 21 年度の「大学図書館研究」への雑誌投稿や国立情報学研究所主催の大学図書館職員短期研修の講師等により発揮されている。

<業務の改善と効率化・合理化>

業務の標準化・合理化

- 文献複写サービスに関しては、平成 20 年度から複写機のスキャナ機能を活用した手法により学内の全館室間で実施し、学内での迅速な資料提供体制を構築した。平成 21 年度からは学外に拡充し迅速な資料提供を開始した。
- 本学卒業生及び修了者に対する図書資料の貸出について、平成 20 年度に実施に向けた諸準備を行い同年度末から運用を開始した。平成 22 年 3 月末現在の登録者数は 319 名である。
- 業務改善プロジェクトの業務削減対応策による「選書データベースを活用した書店発注システム」が平成 20 年 12 月に図書館業務システムの追加機能として稼働したが、この機能を引き継ぐとともに、予算管理の一元化等、会計処理の効率化を図るため、図書館業務システムの会計処理の部分を平成 22 年 4 月から図書の会計処理を新財務会計システムに移行して実施している。これらの機能実現のため、新財務会計システムの構築作業に附属図書館職員も参画した。

アウトソーシング

定員削減等に対応し、業務の軽減方策として、図書館業務に関しては、雑誌製本業務、目録登録業務（以上は平成 19 年度から既定経費化）、目録遡及入力業務、社会科学系図書館及び医学分館の時間外開館業務、文献複写業務、電子化コンテンツの作成を平成 20 年度に引き続き外部委託している。

業務改善の検討

- ・ 「神戸大学業務改善プロジェクト報告書」(平成 18 年 7 月)を受け、図書館において業務改善により削減可能な時間数は最終的に 8,373 時間(定員内 5,613 時間、非常勤 2,760 時間)となった。これにより、平成 18 年度末定員 1 名、平成 19 年度末定員 1 名、非常勤 1 名、平成 21 年度末定員 1 名の削減計画を立て、平成 21 年度末までに合計定員 3 名、非常勤 1 名の削減を実施した。
- ・ 平成 18 年度に発足した業務改善推進プロジェクトにより 6 月と 11 月の 2 回、業務改善策の進捗状況について報告を行った。図書館の業務改善策のうち、複写経費一元化、文献複写経費一元化、図書予算配分方法の見直し及び外部資金で購入する図書の購入方法の見直しについては、関係部署と協議の上、大学全体の業務改善にはならない等のため、対応策は実施困難であることが了承された。
- ・ 業務改善プロジェクトの業務削減対応策による「選書データベースを活用した書店発注システム」が平成 20 年 12 月に稼働したが、平成 22 年 4 月稼働の新財務会計システムにこの機能を引き継ぎ、さらに、予算管理の一元化等、会計処理の効率化を図るため、平成 22 年 4 月から図書の会計処理を新財務会計システムで実施する予定のため、検討課題であった下記(1)～(3)については業務削減が可能となる見込みである。
 - (1)図書購入方法の見直し (削減効果 未定)
 - (2)図書予算の大括り化 (削減効果 900 時間)
 - (3)予算確認・調整業務の廃止(削減効果 600 時間)
- ・ 引き続き検討しなければならない図書館の業務改善策は下記であるが、全学の運用保守管理体制の一部であり、図書館単独での実施は困難とし、ICT 戦略での全学的な検討が必要である。
 - ・ 情報システム運用管理・保守管理業務のアウトソース(図書館システム)
(削減効果 800 時間)

(3) 予算及び財務会計業務

<平成 21 年度附属図書館予算・決算>

経常運営費

- ・ 平成 21 年度当初予算 181,303 千円 決算額 186,358 千円であった。
- ・ 平成 20 年度の当初予算 179,604 千円、決算 181,063 千円に比較して、当初予算は、少し増額、決算額は大幅な増額となった。(当初予算額 H20 予算比 1,699 千円 0.9%増、H20 決算比 5,295 千円 2.9%増)

経常事業費

- ・ 平成 21 年度当初予算 236,778 千円 決算額 230,297 千円であった。
- ・ 平成 20 年度の当初予算 246,850 千円、決算 245,998 千円に比較して、当初予算、決算額とも大幅な減額となった。(当初予算額 H20 予算比 10,072 千円 4.1%減、H20 決算比 15,701 千円 6.4%減)

- ・平成 21 年度の学生用資料費予算は、e-study 経費が 1,500 千円増額されたことにより、H20 予算 63,000 千円から H21 予算 64,500 千円に増額された。

臨時的経費

- ・教育研究基盤資料整備費により、外国雑誌を含む電子ジャーナル、データベース及び高額教育研究基盤図書の維持及び整備を実施した。(3 億円【全学経費 1.5 億円 + 部局拠出分 1.5 億円】)
- ・部局長裁量経費及び収入確保インセンティブ経費等は、主に防犯カメラ装置設置(人間、保健、海事) 資料収容力確保のための電動式集密書架増設(総合・国際)等の図書館施設の整備を図るために使用した。
- ・教育研究活性化支援経費(約 90,000 千円)により、電子ジャーナル及びデータベースのバックアップの大幅な充実が図れた。

その他の経費

- ・電子図書館事業に関連して新聞記事文庫コンテンツ作成のため、科学研究費補助金 13,300 千円を獲得
- ・神戸大学学術成果リポジトリの推進のため、国立情報学研究所の「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業(CSI 事業)」委託事業費 2,000 千円を獲得
- ・山口文庫資料購入のため、山口誓子奨学寄付金 774 千円を獲得
- ・図書目録遡及入力力の推進として、国立情報学研究所の平成 21 年度次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業総合目録データベース遡及入力事業に応募の結果、採択され「米国主要大学学位論文マイクロフィルムコレクション」の会計学分野(1946-1991)2,495 点を入力

- 平成 21 年度附属図書館予算及び決算を巻末に添付する。

評価と課題

附属図書館審議会答申「教育研究基盤資料の整備方策」を受けて、平成 21 年度予算についても、教育研究基盤資料整備費として所要額 3 億円の財源を確保し、13,400 誌の電子ジャーナルと 29 種のデータベースを全学に提供している。併せて、各館室で備え付けるべき高額図書(1 セット 10 万円から 500 万円まで)を整備した(20 点 2 千万円)。また、学生用資料費は昨年度より 150 万円多い 64,500 千円を確保し学生用資料の充実を図った。学生一人当たり一冊以上の図書の購入が実現できている。

平成 21 年度も、平成 20 年度と同様に労働安全衛生の観点からの施設補修、設備改修等の整備を実施した。予算的には、全学経費(施設部営繕予算)及び部局長裁量経費等による実施であるが、平成 22 年度から部局長裁量経費がなくなることを考慮し、その枠内でできるだけの整備を前倒しで行った。平成 22 年度以降は経常運営費や経常事業費より図書館施設の整備費を捻出する必要があり、今後の課題となっている。

< 図書資産の管理 >

図書資産の点検

平成 21 年度は下記の図書館の点検を授業休業期間等実施した。
(作業館)総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館、海事科学分館で、合わせて 350,049 冊。
なお、平成 21 年度は、不用資料の処分を実施した。(16,002 点、資産価格 80,375,610 円)

評価と課題

本学図書資産の点検は、資産の効率的運用を図るために中期計画期間（平成 16-21 年度）中の一巡することを目標として作業を進めて来た。今年度が 6 年計画の最終年であり、総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館及び海事科学分館において 35 万冊の図書資産点検を実施し、当初の目標を達成した。

教育研究活動に応じた効率的なスペース配分を図るため、昨年度 WG により雑誌について保管責任館が決定したことを受け、書架スペースの確保のため保管責任館以外の館室において、重複資料の廃棄処理が進められた。

（４）施設整備・システム整備

< 図書館施設の現況 >

- 平成 21 年度の図書館施設整備状況について、全 9 館室の概況をまとめた。各館室別データは、巻末基本統計のとおりである。
- 平成 21 年度の経済経営研究所の改築により、施設総面積が約 200 m²減った。

	H20 年度末	H21 年度末	分析指標
施設総面積	26,234 m ²	26,027 m ²	学生あたり面積 1.55 m ² 1.51 m ²
図書収容力	3,081,200 冊	3,026,500 冊	蔵書数に対する収容可能率 86.5% 84.0 %
閲覧座席数	1,718 席	1,753 席	学生数に対する座席率 10.1% 10.2 %

【参考：Aクラスの国立大学（8学部以上の18大学）の平均値 平成 20 年度学術情報基盤実態調査結果報告より】

施設総面積	28,256 m ²	学生あたり面積	1.73 m ²
書架収容力	2,843,339 冊	蔵書数に対して	94.9%の収容力
閲覧座席数	1,890 席	学生数に対して	11.6%の座席率

< 各館室の施設整備 >

- 平成 21 年度整備した主な事項は、以下のとおりである。
 - 総合・国際文化学図書館：電動式集密書架増設、大型本収納棚更新
 - 社会科学系図書館：大閲覧室閲覧机補修
 - 人文科学図書館：コイン式ロッカー設置
 - 自然科学系図書館：閲覧用書架増設、ブックチェックユニット更新
 - 人間科学図書館：視聴覚資料収納棚増設、コイン式ロッカー設置、書架サイン増設
 - 医学分館：視聴覚資料収納棚増設、新聞保管棚更新
 - 保健科学図書室：閲覧用書架増設
 - 海事科学分館：視聴覚資料収納棚増設、コイン式ロッカー設置、新聞保管棚更新

< 安全点検 >

- 労働安全衛生法に基づく衛生管理者を置き、毎週点検を実施した。
- 平成 21 年度の労働安全衛生に関連する改善事項を記す。

総合・国際文化学図書館	利用案内サイン見直し 防犯カメラ装置増設 書庫出入口電気錠設置 防犯カメラ表示サイン設置
-------------	---

社会科学系図書館	外壁タイル剥落部分補修工事 空調設備更新 書庫(A棟・B棟)・管理棟エレベータ改修 書庫出入口電気錠設置 管理棟女子トイレ防犯ブザー設置 防犯カメラ表示サイン設置
人文科学図書館	防犯カメラ表示サイン設置 閲覧室窓防犯ブザー設置
自然科学系図書館	外壁タイル剥落部分補修工事 空調設備修理 防犯カメラ表示サイン設置
人間科学図書館	防犯カメラ装置設置 防犯カメラ表示サイン設置
医学分館	防犯カメラ表示サイン設置
保健科学図書室	屋上防水工事 防犯カメラ装置設置 防犯カメラ表示サイン設置
海事科学分館	書庫窓防犯ブザー設置 エレベーター用インターフォン増設 防犯カメラ装置設置 防犯カメラ表示サイン設置

評価と課題

社会科学系図書館本館及び管理棟の空調設備更新や大閲覧室に設置されている大型閲覧機補修により、快適な閲覧・学習環境及び執務環境となった。また総合・国際文化学図書館、人間科学図書館、保健科学図書室、海事科学分館で防犯カメラの増設及び設置を行い、更に防犯カメラ表示サインを全館室に設置することで安全安心のための設備改善ができた。

社会科学系図書館では書庫(A棟・B棟)及び管理棟エレベータが改修されたが、書庫(C棟)のエレベーターは老朽化が激しく使用に苦慮をしている状態である。またトイレ改修工事や自然科学系の空調設備更新等は喫緊の課題であり、要求は引き続き行っている。

<システム整備>

- ・平成 22 年 4 月から財務会計システムにより図書支払業務を行なうための準備として、同システム構築作業への参加、及び図書館システムの改造を実施し、システム間の連携を実現した。

評価と課題

財務会計システムとの連携においては平成 22 年度以降、教職員双方の予算確認業務の軽減・リアルタイム化による業務合理化が実現される見込みである。

また、平成 22 年度は業務システムやデジタル・アーカイブを含む図書館システムが更新されるため、その導入作業を実施し、統合的な情報提供機能の実現などの機能強化によるサービス向上及び業務効率化、他システムとの連携強化を図る。また、図書館内ネットワーク機器が更新される予定であるため、システム全体の運用環境の整備・向上が見込まれる。

(5) 図書館界での諸活動

< 国立大学図書館協会 >

- ・ 総会において、引き続き監事館に選出され、協会活動の監査業務を行うとともに、理事会に出席した。
- ・ シンポジウムの西日本会場館として運営に協力した。

< 兵庫県大学図書館協議会 >

- ・ 平成 20 年度に引き続き、会長館、事務局として協議会の運営にあたった。
加えて研修事業においては、研修担当館による事業の企画・運営を事務局として補助した。
 - ・ 講演会「機関リポジトリ概論」
 - ・ 研究会「兵庫県大学図書館協議会研究会・ワークショップ DRF/ShaRe-Hyogo」
 - ・ 施設見学会「大阪大学附属図書館 ラーニングコモンズ」
- ・ 平成 21 年度も海外研修事業を継続し、海外研修者を募集した。
- ・ 県の大学図書館にとどまらず、公共図書館や大学図書館近畿イニシアティブ加盟館とも連携強化を図っている。
- ・ 平成 21 年度の活動成果として、各加盟館における「アウトソーシングの現状」や「図書館広報活動」の状況を把握することにより、今後の大学図書館の在り方を考える上でも貴重な情報共有ができた。さらに図書館利用教育、情報検索指導や情報リテラシー教育実施等の図書館における様々な活動を調査することにより、教育・学習支援活動の現状を把握し、さらなる展開を模索する情報を得ることができた。いままでの活動に加えて「機関リポジトリ」について各加盟館の関心や取り組みを調査し、機関リポジトリの運用を考える上での有効な情報交換を行った。
- ・ 平成 21 年度の新規事業として、「機関リポジトリ支援のためのWG」を設置し、加盟館からWGメンバーを募り、6回の会議において支援方法を検討し、WGからの報告書をまとめた。

< その他 >

- ・ 近畿地区国立大学等職員採用図書系専門試験実施委員会の委員を務めた。
- ・ 近畿イニシアティブ運営委員会の委員を務め、また運営委員会の開催協力をおこなった。
- ・ 近畿イニシアティブ能力開発専門委員会の委員を務めた（目録情報係長）。

評価と課題

国立大学図書館協会や兵庫県大学図書館協議会の活動において、会員間のより緊密な連携と協力を図ることによって、それぞれの図書館機能の向上を支援するとともに、学術情報資源の共同整備と相互利用を促進させることへのメリットが大きい。

兵庫県大学図書館協議会における海外研修等の実施計画により、大学図書館職員の資質向上を図ることは、新たな人材育成の推進となる。また「機関リポジトリ」に関する様々な活動により、各加盟館の関心を向上させるとともに、貴重な情報交換の場を提供することが新たな支援になっていると思われる。

附属図書館蔵書・受入等の現況(平成21年度)

		総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計		
蔵書	蔵書数 (冊)	510,182	1,277,445	475,745	287,218	325,137	274,545	138,902	63,398	252,261	3,604,833		
	和洋区分	和漢書	363,627	598,943	250,216	180,194	250,954	119,157	57,395	54,555	195,189	2,070,230	
		洋書	146,555	678,502	225,529	107,024	74,183	155,388	81,507	8,843	57,072	1,534,603	
	目録状況	目録入力対象	446,000	903,000	308,000	246,000	244,000	209,000	58,000	52,000	202,000	2,668,000	
		入力済	342,000	798,000	208,000	211,000	198,000	154,000	38,000	51,000	201,000	2,201,000	
		未入力	104,000	105,000	100,000	35,000	46,000	55,000	20,000	1,000	1,000	467,000	
	所蔵雑誌数 (タイトル数)	2,320	8,448	5,032	3,998	2,393	4,030	2,121	1,049	4,668	34,059		
	和洋区分	国内雑誌	1,425	2,297	2,329	2,873	1,697	1,930	715	834	3,144	17,244	
		外国雑誌	895	6,151	2,703	1,125	696	2,100	1,406	215	1,524	16,815	
	図書受入	受入図書数 (冊)	4,181	4,993	21,565	6,782	4,852	5,950	1,232	2,997	2,797	59,003	
和洋区分		和漢書	4,111	3,812	13,215	4,512	3,558	4,787	823	2,496	2,152	42,559	
		洋書	70	1,181	8,350	2,270	1,294	1,163	409	501	645	16,444	
取得手段		購入(一般財源)	4,140	3,673	12,038	3,283	2,113	4,039	794	1,249	1,269	34,785	
		補助金による購入	0	1,010	4,867	1,493	1,564	1,236	150	671	340	11,452	
		一般寄贈	0	181	1,812	921	653	239	105	425	284	5,643	
		製本編入	41	129	2,848	1,085	522	436	183	652	904	323	
取得目的		学生用図書	4,084	925	5,453	3,226	514	2,599	117	1,595	1,486	23,103	
		図書館備付	0	846	9,321	446	2,963	141	627	678	904	16,249	
		研究室備付	97	3,222	6,791	3,110	1,375	3,210	488	724	407	19,651	
除却・移譲等による減 (冊)		0	346	796	7,744	547	1,876	6	1,224	108	5,195	17,842	
和洋区分		和漢書	0	233	623	5,663	395	1,423	6	785	105	13,050	
		洋書	0	113	173	2,081	152	453	0	439	3	4,792	
年間増加数 (冊)		4,181	4,647	20,769	-962	4,305	4,074	1,226	1,773	2,689	-1,541	41,161	
和洋区分		和漢書	4,111	3,579	12,592	-1,151	3,163	3,364	817	1,711	2,047	-724	
		洋書	70	1,068	8,177	189	1,142	710	409	62	642	-817	
雑誌受入		受入雑誌数 (タイトル数)	136	425	3,502	1,224	1,869	990	979	758	402	11,045	
	和洋区分	国内雑誌	108	349	1,232	889	1,599	861	474	496	345	7,002	
		外国雑誌	28	76	2,270	335	270	129	505	262	57	4,043	
	取得手段	購入(一般財源)	136	133	3,194	750	338	401	362	236	126	5,861	
		補助金による購入	0	0	30	0	0	0	0	80	0	110	
		一般寄贈	0	292	278	474	1,531	589	617	442	276	5,074	
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	取得目的	学生用雑誌	108	37	51	174	23	153	0	204	114	1,159	
		図書館備付	0	343	3,150	778	1,844	589	976	444	276	8,822	
		研究室備付	28	45	301	272	2	248	3	110	12	43	
その他資料受入	受入新聞数 (タイトル数)	9	0	30	10	6	6	11	5	7	13		
	和洋区分	国内新聞	6	0	25	9	4	6	6	4	7		
		外国新聞	3	0	5	1	2	0	5	1	0		
	取得手段	購入	8	0	30	10	6	6	11	5	4		
		寄贈	1	0	0	0	0	0	0	0	3		
	データベース(年間契約点数)	18	0	5	1	0	0	0	5	0	0		
電子ジャーナル(利用可能数)	13,400												
資料購入費	一般財源資料費	381,067,198	22,704,115	200,870,777	57,486,750	23,002,658	27,669,092	22,374,272	31,719,284	13,444,056	14,610,055	794,948,257	
	図書館セグメント	学生用図書	16,268,967	2,862,632	14,421,937	14,683,175	3,546,457	4,057,134	927,514	6,095,567	3,763,822	4,542,945	71,160,150
		高級教育研究基盤図書費	0	1,659,506	8,042,872	1,174,800	3,023,650	2,601,598	0	1,837,500	315,900	1,347,360	20,003,186
		その他資料費	361,591,641	0	38,727,622	995,742	0	0	0	0	0	0	401,315,005
	部局セグメント	館室備付	1,079,116	5,439,421	118,182,965	22,362,835	9,876,695	5,968,765	20,341,485	22,417,663	7,207,000	6,683,968	219,559,913
		研究室備付	2,127,474	12,752,556	21,495,381	18,270,198	6,555,856	15,041,595	1,105,273	1,368,554	2,157,334	2,035,782	82,910,003
	その他の財源 補助金等	3,795,250	5,047,299	37,198,011	13,117,684	11,820,695	6,340,956	1,173,028	10,097,540	1,444,300	1,307,730	91,342,493	
	図書購入費	11,565,774	22,269,505	117,872,692	33,034,410	23,608,920	23,797,531	9,234,547	14,167,901	8,572,816	11,327,157	275,451,253	
	和洋区分	和漢書	10,803,020	14,258,563	43,296,916	16,908,096	15,289,894	15,797,417	3,119,071	11,295,487	7,345,757	6,335,590	144,449,811
		洋書	762,754	8,010,942	74,575,776	16,126,314	8,319,026	8,000,114	6,115,476	2,872,414	1,227,059	4,991,567	131,001,442
	雑誌購入費	64,698,792	2,295,423	103,854,032	16,294,500	7,897,398	9,094,541	11,111,750	15,927,773	5,623,529	4,065,171	240,862,909	
	和洋区分	国内雑誌	661,777	617,979	26,403,317	5,319,008	1,840,423	3,339,604	1,506,120	3,763,303	2,210,450	1,577,819	47,239,800
		外国雑誌	64,037,015	1,677,444	77,450,715	10,975,492	6,056,975	5,754,937	9,605,630	12,164,470	3,413,079	2,487,352	193,623,109
	新聞購入費	364,690	0	2,856,062	477,936	297,576	245,175	749,410	247,656	164,760	483,568	5,886,833	
	電子資料費	308,207,919	420,000	8,612,029	13,107,323	0	0	0	7,813,981	148,750	0	338,310,002	
	その他の資料購入費	25,273	2,766,486	4,873,973	7,690,265	3,019,459	872,801	2,451,593	3,659,513	378,501	41,889	25,779,753	
	資料購入費計	384,862,448	27,751,414	238,068,788	70,604,434	34,823,353	34,010,048	23,547,300	41,816,824	14,888,356	15,917,785	886,290,750	
電子コンテンツ作成費	16,350,202												
製本費	364,140	6,100,416	2,324,070	1,428,588	933,723	391,986	1,396,584	1,936,368	700,182	15,576,057			

附属図書館サービス業務の現況(平成21年度)

		総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計	
施設	施設面積合計(m ²)	3,558	10,707	3,287	1,414	1,474	957	1,612	848	2,170	26,027	
	現行用途別(m ²)	サービススペース	1,954	2,365	1,577	775	538	136	838	653	719	9,555
		書庫スペース	1,208	5,801	449	473	714	760	431	38	1,051	10,925
		事務スペース	130	524	351	115	89	52	163	35	159	1,618
		その他	266	2,017	910	51	133	9	180	122	241	3,929
	閲覧座席数	閲覧座席数	450	411	222	105	151	11	182	78	143	1,753
		上のうち、教員用	0	0	0	0	0	11	0	0	0	11
書架収容力	棚板延長(m)	12,286	48,890	10,535	8,824	7,857	6,833	5,616	1,723	7,258	109,822	
	収容可能冊数	341,300	1,358,000	292,600	245,100	218,300	189,800	156,000	47,900	201,600	3,050,600	
利用者端末台数		49	44	40	17	18	2	16	12	12	210	
利用者	利用対象者総数	6,401	3,985	5,397	805	1,330	56	2,445	825	1,021	22,265	
	利用者別	学部学生	5,628	1,975	2,203	322	690	0	420	357	554	12,149
		大学院生	258	1,312	1,865	270	369	0	506	283	252	5,115
		教職員	390	508	1,283	179	247	53	1,412	161	184	4,417
		その他	13	31	13	6	1	3	90	4	1	162
		学外登録者総数	112	159	33	28	23	0	17	20	30	422
内訳: 卒業生等319、放送大学58、一般市民45												
開館入館	開館日数	年間	276	315	278	273	272	230	288	257	262	2,451
		土曜(内数)	36	44	36	36	35	0	51	36	37	311
		休日(内数)	10	37	8	8	8	0	0	0	3	74
	時間外等開館時間数	平日時間外開館	774	1,031	758	536	664	0	948	483	530	5,724
		土曜開館	289	352	288	288	280	0	408	105	296	2,306
		休日開館	80	288	64	64	64	0	0	0	24	584
	入館者数	年間入館者総数	337,480	246,463	168,256	75,493	113,532	1,621	95,970	97,876	52,624	1,189,315
		時間内(含:土日)	276,034	185,363	126,368	64,228	98,688	1,621	59,878	85,270	44,175	941,625
		平日時間外	61,446	61,100	41,684	11,265	14,844	0	16,765	12,606	8,449	228,159
		閉館時(無人)	0	0	204	0	0	0	19,327	0	0	19,531
土曜(内数)		13,876	18,616	8,475	2,501	2,622	0	4,794	5,769	2,511	59,164	
休日(内数)		3,433	11,080	2,464	350	688	0	0	0	303	18,318	
学外者(内数)		160	997	238	168	91	54	1,358	237	590	3,893	
うち一般市民	86	592	173	62	29	12	540	188	484	2,166		
貸出	貸出総冊数	67,133	77,478	39,855	18,977	18,925	2,210	10,198	16,043	15,424	266,243	
	利用者別	学生	44,861	23,898	24,937	4,812	11,457	171	5,547	11,176	8,780	135,639
		院生	16,120	41,338	12,578	11,211	6,096	884	1,002	3,073	4,251	96,553
		教員	3,480	6,098	1,355	2,172	718	720	828	1,377	1,278	18,026
		職員	1,719	2,433	633	636	332	249	2,739	332	627	9,700
		その他	81	40	38	0	1	186	44	7	103	500
		学外者総数	872	3,671	314	146	321	0	38	78	385	5,825
うち一般市民	467	0	0	0	0	0	0	0	266	733		
参考調査	参考調査件数	4,220	4,682	3,100	2,152	571	208	1,440	1,542	1,496	19,411	
	利用者別	学生	3,737	2,763	2,600	1,872	441	101	648	1,175	882	14,219
		教職員	430	280	250	162	63	83	504	130	132	2,034
		学外者	53	1,639	250	118	67	24	288	237	482	3,158
複写相互利用	来館複写件数	7,630	8,806	11,453	12,943	5,418	0	9,832	6,563	617	63,262	
	利用者別	学内者	7,310	6,524	10,964	12,607	5,228	0	6,846	6,089	443	56,011
		学外者	320	2,282	489	336	190	0	2,986	474	174	7,251
	学内相互利用	ILL文献複写 受付	72	200	158	309	127	120	316	245	180	1,727
		ILL文献複写 依頼	596	269	150	79	416	2	198	243	84	2,037
	図書配送	配送申込者数	728	1,054	469	292	698	0	79	295	134	3,749
		配送申込冊数	1,452	1,678	847	560	1,579	0	121	367	175	6,779
	学外相互利用	ILL文献複写 受付	324	4,564	1,620	869	545	377	1,467	732	378	10,876
		ILL文献複写 依頼	908	945	1,059	1,000	1,375	54	1,626	1,446	156	8,569
		ILL現物貸借 受付	287	1,500	187	514	195	31	8	17	118	2,857
		ILL現物貸借 依頼	305	301	94	767	251	14	12	10	5	1,759
	海外ILL	文献複写 受付	0	24	0	0	0	0	0	0	0	24
		文献複写 依頼	11	6	6	2	0	1	6	6	4	42
現物貸借 受付		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
現物貸借 依頼		3	9	1	5	0	0	0	0	0	18	

電子ジャーナルタイトル数 (H21.4)

13,400 (洋:12,500 + 和:900)

フリー合わせて総タイトル38,000

電子ジャーナルアクセス状況 (2009.1~12)

フルテキストへのアクセス数

	2009.1	2009.2	2009.3	2009.4	2009.5	2009.6	2009.7	2009.8	2009.9	2009.10	2009.11	2009.12	合計
Elsevier ScienceDirect	34,426	30,527	25,950	32,402	34,163	40,810	33,456	24,122	30,655	39,991	37,291	34,320	398,113
SpringerLINK	4,611	4,493	3,541	4,284	3,903	4,337	3,834	3,579	3,428	4,805	4,670	4,488	49,973
Wiley-Blackwell	7,245	6,341	5,816	6,332	6,592	7,243	6,617	4,980	4,266	9,789	7,848	6,088	79,157
JSTOR	2,892	3,164	2,245	3,249	3,501	3,352	4,189	2,556	2,866	4,179	4,454	4,696	41,343
Nature	4,918	3,859	3,999	4,739	5,850	6,453	5,293	3,467	4,156	4,786	4,573	4,176	56,269
Science Online	1,189	926	841	1,163	1,331	1,286	1,183	902	908	1,524	1,353	990	13,596
IEEE CSLSP-e	883	679	669	3,921	3,152	988	1,519	1,067	965	973	836	851	16,503
ACM Portal	1,332	1,368	948	1,775	1,898	2,274	1,683	1,243	1,070	1,848	1,833	1,187	18,459
APS	1,588	1,441	758	950	1,201	1,759	1,379	1,422	1,102	1,169	1,264	967	15,000
LWW via Ovid	1,468	1,640	1,670	1,272	1,455	1,929	1,465	1,481	1,392	1,232	1,058	1,346	17,408
ACS	4,685	4,240	2,880	4,811	6,249	6,462	4,837	3,868	4,245	7,416	5,619	4,344	59,656
Oxford UP	2,342	1,921	1,844	2,026	2,167	2,376	2,110	1,946	1,816	2,647	2,351	2,093	25,639
Cambridge UP	337	379	794	300	296	422	368	293	303	448	465	349	4,754

導入データベース数 (H21.4)

全学利用	38	WWWアクセス(外部サーバ)18、CD-ROMサーバ20
キャンパス限定(医学)	3	医学3(医中誌、EBMR、Up to date)
スタンドアロン	285	各館館内利用のみ

データベースアクセス状況 (2009.1~12)

各項上段がセッション数、下段(カッコ)が検索数

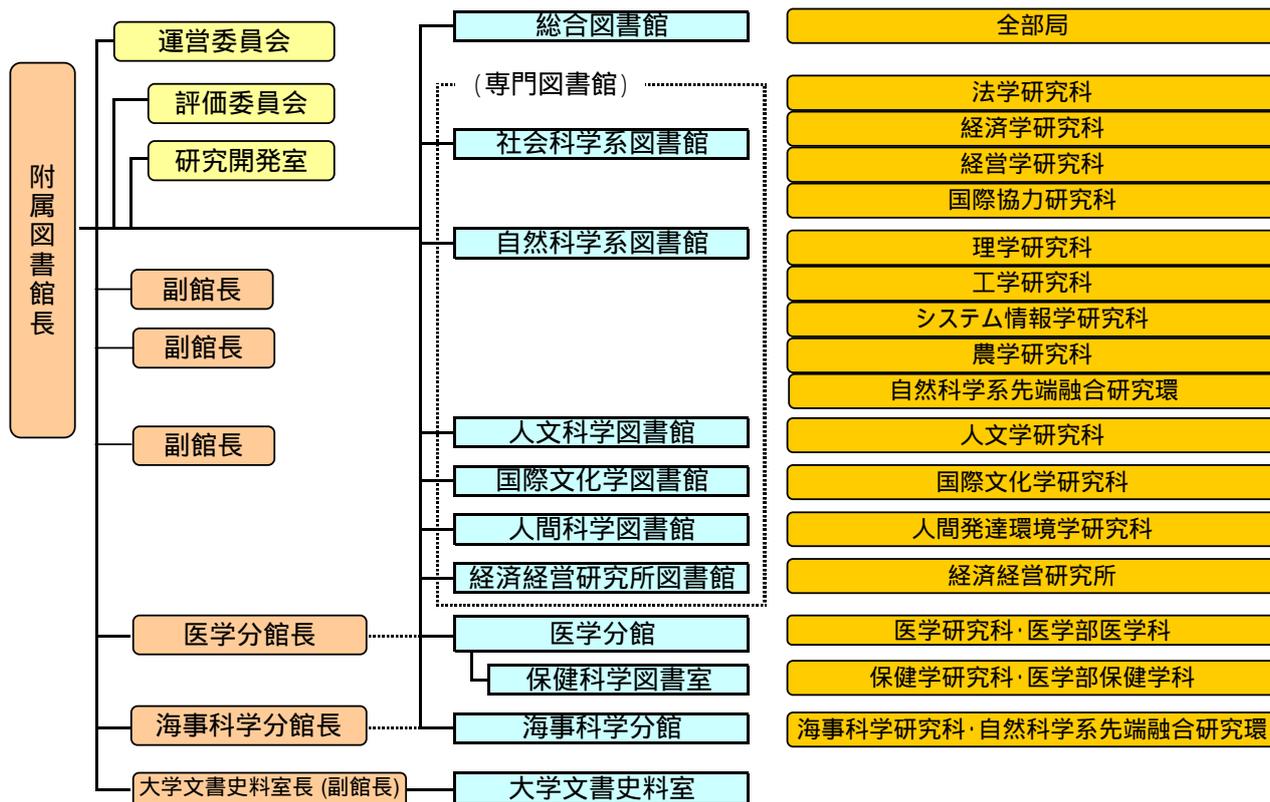
	2009.1	2009.2	2009.3	2009.4	2009.5	2009.6	2009.7	2009.8	2009.9	2009.10	2009.11	2009.12	合計
Web of Science SCIE	2,897 (8,347)	2,125 (2,877)	3,493 (4,516)	3,895 (9,950)	3,213 (11,283)	4,178 (13,436)	3,432 (10,468)	2,425 (7,288)	2,506 (9,079)	3,914 (13,476)	3,559 (11,340)	4,651 (20,326)	40,288 (122,386)
JCR	515 (797)	398 (587)	414 (587)	512 (693)	495 (647)	736 (892)	554 (903)	381 (542)	377 (517)	611 (892)	563 (696)	584 (817)	6,140 (3,242)
医学中央雑誌	7,081 (36,143)	6,746 (31,528)	6,658 (32,638)	7,371 (44,499)	7,787 (39,321)	8,816 (43,559)	7,083 (35,515)	6,273 (32,117)	6,250 (31,567)	7,977 (38,612)	8,609 (43,244)	6,676 (32,319)	87,327 (441,062)
MathSciNet	3,172 (3,945)	3,709 (4,453)	4,148 (4,753)	2,830 (4,001)	2,483 (3,157)	3,342 (3,875)	3,535 (4,173)	2,496 (3,184)	4,158 (5,207)	2,428 (3,181)	2,768 (3,680)	1,972 (2,749)	37,041 (46,358)
SciFinder scholar	347 (1,196)	289 (1,041)	209 (606)	577 (1,710)	498 (1,457)	579 (1,746)	475 (1,524)	316 (1,148)	406 (1,239)	505 (1,479)	451 (1,275)	453 (1,251)	5,105 (15,672)
Readers Guide to Periodical Literature	44 (89)	25 (59)	24 (35)	7 (39)	3 (3)	12 (60)	28 (99)	10 (16)	3 (43)	350 (454)	243 (298)	10 (20)	759 (1,215)
Business Periodicals Index	15 (31)	7 (19)	13 (17)	34 (118)	4 (9)	10 (40)	14 (53)	4 (13)	8 (63)	342 (437)	240 (292)	12 (25)	703 (1,117)
EconLit	115 (472)	103 (394)	102 (470)	137 (264)	168 (501)	187 (575)	244 (793)	84 (376)	92 (661)	103 (962)	193 (757)	104 (391)	1,632 (6,616)
Index to Legal Periodicals & Books	5 (17)	6 (16)	1 (0)	1 (8)	17 (80)	7 (9)	4 (10)	4 (15)	5 (19)	4 (40)	2 (5)	3 (10)	59 (229)
House of Commons Parliamentary Papers	*	*	*	*	*	*	30	20	6	11	7	10	84
理科年表	12	21	12	*	*	*	*	*	*	*	*	*	45
JapanKnowledge +NR	90 *	71 *	47 *	70 (189)	173 (1,278)	249 (1,119)	184 (1,077)	85 (868)	89 (653)	142 (1,019)	169 (2,072)	101 (549)	1,470 (8,824)
CiNii	7,823 (21,518)	5,140 (14,187)	2,975 (8,416)	5,892 (28,058)	5,567 (29,338)	7,934 (39,781)	7,083 (35,515)	4,221 (21,400)	4,295 (20,872)	7,576 (37,261)	7,919 (38,286)	7,235 (36,393)	73,660 (331,025)
日経テレコン21	160,791	36,568	44,955	102,704	103,052	125,486	233,396	115,633	139,368	122,426	149,652	127,933	1,461,964
聞蔵IIビジュアル	398 (5,618)	247 (4,600)	188 (2,761)	343 (5,085)	419 (7,104)	755 (10,731)	706 (3,363)	427 (7,486)	363 (6,198)	532 (10,102)	659 (18,244)	616 (12,644)	5,653 (93,936)
ヨミダス歴史館	*	*	*	315	239	889	1,153	656	2,273	1,902	2,237	976	10,640
毎日news/バック	*	*	*	223 (4,750)	246 (4,075)	746 (12,463)	740 (19,965)	379 (9,469)	357 (13,079)	970 (11,707)	981 (40,904)	634 (21,223)	5,276 (137,635)
MAGAZINEPLUS	316	213	165	385	385	523	371	210	194	368	340	311	3,087
Marquis Who's Who on the Web	*	*	*	86	5	5	20	20	2	2	14	6	160
JDreamII	302	664	356	705	403	962	316	389	192	436	552	473	4,428

官報は統計データ未公開 ヨミダス文書館+歴史館、毎日news/バック、Marquis Who's Who on the Webは2009.4より導入
 日経テレコン21 2007.7より全館利用可能 理科年表は2009.3まで JapanKnowledgeは2009.4より PlusNRにバージョンアップ
 WOS 2009.9より全分野可能、SCIE:1986~、ほかは1999~、2009.12よりSCIE:1971~検索可能
 House of Commons Parliamentary Papers (19c、20c) 2009.7より導入

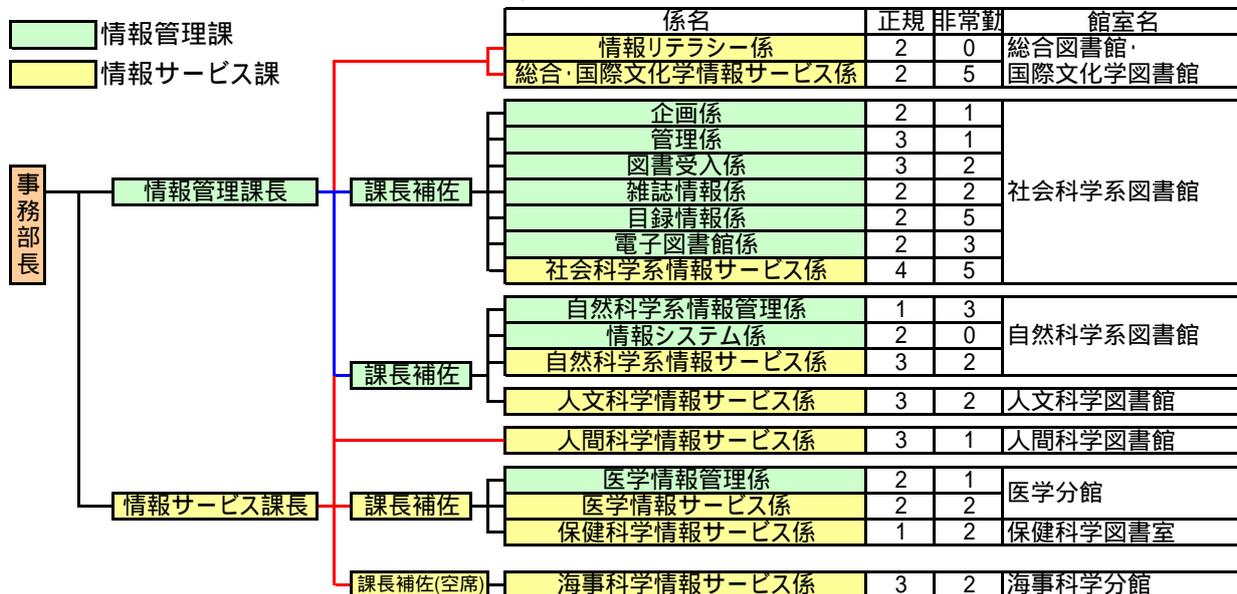
図書館ホームページ、OPAC等アクセス統計 (H21.4~H22.3)

	H21.4	H21.5	H21.6	H21.7	H21.8	H21.9	H21.10	H21.11	H21.12	H22.1	H22.2	H22.3	合計
図書館トップページ	67,575	72,579	82,285	74,613	59,259	51,389	68,131	64,481	61,870	63,060	52,517	52,459	770,218
(うち学内)	45,535	45,981	60,323	49,275	35,349	31,156	46,642	42,398	39,712	39,462	33,490	33,681	503,004
(うち学外)	22,040	26,598	21,962	25,338	23,910	20,233	21,489	22,083	22,158	23,598	19,027	18,778	267,214
震災文庫トップページ	2,590	2,839	2,746	3,054	2,936	2,842	3,144	3,033	3,320	5,349	2,577	2,836	37,266
(うち学内)	194	193	239	300	219	199	300	207	232	254	144	180	2,661
(うち学外)	2,396	2,646	2,507	2,754	2,717	2,643	2,844	2,826	3,088	5,095	2,433	2,656	34,605
新聞記事文庫トップページ	5,147	5,777	6,518	6,059	6,001	6,684	5,404	5,520	5,634	6,062	5,091	5,161	69,058
(うち学内)	95	52	91	52	61	84	120	102	149	72	57	78	1,013
(うち学外)	5,052	5,725	6,427	6,007	5,940	6,600	5,284	5,418	5,485	5,990	5,034	5,083	68,045
OPAC延べ検索回数	146,729	183,920	219,194	202,148	115,196	96,593	211,431	238,857	235,954	156,570	166,278	124,528	2,097,398
(うち学内)	116,996	117,644	167,515	155,459	79,826	68,341	131,923	118,596	113,484	112,824	81,858	58,413	1,322,879
(うち学外)	29,733	66,276	51,679	46,689	35,370	28,252	79,508	120,261	122,470	43,746	84,420	66,115	774,519

< 附属図書館組織図 >



< 附属図書館事務組織図 >



正規職員 48名 非常勤職員 39名(平成22年5月現在)

* 非常勤職員数は、夜間開館要員等、特定事業に関わるものを除く

経済経営研究所事務長	研究所図書係	3	1	経済経営研究所図書館
大学文書史料室長(副館長)	大学文書史料室	1	1	大学文書史料室

平成21年度附属図書館諸会議一覧

<附属図書館運営委員会>

第1回： 6月3日（水） 15:00～16:45（於：附属図書館プレゼンホール）

協議事項

- (1) 平成20年度決算について
- (2) 高額教育研究基盤図書の選定について
- (3) 平成21年度電子図書館事業について
- (4) 2010年外国雑誌購読調査について
- (5) 平成21年度総合図書館学生用資料整備計画について
- (6) 資料の不用決定について
- (7) その他

報告事項

- (1) 各図書館・室報告について
- (2) 平成21年度前期図書館ガイダンスについて
- (3) 図書の盗難について
- (4) その他

第2回： 10月5日（月） 13:30～15:15（於：附属図書館プレゼンホール）

協議事項

- (1) 教育研究基盤資料の整備について
- (2) 平成21年度補正予算による整備計画について
- (3) 平成21年度年次計画進捗状況及び次期中期計画年次計画について
- (4) 大学文書史料室の設置について
- (5) 資料の不用決定について
- (6) 学生用資料選定評価の共通フォーマットについて
- (7) その他

報告事項

- (1) 各図書館・室報告について
- (2) 平成21年度図書館各種ガイダンス（後期）について
- (3) 平成21年度展示会及び講演会の開催について
- (4) その他

第3回： 1月20日（水） 10:30～12:20（於：附属図書館プレゼンホール）

協議事項

- (1) 大学文書史料室の管理運営及び教員選考について
- (2) 平成21年度年度計画の進捗状況及び平成22年度計画について
- (3) 平成22年度電子図書館事業について
- (4) 平成22年度附属図書館予算要求について
- (5) 図書館関係規則の改正について
- (6) 利用者アンケート調査について
- (7) 資料の不用決定について
- (8) その他

報告事項

- (1) 各図書館・室報告について
- (2) 平成21年度展示会及び講演会について
- (3) 「先生からのおすすめ本」について
- (4) その他

第4回： 2月17日(水) 10:30～11:10 (於：附属図書館プレゼンホール)

協議事項

- (1) 大学文書史料室の教員選考について
- (2) 次期図書館システムについて
- (3) その他

報告事項

第5回： 3月24日(水) 10:30～12:10 (於：附属図書館プレゼンホール)

協議事項

- (1) 平成22年度附属図書館当初予算配分について
- (2) 平成22年度附属図書館学生用資料について
- (3) 大学文書史料室の管理運営について
- (4) 図書館関係規則の改正について
- (5) 資料の不用決定について
- (6) その他

報告事項

- (1) 平成20年度選定学生用図書の分析・評価結果について
- (2) 各図書館・室報告について
- (3) 教育研究活性化支援経費追加配分について
- (4) 平成21年度年度計画の達成度評価について
- (5) 利用者アンケート調査結果について
- (6) その他

<附属図書館長・副館長懇談会>

第1回： 4月22日(水) 13:30～ (於：社会科学系図書館)

議題

- (1) 附属図書館の現状と課題について
- (2) その他

<附属図書館長・副館長・分館長懇談会>

第1回： 6月1日(月) 10:30～ (於：附属図書館プレゼンホール)

議題

- (1) 平成20年度決算について
- (2) 高額教育研究基盤図書の選定について
- (3) その他

第2回： 10月5日(月)13:00～ (於：附属図書館プレゼンホール)

議題

- (1) 教育研究基盤資料の整備について
- (2) 平成21年度補正予算による整備計画について
- (3) 大学文書史料室の設置について
- (4) その他

第3回： 1月20日(水)9:30～ (於：附属図書館プレゼンホール)

議題

- (1) 大学文書史料室の管理運営及び教員選考について
- (2) 平成22年度電子図書館事業について
- (3) 平成22年度附属図書館予算要求について
- (4) その他

第4回： 2月8日(月)10:30～ (於：附属図書館プレゼンホール)

議題

神戸大学附属図書館大学文書史料室教員選考会議

第5回： 3月18日(木)10:30～ (於：附属図書館プレゼンホール)

議題

- (1) 平成22年度附属図書館当初予算配分について
- (2) 平成22年度附属図書館学生用資料について
- (3) 大学文書史料室の管理運営について
- (4) 平成20年度選定学生用図書の分析・評価結果について
- (5) その他

<附属図書館評価委員会>

第1回： 4月22日(水) (メール回議)

議題：

- (1) 第二期中期目標・中期計画(素案)(原案)に対する意見について

第2回： 6月26日(金) (メール回議)

議題：

- (1) 附属図書館年次報告の作成について

第3回： 10月5日(月)12:30～ (於：附属図書館プレゼンホール)

議題：

- (1) 平成21年度年次計画進捗状況及び次期中期計画年次計画について

第4回： 12月2日(水) (メール回議)

議題：

- (1) 平成22年度年度計画の作成について

第5回： 12月8日（火）（メール回議）

議 題：

（1） 平成22年度年度計画の作成について

第6回： 12月22日（火）（メール回議）

議 題：

（1） 平成22年度年度計画の作成について

第7回： 1月15日（金）（メール回議）

議 題：

（1） 附属図書館利用者アンケート調査の実施について

第8回： 2月12日（金）（メール回議）

議 題：

（1） 附属図書館の年度計画達成度報告について

<附属図書館研究開発室会議>

第1回： 5月25日（月） 10:30～（於：附属図書館プレゼンホール）

協議事項

（1） 平成21年度電子図書館事業計画について

第2回： 1月8日（金）（メール回議）

協議事項

（1） 平成22年度電子図書館事業について

（2） 平成22年度電子図書館事業経費要求案について

（3） 平成22年度遡及計画案について

<全学図書系係長会議>

第1回： 10月8日（木） 15:30～（於：附属図書館プレゼンホール）台風のため中止

議題

（1） 教育研究基盤資料の整備について

（2） 平成21年度補正予算による整備計画について

（3） 平成21年度年次計画進捗状況及び次期中期計画年次計画について

（4） 大学文書史料室の設置について

（5） 学生用資料選定評価の共通フォーマットについて

（6） 平成21年度展示会及び講演会の開催について

第2回： 1月27日（水） 15:00～（於：附属図書館プレゼンホール）

議題

（1） 附属図書館運営委員会報告について

（2） 平成21年度事業計画の進捗状況（各WG報告）について

第3回： 3月26日（金） 15:30～（於：附属図書館プレゼンホール）

議題

- (1) 附属図書館運営委員会報告について
- (2) 平成21年度事業計画の進捗状況（各WG報告）について

< 附属図書館運営委員会委員名簿 >

	職名	氏名	任期等
図書館長	法・教授	瀧澤 栄治	H21.4.1～H23.3.31
副館長 (社会科学系・図書委員長)	済・教授	滝川 好夫	H21.4.1～H23.3.31
副館長 (自然科学系・図書委員長)	理・教授	樋口 保成	H21.4.1～H23.3.31
副館長 (附属図書館評価委員長)	文・教授	福長 進	H21.4.1～H23.3.31
医学分館長	医・教授 医・教授	熊谷 俊一 横崎 宏	H19.6.1～H21.5.31 H21.6.1～H23.5.31
海事科学分館長	海・教授	井上 健	H20.4.1～H22.3.31
大学教育推進機構	教授	山内 乾史	H21.4.1～H23.3.31
人文学研究科	教授	市澤 哲	H21.4.1～H23.3.31
国際文化学研究科	教授	石原 享一	H20.4.1～H22.3.31
人間発達環境学研究科	教授	柳田 泰義	H20.4.1～H22.3.31
法学研究科	教授	佐藤 英明	H21.4.1～H23.3.31
経済学研究科	教授	吉井 昌彦	H20.4.1～H22.3.31
経営学研究科	教授	高嶋 克義	H21.4.1～H22.3.31
理学研究科	教授	足立 匡義	H20.4.1～H22.3.31
保健学研究科	教授	傳 秋光	H20.4.1～H22.3.31
工学研究科	教授	孫 玉平	H21.4.1～H23.3.31
農学研究科	教授	小野 雅之	H20.4.1～H22.3.31
国際協力研究科	教授	松並 潤	H21.4.1～H22.3.31
自然科学先端融合研究環	農・教授	前藤 薫	H21.4.1～H23.3.31
経済経営研究所	教授	下村 研一	H21.4.1～H23.3.31
学術情報基盤センター	教授	鳩野 逸生	H20.4.1～H22.3.31
附属図書館	事務部長	三原 英夫	官職指定による

< 附属図書館評価委員会委員名簿 >

職名 (委員は全て官職指定)	氏名	備考
図書館長	瀧澤 栄治	
副館長	滝川 好夫	
副館長	樋口 保成	
副館長	福長 進	委員長
医学分館長	熊谷 俊一 横崎 宏	H19.6.1～H21.5.31 H21.6.1～H23.5.31
海事科学分館長	井上 健	
事務部長	三原 英夫	
情報管理課長	奥田 正義	
情報サービス課長	星屋 真	

< 附属図書館研究開発室室員名簿 >

職名		氏名	備考
総括	図書館長	瀧澤 栄治	室長
震災関係資料 電子化部会	副館長(文)	福長 進	部会長
	国文・教授	大月 一弘	～H22.3.31
	都市安・教授	田中 泰雄	～H22.3.31
	文・教授	奥村 弘	～H22.3.31
経済関係資料 電子化部会	副館長(済)	滝川 好夫	部会長
	研究所・教授	富田 昌宏	～H22.3.31
	経済・教授	重富 公生	～H22.3.31
	文・准教	河島 真	～H22.3.31
学内研究成果 電子化部会	副館長(理)	樋口 保成	部会長
	農・教授	金子 治平	～H22.3.31
	国協・教授	木村 幹	～H22.3.31
	パイオ・准教	向井 秀幸	～H22.3.31
(部会に属さず)	基盤セ・教授	鳩野 逸生	～H22.3.31

平成21年度 附属図書館決算書

(単位:千円)

事 項	平成21年度 予 算 額	平成21年度 支 出 額	比較増減	摘 要
経常運営費				
備品・消耗品費	9,983	25,343	15,360	備品費 16,602 事務用品 1,912 図書館用品 2,598 用紙類 721 電算消耗品 2,017 蛍光灯類 434 雑用品 1,059
事務用図書費	800	745	55	
印刷製本費	700	598	102	図書館利用案内 455 リーフレット 57 封筒類 86
光熱水料	24,600	21,883	2,717	電気料金 16,895 ガス料金 2,216 上下水道料金 2,772
通信運搬費	6,600	6,655	55	切手 1,349 郵便料金 2,929 電話料金 267 学内資料搬送 2,110
借料及び損料	7,100	5,497	1,603	複写機 5,333 タクシー料金 164
雑役務等諸経費	37,000	34,576	2,424	管理費 5,442 機器修理 2,254 廃棄物収集運搬 1,414 特高設備 1,615 清掃委託 7,266 警備委託 4,896 ILベータ保守 6,245 消防設備点検 852 文献複写 1,029 その他保守・業務費 1,777 謝金 960 諸会費 205 雑費 621
非常勤職員給与等	93,000	89,991	3,009	給与 77,607 社会保険料 9,601 労働保険料 728 賞与引当金 2,055
電子計算機維持経費	120	20	100	
職員旅費	1,400	1,050	350	会議・研修会・講習会旅費 925 プリペイドカード 125
小 計	181,303	186,358	5,055	
経常事業費				
時間外開館経費	21,900	18,377	3,523	
外部委託経費	8,466	5,948	2,518	社会科学系図書館・医学分館
ビジョン推進経費	2,000	2,000	0	社会科学系図書館・医学分館
開館要員(学生)賃金	11,434	10,429	1,005	その他の館室分
電子図書館事業	20,000	19,981	19	
外部委託経費(コンテンツ作成)	6,000	4,183	1,817	
外部委託経費(学術成果リポジトリ)	1,500	1,179	321	
外部委託経費(遊及外注)	6,500	7,499	999	
リンクリゾルバ維持経費	2,000	1,682	318	
アルバイト経費	3,500	3,207	293	
消耗品費	500	2,231	1,731	
その他事業費	1,000	1,000	0	
展示会経費	1,000	1,000	0	
図書館資料費	106,000	106,677	677	
学生用資料費	64,500	71,160	6,660	
震災文庫資料費	500	275	225	
外国雑誌センター館経費	35,000	35,015	15	
電子的情報基盤資料整備経費	6,000	227	5,773	
製本費	12,600	15,104	2,504	
業務改善経費	6,120	0	6,120	
雑誌製本業務	3,240	0	3,240	
目録登録業務	2,880	0	2,880	
小 計	167,620	161,139	6,481	
運営費+事業費	348,923	347,497	1,426	
電算機借料				
図書館業務システム	13,869	13,869	0	学術情報基盤センターで一括処理
電子図書館システム	55,289	55,289	0	
小 計	69,158	69,158	0	
経常経費 計	418,081	416,655	1,426	

事 項	平成21年度 予 算 額	平成21年度 支 出 額	比較増減	摘 要
臨時的経費				
教育研究基盤資料整備費	300,000	300,000	0	外国雑誌を含む電子ジャーナル、データベース及び高額教育研究基盤圖書の維持及び整備のための経費
収入確保インセンティブ経費	7,243	4,692	2,551	
部局長裁量経費	13,827	17,864	4,037	防犯カメラ装置設置(人間、保健、海事) 防犯カメラ表示サインの設置(総合・国際、社系、自然系、人文、人間、医学、保健、海事) 電動式集密書架増設(総合・国際) 閲覧用書架増設(自然・保健) マイクロリダープリンター(人間) 貴重書収納保管庫(総合国際・海事) 大閲覧室閲覧機補修(社系)他
教育研究活性化支援経費	525	525	0	平成21年度「地域連携事業」選定事業
教育研究活性化支援経費	69,706	69,706	0	電子ジャーナル等バックファイルの整備(ELSEVIER Science Direct, Web of Science)
教育研究活性化支援経費(追加配分)	19,890	19,890	0	電子ジャーナルバックファイルの整備(Nature Archive, JSTOR)
職員研修費	1,470	1,470	0	
赴任旅費	75	75	0	
小 計	412,736	414,222	1,486	
外部資金				
科学研究費補助金(研究成果公開促進費)	13,300	13,300	0	戦前期新聞経済記事文庫データベース
国立情報学研究所C S I委託事業費	2,000	2,000	0	機関リポジトリ構築及び機関リポジトリに係る研究開発
山口哲子奨学寄付金	774	774	0	山口文庫資料購入
小 計	16,074	16,074	0	
臨時的経費 計	428,810	430,296	1,486	

図書館セグメント 計	846,891	846,951	60
------------	---------	---------	----

平成21年度 図書資料費実績

(附属図書館セグメント)

単位:千円

館室名	学生用資料				震災文庫資料費	外国雑誌センター	電子の情報基盤資料整備経費	教育研究基盤資料整備費		教育研究活性化支援経費	計***
	予算額*	決算額*	比較増減	図書購入冊数				電子ジャーナル等	高額教育研究基盤図書費		
総合図書館	15,272	16,269	997	4,084			227	279,997		89,596	386,089
社会科学系図書館	11,322	14,422	3,100	5,453	275	35,015			8,043		57,755
自然科学系図書館	14,213	14,683	470	3,226					1,175		15,858
人文科学図書館	2,786	3,546	760	514					3,024		6,570
国際文化学図書館	2,838	2,853	15	925					1,659		4,512
人間科学図書館	3,878	4,057	179	2,599					2,602		6,659
経済経営研究所図書館	1,000	927	73	117					0		927
医学分館	5,370	6,096	726	1,595					1,837		7,933
保健科学図書室	3,630	3,764	134	1,486					316		4,080
海事科学分館	4,191	4,543	352	3,104					1,347		5,890
小計	64,500	71,160	6,660	23,103	275	35,015	227	279,997	20,003	89,596	496,273

注* 図書その他 雑誌・新聞・電子資料などを含む

**電子ジャーナル経費・外国雑誌購読料補填経費

*** これ以外に、電子コンテンツ作成費 16,350千円(科研費補助金を含む)

(部局セグメント)

館室名	一般財源 図書資料費		
	館室備付 共同利用	研究室等 備付	計
総合図書館	1,079	2,127	3,206
社会科学系図書館	118,183	21,495	139,678
自然科学系図書館	22,363	18,270	40,633
人文科学図書館	9,877	6,556	16,433
国際文化学図書館	5,439	12,753	18,192
人間科学図書館	5,969	15,042	21,011
経済経営研究所図書館	20,341	1,105	21,446
医学分館	22,418	1,369	23,787
保健科学図書室	7,207	2,157	9,364
海事科学分館	6,684	2,036	8,720
計	219,560	82,910	302,470

(部局セグメント)

館室名	補助金等による購入				
	科研費	委任経理	受託研究	その他	計
総合図書館	0	0	0	0	0
社会科学系図書館	28,041	6,627	118	2,412	37,198
自然科学系図書館	9,632	1,319	2,101	66	13,118
人文科学図書館	11,329	233	128	131	11,821
国際文化学図書館	5,018	0	0	29	5,047
人間科学図書館	6,317	24	0	0	6,341
経済経営研究所図書館	1,173	0	0	0	1,173
医学分館	1,408	4,781	866	3,042	10,097
保健科学図書室	1,149	295	0	0	1,444
海事科学分館	935	366	7	0	1,308
計	65,002	13,645	3,220	5,680	87,547

(合計)

合計
389,295
234,631
69,609
34,824
27,751
34,011
23,546
41,817
14,888
15,918
886,290

平成21年度附属図書館活動日誌

< 4月 >

- 6 (月) 神戸大学新任教職員研修
＜於：瀧川 講師：サービス課長 受講：1名＞
- 7 (火) 入学式 ＜於：神戸ポートアイランドホール 出席：館長＞
- 8 (水) 第1回経済経営研究所図書館 図書委員会
国際文化学部院生オリエンテーション ＜於：国際文化学部＞
- 10 (金) 留学生ガイダンス ＜於：六甲ホール＞
- 13 (月)～24日 (金) 図書館ツアーガイダンス
＜於：総合・国際文化学図書館・保健科学図書室＞
- 14 (火)～15日 (水) 図書館ツアーガイダンス ＜於：社会科学系図書館＞
- 15 (水) 第1回人文科学図書館 図書委員会
理学部化学科オーダーガイダンス&自然科学系図書館ツアー
＜於：学術情報基盤センター演習室＞
- 16 (木) 大学図書館近畿イニシアティブ 能力開発専門委員会
＜於：関西学院大学 出席：管理課長補佐(自然)・目録情報係長＞
- 17 (金) 資料検索オーダーガイダンス&館内ツアー ＜於：国際文化学部＞
- 20 (月)～24日 (金) 図書館ツアーガイダンス
＜於：自然科学系図書館・人文科学図書館・人間科学図書館＞
図書館ガイダンス「医学分館ホームページを使いこなす(入門編)」
＜於：医学分館＞
- 22 (水) 第1回海事科学分館 図書委員会
第1回附属図書館 館長・副館長懇談会 ＜於：社会科学系図書館＞
部局長懇談会 ＜於：本部大会議室 出席：館長・部長＞
次期システムの導入時期に係る打合せ ＜於：学術情報基盤センター長室
出席：管理課長補佐(自然)・情報システム係長＞
- 23 (木) 近畿地区国立大学等職員採用図書系専門試験実施委員会
＜於：京都大学 出席：部長・管理課長＞
近畿地区国立大学図書館協会加盟館図書系人事担当課長・事務長懇談会
＜於：京都大学 出席：管理課長＞
国立大学図書館協会近畿地区協会 総会
＜於：京都大学 出席：館長・部長・管理課長＞
- 24 (金) 第1回附属図書館 評価委員会(メール回議)
第1回国際文化学図書館 図書委員会
資料検索オーダーガイダンス&館内ツアー
＜於：国際文化学部・人間科学図書館＞
- 28 (火) 第1回自然科学系図書館 図書委員会
- 30 (木) 第1回社会科学系図書館 図書委員会

< 5月 >

- 1 (金) 第1回人間科学図書館 図書委員会
図書館ツアーガイダンス ＜於：海事科学分館＞
- 7 (木) 情報基礎「情報の活用」 授業開始 ＜於：国際文化学部＞
- 8 (金) 資料検索オーダーガイダンス&館内ツアー ＜於：国際文化学部＞

- 図書館ツアーガイドンス < 於：海事科学分館 >
 1 1 (月) 日本医学図書館協会近畿地区例会
 < 於：関西医科大学 出席：サービス課長補佐(医学) >
 1 2 (火) 富士通「大学図書館ソリューションセミナー」
 < 於：富士通(株)神戸支社
 出席：情報システム係長・情報システム係員 >
 兵庫県大学図書館協議会 役員会・企画委員会合同会議
 < 於：社会科学系図書館 出席：部長・両課長・他 >
 神戸大学新任教職員研修 楠地区
 < 於：医学部 講師：サービス課長 >
 1 3 (水) 目録システム / I L Lシステム講習会担当者説明会
 < 於：国立情報学研究所 出席：目録情報係長 >
 1 8 (月) 国立大学図書館協会 会計監査
 < 於：東京大学 出席：部長・管理課長 >
 国立大学図書館協会 理事会
 < 於：東京大学 出席：館長・部長・管理課長 >
 1 8 (月) ~ 2 2 (金) インフルエンザによる休講及び夜間開館中止
 1 9 (火) 外国雑誌センター館会議
 < 於：東京大学 出席：部長・管理課長・雑誌情報係長 >
 2 0 (水) 第1回次期図書館システム導入検討WG < 於：自然科学系図書館 >
 2 2 (金) 図書館ツアーガイドンス < 於：海事科学分館 >
 2 5 (月) 第1回附属図書館 研究開発室会議 < 於：図書館プレゼンホール >
 2 6 (火) 兵庫県大学図書館協議会 第1回企画委員会
 < 於：大手前大学 出席：部長・両課長・他 >
- < 6月 >**
- 1 (月) 第1回附属図書館 館長・副館長・分館長懇談会
 < 於：図書館プレゼンホール >
 3 (水) 第1回附属図書館 運営委員会 < 於：図書館プレゼンホール >
 図書館資料の探し方オーダーガイドンス < 於：海事科学分館 >
 4 (木) SciFinder 操作説明会 < 於：自然科学系図書館 >
 SciFinder 授業 理化学研究室対象 < 於：自然科学系図書館 >
 1 0 (水) 第1回保健科学図書室 図書委員会
 1 2 (金) 研修会「図書館における資料保存」 < 於：大阪大学 受講：4名 >
 Web of Science 最新情報説明会 < 於：京都大学 出席：雑誌情報係員 >
 1 6 (火) N T Tデータ九州による図書館システム Nalis のデモ実施
 < 於：自然科学系図書館 >
 1 6 (火) ~ 1 7 (水) 雑誌論文の探し方ガイドンス(国内編・海外編)
 < 於：自然科学系図書館 >
 1 7 (水) ~ 1 8 (木) 防火管理講習(甲種)
 < 於：神戸市防災コミュニティセンター 受講：サービス課長 >
 1 8 (木) Web of Science 操作説明会 < 於：自然科学系図書館 >
 1 9 (金) 国立大学図書館協会 総会 < 於：新潟コンベンションセンター
 出席：館長・部長・サービス課長 >
 2 0 (土) 国立大学図書館協会 館長フォーラム

- < 於：新潟コンベンションセンター 出席：館長 >
 国立大学図書館協会 マネジメントセミナー
 < 於：新潟コンベンションセンター 出席：部長・サービス課長 >
 23 (火) 大学図書館近畿イニシアティブ 運営委員会
 < 於：図書館プレゼンホール
 出席：部長・管理課長・管理課長補佐(社会)・企画係長 >
 23 (火) ~ 24 (水) 目録システム講習会(図書コース) 講師ガイダンス
 < 於：京都大学 出席：目録情報係長・情報システム係員 >
 24 (水) 学術情報ソリューションセミナー「学術情報流通の現代と未来」
 < 於：大阪会場ヒルトンプラザ
 出席：電子図書館係長・人文科学情報サービス係員・雑誌情報係員 >
 25 (木) 第2回国際文化学図書館 図書委員会
 26 (金) 第2回附属図書館 評価委員会(メール回議)
 29 (月) 海外(人文社会科学分野) 国内データベース活用セミナー(海外編)
 < 於：大阪産業創造館 受講：1名 >
 30 (火) 海外(人文社会科学分野) 国内データベース活用セミナー(国内編)
 < 於：大阪産業創造館 受講：1名 >
 KHAN2009 説明会
 < 於：理学部 出席：管理課長補佐(自然)・情報システム係長 >
 30 (火) ~ 7月2日(木) 情報の探し方ガイダンス・電子ジャーナル/雑誌論文の探し方
 < 於：総合・国際文化学図書館 >

< 7月 >

- 6 (月) 事務サーバー統合IBMデモ見学会
 < 於：IBM大阪事業所 出席：管理課長補佐(自然) >
 6 (月) ~ 7 (火) 日本医学図書館協会 総会
 < 於：国立保健医療科学院 出席：サービス課長補佐(医学) >
 6 (月) ~ 17 (金) 大学図書館職員長期研修 < 於：筑波大学 受講：1名 >
 筑波大学よりインターンシップ受入 < 実習生：1名 >
 7 (火) 大学図書館近畿イニシアティブ 能力開発専門委員会
 < 於：関西学院大学 出席：目録情報係長 >
 8 (水) 第2回人文科学図書館 図書委員会
 富士通図書館システムデモ iLiswave・電子図書館システム・iLisSurf
 < 於：自然科学系図書館 >
 9 (木) ~ 10 (金) 国立情報学研究所 C S I 委託事業報告交流会(コンテンツ系)
 < 於：学術総合センター 出席：電子図書館係長・電子図書館係員 >
 10 (金) 第2回人間科学図書館 図書委員会
 13 (月) ~ 15 (水) 西洋古典資料保存講習会 < 於：一橋大学 受講：1名 >
 13 (月) ~ 8月6日(木) 前期試験期間特別開館(人文科学図書館)
 16 (木) 医学中央雑誌ユーザー会2009
 < 於：新大阪ワシントンプラザ 出席：医学情報サービス係員 >
 第2回経済経営研究所図書館 図書委員会
 16 (木) ~ 8月7日(金) 前期試験期間特別開館
 (総合・国際文化学図書館・自然科学系図書館・人間科学図書館)
 23 (木) 「職場における応接とマナー」研修 < 於：理学部 受講：11名 >

- 23(木)～8月7日(金) 前期試験期間特別開館(社会科学系図書館)
 24(金) 遺跡資料リポトリ懇談会 <於:自然科学系図書館
 出席:部長・管理課長・管理課長補佐(自然)>
 26(日) 近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験 第一次試験
 27(月) 官公需確保対策地方推進協議会 <於:兵庫県民会館 出席:管理係員>
 第2回保健科学図書室 図書委員会(メール回議)
 27(月)～8月11日(火) 前期試験期間特別開館(海事科学分館)
 28(火) アプリケーションソフト研修(エクセル応用)
 <於:百年記念館 受講:2名>
 図書館システム仕様策定委員会 <於:自然科学系図書館
 出席:管理課長補佐(自然)・電子図書館係長・情報システム係員>
 29(水) 図書館連携作業部会WG6
 <於:国立情報学研究所 出席:電子図書館係長>
 30(木) 兵庫県大学図書館協議会 総会
 <於:大手前大学 出席:館長・部長・両課長他>
 救急講習会 <於:図書館プレゼンホール 受講:5名>
 30(木)～31(金) アプリケーションソフト研修(アクセス基礎)
 <於:百年記念館 受講:1名>

< 8月 >

- 3(月) アプリケーションソフト研修(パワーポイント総合)
 <於:百年記念館 受講:1名>
 3(月)～4(火) 国立大学協会近畿支部研修 <於:理学部 受講:1名>
 4(火) 第3回人間科学図書館 図書委員会
 5(水)～7(金) 学術ポータル担当者研修
 <於:名古屋大学 講師:電子図書館係長 受講:1名>
 6(木) 学術情報基盤センター調整会議
 <於:自然科学系図書館 出席:サービス課長・情報システム係長>
 17(月) 近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験 第一次試験合格発表
 18(火) 近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験 機関訪問
 <於:図書館プレゼンホール>
 19(水)～21(金) 第一種衛生管理者受講準備講習会 <於:理学部 受講:2名>
 20(木) 近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験 機関訪問
 <於:図書館プレゼンホール>
 第4回人間科学図書館 図書委員会
 パソコン利活用(初級) <於:百年記念館 受講:1名>
 21(金) パソコン利活用(中級) <於:百年記念館 受講:1名>
 新財務会計システム(資金関係)概要説明会
 <於:本部大会議室 出席:管理係員>
 23(日) 近畿地区国立大学法人等職員採用図書系 専門試験
 <於:京都大学 出席:部長・両課長>
 24(月) パソコン利活用(中級) <於:百年記念館 受講:1名>
 24(月)～25(火) 近畿地区国立大学法人等職員採用図書系 第二次試験 面接
 <於:図書館プレゼンホール>
 24(月)～28(金) 閉館(海事科学分館)

- 25 (火) 大学図書館近畿イニシアティブ 能力開発専門委員会
 < 於：関西学院大学 出席：目録情報係長 >
 インターネットセキュリティ(基礎) < 於：百年記念館 受講：1名 >
 26 (水) 救急講習会 < 於：図書館プレゼンホール 受講：3名 >

< 9月 >

- 1 (火) 古文書合宿事前指導 < 於：文学部 受講：5名 >
 2 (水) ~ 4 (金) 古文書合宿 < 於：大山寺なでしこの湯 受講：2名 >
 図書館等職員著作権実務講習会 < 於：京都大学 受講：1名 >
 目録システム講習会 < 於：学術情報基盤センター分館 受講：4名 >
 11 (金) 遺跡資料リポジトリ・プロジェクト担当者連絡・調整会議
 < 於：大阪大学 出席：管理課長補佐(自然)・電子図書館係長 >
 15 (火) ~ 16 (水) 洋装古典籍修復講習会 < 於：自然科学系図書館
 講師：海事科学情報サービス係員 受講：11名 >
 16 (水) 学長と部局長等との個別懇談
 < 於：図書館プレゼンホール 出席：館長 >
 17 (木) 第2回自然科学系図書館 図書委員会(メール回議)
 大学文書史料室について打合せ < 於：理事室 出席：館長 >
 18 (金) 近畿地区リポジトリ実務者研修
 < 於：大阪大学 講師：電子図書館係長 受講：1名 >
 25 (金) 学内会計監査 < 於：社会科学系図書館 >
 事務系幹部職員・局長面談 < 於：事務局長室 出席：部課長 >
 28 (月) 第一種衛生管理者試験 < 於：近畿安全衛生技術センター 受験：2名 >
 第3回保健科学図書室 図書委員会(メール回議)
 大学文書史料室について打合せ
 < 於：自然科学系図書館 出席：管理課長・管理課長補佐(自然) >
 29 (火) ~ 10月2日(金) 大学図書館職員短期研修 < 於：京都大学 受講：1名 >
 30 (水) 図書館システム導入説明会 < 於：自然科学系図書館
 出席：管理課長補佐(自然)・情報システム係長・管理係他 >

< 10月 >

- 2 (金) 大学図書館職員短期研修 < 於：京都大学 講師：情報システム係員 >
 5 (月) 第3回附属図書館 評価委員会 < 於：図書館プレゼンホール >
 第2回附属図書館 館長・副館長・分館長懇談会
 < 於：図書館プレゼンホール >
 第2回附属図書館 運営委員会 < 於：図書館プレゼンホール >
 5 (月) ~ 9 (金) 漢籍担当職員講習会初級 < 於：京都大学 受講：1名 >
 6 (火) 兵庫県大学図書館協議会 第1回機関リポジトリ支援のためのWG
 < 於：図書館プレゼンホール
 出席：管理課長補佐(自然)・電子図書館係長 >
 第3回経済経営研究所図書館 図書委員会
 6 (火) ~ 9 (金) 近畿地区国立大学法人等会計事務研修 < 於：京都大学 受講：1名 >
 8 (木) 第1回附属図書館 係長会議 台風のため中止
 9 (金) 大学図書館近畿イニシアティブ 能力開発専門委員会
 < 於：大阪市立大学 出席：目録情報係長 >

- 大学文書史料室について打合せ
 < 於：社会連携課 出席：管理課長・管理課長補佐（自然）>
 留学生ガイダンス < 於：六甲ホール >
- 9（金）～1月22日（金）合同資料展「資料が語る阪神・淡路大震災の記憶と現在（いま）」
 < 於：震災文庫・社会科学系図書館展示室・人と防災未来センター >
- 13（火） 展示会见学 < 於：人と防災未来センター 参加：6名 >
- 13（火）～23（金） 韓国海洋大学より研修者受入（研修者：2名）
- 14（水） オーダーガイダンス < 於：人間科学図書館 >
- 第3回人文科学図書館 図書委員会
- 15（木）～16（金） 大学図書館近畿イニシアティブ 中級研修
 「行動するライブラリアンをめざして」
 < 於：大阪市立大学 研修実施要員：目録情報係長 受講：4名 >
- 16（金） 人と防災未来センターより展示会见学者来館 < 於：社会科学系図書館 >
- 20（火）～22（木） 雑誌論文の探し方ガイダンス（国内編・海外編）
 < 於：自然科学系図書館 >
- 21（水）～23（金） 学術情報リテラシー教育担当者研修 < 於：大阪大学 受講：1名 >
- 23（金） 専門図書館協議会関西地区協議会 イブニングセミナー
 < 於：大阪商工会議所 講師：電子図書館係長 >
- 26（月）～29（木） 会計監査人による期中監査
- 27（火） 兵庫県大学図書館協議会 施設見学会
 < 於：大阪大学附属図書館ラーニングコモンズ 参加：6名 >
- 29（木）～30（金） 大学図書館職員短期研修 < 於：東京大学 講師：情報システム係員 >
 N A I S T 電子図書館学講座
 < 於：奈良先端科学技術大学院大学 受講：1名 >
- 31（土） 第4回神戸大学ホームカミングデー
 < 於：六甲台 社会科学系図書館・展示会・震災文庫 見学受入 >
- < 11月 >**
- 5（木）～6（金） 科学技術情報研修 < 於：国立国会図書館関西館 受講：1名 >
- 5（木）～11（水） トライやるウィーク 神戸市立長峰中学校（1名）
 神戸市立上野中学校（2名）
 神戸市立鷹匠中学校（2名）
- 10（火） 日経テレコン21操作講習会 < 於：社会科学系図書館 >
- 10（火）～12（木） 図書館総合展
 < 於：パシフィコ横浜 出席：電子図書館係長・雑誌情報係員 >
- 10（火）～13（金） 西洋社会科学古典資料講習会 < 於：一橋大学 受講：1名 >
- 11（水） 年次計画等に関するヒアリング < 於：大会議室 >
- 雑誌論文の探し方ガイダンス（国内編・海外編）
 < 於：社会科学系図書館 >
- 18（水） 財務会計システム図書館連携調査
 < 於：九州大学附属図書館 出席：情報システム係長・図書受入係員 >
- 第4回人文科学図書館 図書委員会
 第5回人間科学図書館 図書委員会
- 19（木） 兵庫県大学図書館協議会 第2回機関リポジトリ支援のためのWG
 < 於：関西学院大学図書館 >

- 出席：管理課長補佐（自然）・電子図書館係長＞
 兵庫県大学図書館協議会 講演会 <於：関西学院大学図書館
 出席：管理課長補佐（社会）・電子図書館係長＞
- 20（金） 国立大学図書館協会シンポジウム
 <於：図書館プレゼンホール 出席：5名＞
- 25（水） 施設キャラバン
 <於：社会科学系図書館 出席：館長・部長・両課長・管理係長＞
- 27（金） シンポジウム：遺跡資料リポジトリ
 <於：大阪大学 出席：管理課長補佐（自然）・電子図書館係長＞
 京都大学図書館機構第2回講演会「次世代OPACを考える」
 <於：京都大学 受講：4名＞
 医学図書館協会近畿地区会例会
 <於：大阪医科大学 出席：サービス課長補佐（医学）＞
 第3回国際文化学図書館 図書委員会
 第2回海事科学分館 図書委員会
- 28（土） 講演会「資料が語る阪神・淡路大震災の記憶と現在（いま）」
 <於：人と防災未来センター 出席：館長・サービス課長・他＞
- < 12月 >
- 1（火） 大学図書館近畿イニシアティブ 能力開発専門委員会
 <於：関西学院大学 出席：目録情報係長＞
- 2（水） 第4回附属図書館 評価委員会（メール回議）
- 2（水）～3（木） 雑誌論文の探し方ガイダンス <於：保健科学図書室＞
- 3（木）～4（金） DRFIC2009：デジタルリポジトリ連合国際会議2009
 <於：東京工業大学 出席：電子図書館係長＞
- 7（月） ILLシステム講習会 <於：国立情報学研究所 受講：1名＞
- 7（月）～8（火） 学内会計事務研修 <於：理学部 受講：2名＞
- 8（火） 文部科学省科学技術・学術総括官来館（社会科学系図書館）
 第5回附属図書館 評価委員会（メール回議）
- 9（水） 国立大学図書館協会近畿地区協会 事務連絡会
 <於：京都大学 出席：部長・両課長＞
 第5回人文科学図書館 図書委員会
- 10（木） 定期実査立会（社会科学系図書館・自然科学系図書館）
- 11（金） 第2回社会科学系図書館 図書委員会（メール回議）
- 14（月） 松山大学より来館者2名「歴史資料室に関する調査」
 <於：社会科学系図書館＞
- 15（火） 新財務会計システムにかかる運用説明会 <於：図書館プレゼンホール＞
 神大nextさろん <発表：電子図書館係長＞
- 16（水） 大学におけるコンピュータソフトウェア管理セミナー
 <於：理学部 出席：情報システム係員＞
- 17（木） 兵庫県大学図書館協議会 研究会
 <於：関西学院大学 講師：電子図書館係長 出席：5名＞
- 18（金） 事務打合せ <於：京都大学文書館 出席：部長・管理課長＞
 兵庫県大学図書館協議会 第3回機関リポジトリ支援のためのWG
 <於：関西学院大学 出席：管理課長補佐（自然）・電子図書館係長＞

- ライブラリ・コネクト・ワークショップ2009情報リテラシー教育
 <於：梅田ブリーゼブラザ 出席：2名>
 神戸大学環境シンポジウム <於：六甲台講堂 出席：部長>
- 22(火) 研修会「写真フィルムの保存について」 <於：大阪大学 受講：1名>
 第6回附属図書館 評価委員会(メール回議)
- 24(木) 国立大学図書館協会シンポジウム「学術情報流通の改革を目指して」
 <於：東京大学 出席：館長・部長・管理課長>
- 25(金) シスメックス(株)より旧西塚学長のDVD寄贈式
 <於：本部特別会議室 出席：館長・部長・管理課長>
- <1月>
- 8(金) 第2回附属図書館 研究開発室会議(メール回議)
- 15(金) 第7回附属図書館 評価委員会(メール回議)
- 18(月) 地域連携活動発表会 <於：瀧川 発表：サービス課長 出席：9名>
 第4回経済経営研究所図書館 図書委員会
- 20(水) 第3回附属図書館 館長・副館長・分館長懇談会
 <於：図書館プレゼンホール>
 第3回附属図書館 運営委員会 <於：図書館プレゼンホール>
- 20(水)~22(金) 日本古典籍講習会 <於：国文学研究資料館 受講：1名>
- 21(木)~22(金) 情報リテラシー教育担当者研修会(中国四国地区)
 <於：広島大学 受講：1名>
 新財務会計システム：部局会計業務担当者向け説明会 1日コース
 <於：本部中会議室 出席：2名>
- 22(金) 事務打合せ <於：名古屋大学 出席：部長>
 兵庫県大学図書館協議会 第4回機関リポジトリ支援のためのWG
 <於：自然科学系図書館
 出席：管理課長補佐(自然)・電子図書館係長>
- 25(月) 施設部とバックナンバーセンター構想の打合せ
 <於：施設部 出席：部長、両課長・管理課長補佐(社会)・管理係長>
- 25(月)~2月21日(日) 附属図書館利用者アンケート
- 26(火)~27(水) 新財務会計システム：事務局等担当業務別操作説明会 契約管理
 4時間コース <於：財務会計支援室 出席：2名>
- 27(水) 大学図書館近畿イニシアティブ 能力開発専門委員会
 <於：大阪府立大学 出席：目録情報係長>
 第2回附属図書館 係長会議 <於：図書館プレゼンホール>
- 28(木) 広報研修会 <於：瀧川 受講：3名>
- 28(木)~29(金) 新財務会計システム：各図書館(図書受入)業務担当者向け説明会
 1日コース <於：財務会計支援室 出席：22名>
- <2月>
- 1(月) 新財務会計システム：事務局等担当業務別操作説明会 旅費・謝金管理
 4時間コース <於：財務会計支援室 出席：1名>
- 2(火)~6(土) 保健科学図書室 屋上コンクリート工事
- 3(水) 神戸大学公開シンポジウム「出光佐三の経営理念と日本型資本主義」
 <於：六甲台講堂 出席：8名>

- 4 (木) ~ 5 (金) 外国雑誌センター館の管理運営調査
 < 於: 一橋大学・東京工業大学 出席: 雑誌情報係長・雑誌情報係員 >
- 5 (金) 指定建築物 (大規模事業用建築物) の廃棄物管理責任者研修会
 < 於: 神戸文化ホール 受講: 1名 >
 新財務会計システム: 事務局等担当業務別操作説明会 現金収納窓口
 < 於: 財務会計支援室 出席: 8名 >
- 5 (金) ~ 6 (土) 第6回DRFワークショップ
 < 於: 北海道大学 出席: 電子図書館係長 >
- 6 (土) 大学アーカイヴズに関する研究会 < 於: 京都大学 出席: 管理課長 >
- 8 (月) 第4回附属図書館 館長・副館長・分館長懇談会
 < 於: 図書館プレゼンホール >
- 8 (月) ~ 3月3日 (水) 保健科学図書室 屋上防水改修工事
- 9 (火) 目録システム / ILLシステム講習会担当者会議
 < 於: 国立情報学研究所 出席: 目録情報係長 >
- 9 (火) ~ 10 (水) 新財務会計システム: 旅費 (旅行申請) 業務担当者向け説明会
 4時間コース < 於: 瀧川・理学部 出席: 3名 >
- 10 (水) 図書館システム仕様策定委員会 < 於: 自然科学系図書館 出席: 5名 >
 附属図書館職員 (係員) 懇談会
 < 於: 自然科学系図書館 出席: 館長、部長、両課長、係員18名 >
- 12 (金) 第8回附属図書館 評価委員会 (メール回議)
- 15 (月) 学生との懇談会 < 於: 社会科学系図書館 出席: 7名 >
- 15 (月) ~ 16 (火) 大学文書史料室設置に伴う図書館管理運営調査
 < 於: 長崎大学図書館・九州大学大学文書館 出席: 部長・企画係長 >
- 消防設備点検 (社会科学系図書館・管理棟)
- 17 (水) 第4回附属図書館 運営委員会 < 於: 図書館プレゼンホール >
 平成23年度概算要求 (特別経費) 及び平成22年度事業計画学内説明聴取
 < 於: 自然科学総合研究棟 出席: 7名 >
- 18 (木) 兵庫県図書館協会第2回研究集会「利用者が使いやすいOPAC」
 < 於: 加古川市立中央図書館 出席: 9名 >
- 18 (木) ~ 19 (金) 自然科学系図書館の増築に伴う自動化書庫調査
 < 於: 九州大学伊都図書館・長崎市立図書館 出席: サービス課長・
 自然科学系情報サービス係員・医学情報サービス係員 >
 自然科学系図書館の増築に伴う自動化書庫調査
 < 於: 東京大学柏図書館・国際基督教大学
 出席: 管理課長補佐 (社会)・管理係長・自然科学系情報管理係員 >
- 19 (金) 公立大学協会図書館協議会 近畿地区協議会講演会
 「地域連携による図書館サービスの新たな展開にむけて」
 < 於: 神戸市外国語大学 出席: 1名 >
 六甲台6部局合同自衛消防訓練
 < 於: 兼松記念館・六甲台グラウンド 参加: 4名 >
- 20 (土) 停電に伴う臨時休館 (社会科学系図書館)
- 22 (月) 人事ヒアリング < 於: 事務局 出席: 部課長 >
 会計業務システム謝金管理説明会 < 於: 財務会計支援室 出席: 1名 >
- 22 (月) ~ 3月19日 (金) 社会科学系図書館エレベーター改修
- 23 (火) 京都大学図書館機構実務 (レファレンス)

- 「海外の資料・情報の探し方講座：中国関係資料編」
 <於：京都大学 出席：4名>
 資金管理に関する内部監査（社会科学系図書館）
- 23（火）～24（水） 消防設備点検（フロンティア館）
- 24（水） 第6回人文科学図書館 図書委員会
 第3回自然科学系図書館 図書委員会
 第3回海事科学分館 図書委員会
- 25（木） 環境配慮契約法基本方針説明会 <於：兵庫県庁 出席：管理係長>
- 25（木）～26（金） 国立国会図書館レファレンス研修 <於：国立国会図書館 受講：1名>
 研修会「古典資料の取扱いにチャレンジ - 洋古書編 -」
 <於：大阪大学 受講：9名>
 兵庫県大学図書館協議会 第5回機関リポジトリ支援のためのWG
 <於：自然科学系図書館
 出席：管理課長補佐（自然）・電子図書館係長>
- 26（金） 入試（実技試験）に伴う臨時休館（人間科学図書館）
- < 3月 >**
- 4（木） 前期日程追試験に伴う臨時休館（社会科学系図書館・自然科学系図書館・
 人文科学図書館・経済経営研究所図書館）
- 5（金） メンタルヘルス・ハラスメント研修会 <於：瀧川 受講：3名>
- 8（月） 教員向け操作説明会：購買発注機能等発生源入力機能説明
 <於：工学研究科 出席：図書受入係、自然科学系情報管理係>
- 8（月）～9（火） 大学文書史料室設置に伴う図書館管理運営調査
 <於：国立公文書館・名古屋大学大学文書資料室
 出席：管理課長・人間科学情報サービス係員>
 総合・国際文化学図書館 集密書架設置
- 9（火） 国立国会図書館講演会「これからの大学図書館」
 <於：国立国会図書館関西館 受講：2名>
 管理下のない放射性同位元素等に関する一斉点検 実施説明会
 <於：社会学系図書館 出席：14名>
 教員向け操作説明会：購買発注機能等発生源入力機能説明
 <於：人間発達環境学研究科
 出席：図書受入係、人間科学情報サービス係>
- 9（火）～15（月） 管理下のない放射性同位元素等に関する一斉点検 点検実施者による点検
 <於：全館室>
- 10（水） 第6回人間科学図書館 図書委員会
 第4回保健科学図書室 図書委員会（メール回議）
 教員向け操作説明会：購買発注機能等発生源入力機能説明
 <於：六甲台講堂 出席：図書受入係、経済経営研究所図書係>
- 10（水）～11（木） 総合・国際文化学図書館 学生アルバイトによる資料移動作業
- 11（木） 大学図書館近畿イニシアティブ 運営委員会
 <於：立命館大学 出席：管理課長>
 第3回社会科学系図書館 図書委員会
- 12（金） 第4回国際文化学図書館 図書委員会（メール回議）
- 15（月） 第1回医学分館 図書委員会

- 教員向け操作説明会：購買発注機能等発生源入力機能説明
 < 於：国際文化科学研究科
 出席：図書受入係、総合国際情報サービス係 >
- 16 (火) 教員向け操作説明会：購買発注機能等発生源入力機能説明
 < 於：海事科学研究科 出席：図書受入係、海事科学情報サービス係 >
- 16 (火) ~ 23 (火) 管理下でない放射性同位元素等に関する一斉点検 点検責任者による点検
 < 於：全館室 >
- 17 (水) 教員向け操作説明会：購買発注機能等発生源入力機能説明
 < 於：農学研究科 出席：図書受入係、自然科学系情報管理係 >
- 18 (木) 第6回大学図書館近畿イニシアティブ 能力開発専門委員会
 < 於：関西学院大学 出席：目録情報係長 >
 第5回附属図書館 館長・副館長・分館長懇談会
 < 於：図書館プレゼンホール >
- 教員向け操作説明会：購買発注機能等発生源入力機能説明
 < 於：医学研究科 出席：図書受入係、医学情報管理係 >
- 19 (金) 兵庫県大学図書館協議会 第6回機関リポジトリ支援のためのWG
 < 於：武庫川女子大学 出席：管理課長補佐(自然) 電子図書館係長 >
- 23 (火) 教員向け操作説明会：購買発注機能等発生源入力機能説明
 < 於：医学研究科 出席：図書受入係、医学情報管理係 >
- 24 (水) 第5回附属図書館 運営委員会 < 於：図書館プレゼンホール >
- 25 (木) 神戸大学学位授与式 < 於：神戸ポートアイランドホール 出席：館長 >
- 26 (金) 第3回附属図書館 係長会議 < 於：図書館プレゼンホール >
- 29 (月) 永年勤続者表彰式 < 於：六甲ホール >
- 31 (水) 大閲覧室 機の修復完了(社会科学系図書館)

